

385
431



始





2229



現代人の
新住家

西村伊作



大正
15. 3. 29
購求

序

「樂しき住家」は私が最初に出した書物で、そして、それが非常に歓迎され、愛読されて、版を重ねるのに忙しかつたのですが、昨年震災のとき版を全部焼いてしまひました。

けれども、そのまゝ絶版にするのは惜しいし、その後も多くの人から要求されますので、今回新たに版を組み直し、文章も訂正、増補し、そして挿畫は全部新しいものに取かへて、出版することにしました。

それで書名をも「現代人の新住家」としました。

「樂しき住家」を書いた時の考へと今日とはあまりちがつて居ません。今日「樂しき住家」を見ても少しも遅^{おく}れて居ると思ひません。却つて自分が書いて忘れて居たところなんかを讀んで「あゝそうだつた」と氣付く事が多いのです。

「樂しき住家」を讀まれた方も、どうか是非此の書をも一度御覽下さることを切望します。

目次

1 楽しい生活のため

楽しい生活の基點
ざれ位の家
家を建てる金

—

2 よい土地

よい景色
土地撰擇の條件
淋みしい不便な土地
よい樹木

九

3 西洋風の家

世界共通
西洋住宅の間取り

一〇

4 設計

- 簡易な家
- 居間と食堂
- 玄関とポーチ
- 寝室と日本座敷
- 浴室と便所

自身の設計

室の大きさ

土地との関係

室の位置方向

暖爐

扉

窓

天井の高さ

5 構造

- 屋根の作り方
- 和洋並立の家

建築材料

米國の木造の構造

地形と地下室

小屋組

家根裏

屋根葺材料

6 外廻り

- 外壁
- 防濕の壁
- 窓の色々
- 障子

暖爐の構造
軒

7 スタイル……………三三

イングリッシュコッタージ

コロニアルスタイル

ス井ス コッタージ

ロツグ キヤビン

現代住宅

セセツシヨソ

ヌーボー式

ミツシヨソスタイル

バンガロー

8 内部……………三五

必要のものゝ善い組合せ

床(種々な床)

内部の壁

腰壁

窓の額ぶち

ステインドグラス

壁の裝飾

天井

扉の作り方

階段

色付け仕上げ塗り

9 管と線……………四〇

電燈

水道設備

暖房装置

16	疊込寝臺……………	二四二
15	スクリーン(金鋼)……………	二四〇
14	スチユチオ……………	二三九
13	ガレーチ……………	二三七
	ナースリー	
	浴場	
	臺所	
	子供の室	
	寢室	
	書齋、喫煙室等	
	ホール、ヴェランダ	
	食堂	
	應接室	
12	裝飾配置……………	二〇四
11	門、塀……………	一九八
	來訪者に好感	
	靴のまゝ	
	ホールの設備	
	居間	
10	庭……………	一八三
	下水	
	田園生活	
	花	
	花園	
	芝生	
	小供のため	
	戸外の居間	

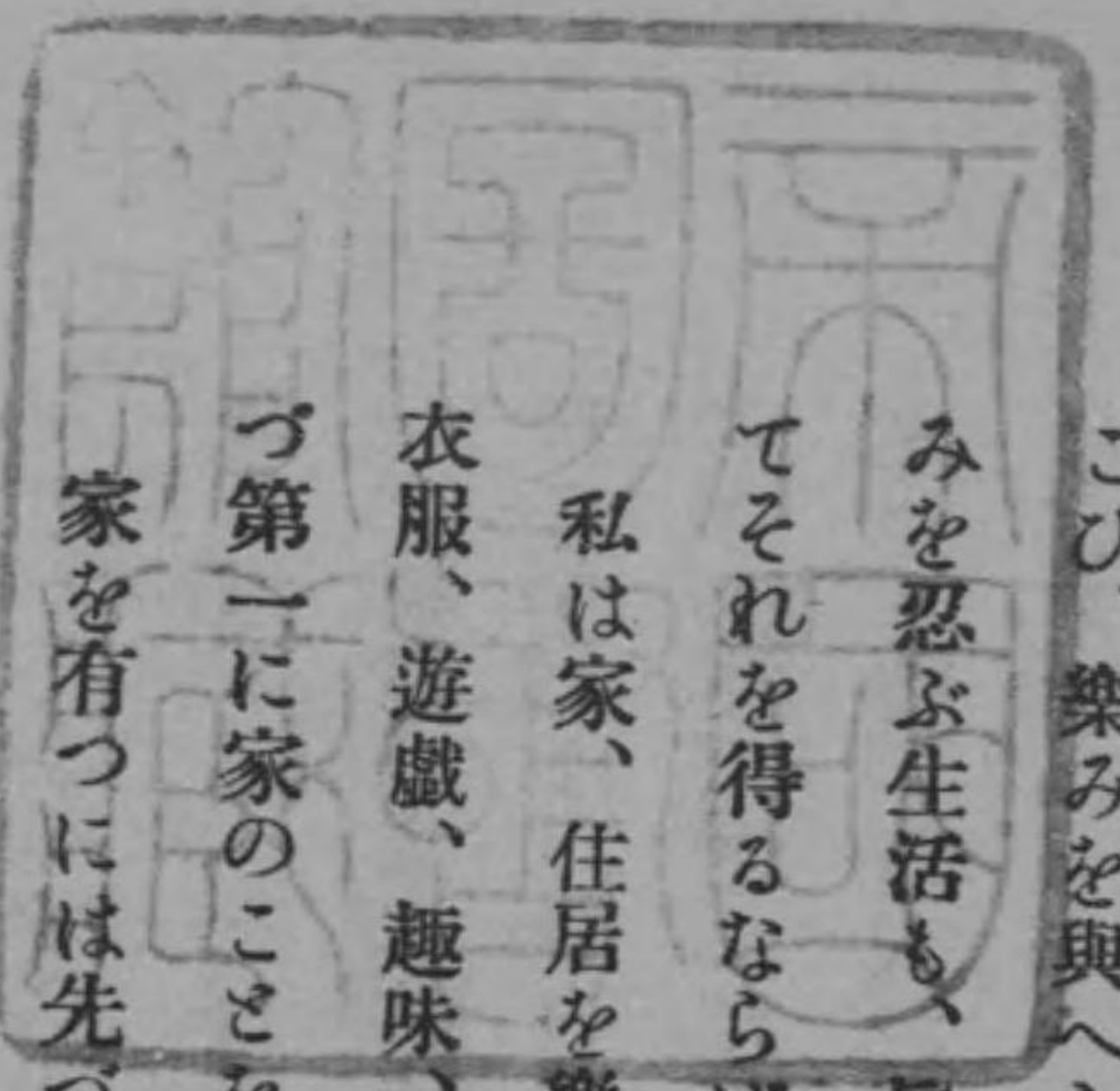
17 便所の臭ひ……………二四五

18 ハウスボート(船の家)……………二五〇

19 理想村……………二五四

20 理想の實現……………二六〇

1 楽しい生活のため



我々が生れて来たのは、どう云ふ目的のためであるかは判りませぬが、我々はよろこび、樂みを與へられて居ります、そして其のために生きて居る様に思はれます。苦みを忍ぶ生活も、眞の樂みを掘り出さうとするための様に見えます。眞の樂みを感じてそれを得るならば、自ら我々の生れた目的に叶ふのであらうかと思ひます。

私は家、住居を楽しい生活の基點として考へようと思ひます。家に附隨して、食物、衣服、遊戯、趣味、交際、藝術、宗教等に亘つて考へを巡らしたいと思ひ、それでは第一に家のことを主とした書物を拵へようとするのであります。

家を有つには先づどんな家が丁度自分に適當であるかと云ふことを考へねばなりません。自分の資産、収入、生活費豫算、自分の趣味、教育其他總て自分と云ふものに相應はしいものでなければならぬ。我々の仕て居ることは自然に我々を表現するものであると云ふことも云へますが、事實、我々は眞正の我々を表すことを好まず、いつ

も幾何か掛値し、見得を張りたがるのです。見得のために、自分をより立派に見せ掛けようとして、我々はいつても資産、収入に相應せぬ金を、楽しい生活のためには不要なのであるに係らず、餘儀なく費つて居るのです。

交際の爲めだ、體裁のためだと云ふ金を少なくして、正味の、我々の要求に我々の金を遣ふ考へを有つならば、我々は第一に我々自身と家族ごのための城廓を作りたい、家庭の家、スキートホームのホームを作りたいたと云ふ考へが起り、そして、必ず大抵の人は一軒の住家を作るのに不如意でなからうと思ひます。一寸腰掛けだからとか、貸家に住んだ方が却つて便利で經濟だからと云ふ人は、多くは眞に楽しい暮らしを望んで居らぬ人か、或は身分不相應に金を費ふがために、家などを建てることの出来ない人なのでせう。

どれ位の家が幸福な生活に要する家であると決めることは出来ない、どんな人にはどんな家が適當であるかと云ふ事でなければなりません。適當な家、相應な家は必ずそれが楽しい家である筈です。宮殿に住むのが却つて苦痛である人もあり、小さな草

ぶきの家で十分楽しく暮す人もあるのです。

私の知人に久保と云ふ人がある、十數年間米國で働いて歸つた人で、其割に金も貯へず、十年計り前に此の町のはづれに牛乳屋をして居ました、そして乳搾りもし配達もして居ました、其人の住んで居る家へ私は時々行つて見ましたが、丁度汽船の船室^{キャビン}位ひ、七尺に八九尺位の小屋で、床は無く、土間になつて居る只一間で、一方には炊事用の道具を置いてあり、一方には船室の寢床^{ボイス}の様な高い段を作り、藁を敷き布團を敷いて寢台を作り、小さなテーブルや椅子の様なものを木片を拾ひ集めて作つてある。そこは小高い野山の中腹で、日が宜く當り、野には雜草の花が咲き、牛は長閑に居眠る。久保さんはその小さな小屋の主人であることを十分楽しんでニコ／＼して居るのを見て、私は其の楽しさを十分想像し得たのであります。それは普通の賤が伏屋を見る心持ちと違ひます。たゞ習慣的に農夫が百姓屋に住むのでなく、そこには久保さんの工夫があり、理想があります。そして、他人では出来ない一種の風流を楽しむで居るのです。

彼は其後、又町へ出て来て、私の叔父の所有の土地に三角形をした三四坪の、仕方のない地面があるのを發見し、そこを借りて三角形の家を建て、バン窯を築き、陳列棚など拵へ、バン屋を初めました。その小さい家は小さくとも、外から見ると西洋館です。寝る場所が無いから、彼は屋根うらへ、鶏の宿屋とやの様なものを作り、其れへ這ひ上つて寝るのです。家の壁には蔓草をはひ登らしたり、植木鉢を所々へ置いたりして、相變らずニコ／＼してバンを焼いたり賣つたりして居ました、今は北海道へ行きまたその牧場で、鉋かんを使はずに作る家を建てたと云ふ手紙を寄越しました、また面白い家を作つてよろこんで居るのでせう。

何の財産、貯蓄もない人でも、少し計りの金で面白い家を建て、其の主人であることを樂み得るではありませんか。

我々が家を建てる時、たゞ澤山の金を抛り出して建築家に何千圓、何萬圓の家を建て、呉れと云ふのでは、どれ丈け金を掛けても樂しい家にはなりません。小さい、ハンブルな家でも、自分の工夫を用ひた、理想を持つて建てたものでありたいと思ひ

ます。

私は或る時、東京の町を通つて、或るエライ人の家、大きな西洋館と日本造りどが何の調和も無しに並んで建つた廣い邸の入口の門柱に大きな金の鯨鋒が對ひ合つて立てられて居るのを見ました。誰れでも其門の前を通行するとき、其門の奥にはエライ人が住んで居るのだ、勢力のある金のある人の住宅だと思ふに違ひないでせうが、あゝ、樂しさうな住居だなどは思ふ人はありさうに思はれません。又、其の邸の主人が毎日其の金のかゝつた門を出入するたびに、樂しい、美しい心持ちになつたでせうか。また、お寺の様な大げさな門や監獄の様な高い塀で世間と嚴重に境を付けた富豪、貴族の邸宅を見たとき、此の中に住む人は斯う云ふ仕掛をせねばならぬ稼業の人だとは思ひましたが、羨ましい生活だ、樂しさうな家だとは思つたことがあります。

過ぎたのは足らぬのより悪いと昔から云はれて居ます、家の大き過ぎるのは最も多く種々の困しみを起すものと思ひます。室數の多過ぎること、裝飾の込み入り過ぎる

こともです。我々は或る要求を満すため、ある理想を實現するためには、その最も簡単な手段を選び、最も少しのもので最もよく其の目的を成就することを考へねばなりません。

我々の住む家も如何に簡単にしようとしても、我々の有つ文明の程度、教育の程度に相應したものにするには、可なり多くの設備を仕なければなりません。あまり、あつても仕たい、斯うもせねばならぬと凝り過ぎては却つて楽しい生活が出来ないことになるかも知れませんが、現今の我國の人は、金力と知識とのある階級の紳士でも、西洋諸國の人々程に、日々の生活を樂しむ方法を知らず、たゞ習慣に捉はれた住居の様式と、其れに附隨する生活方法のために心ならずも多額の金を費し、種々の苦痛と不便を忍んで居ると云ふ状態であるから、家のことを語るにも、種々な樂しい家を作る條件を並べ立て、それを鼓吹せねばならぬのであります。

資産の有る人は勿論、日々稼いで幾何かを貯へ得た人も、その金を何に費ふ可きかと云はゞ、眞面目な確實な精神を有つ人であるならば必ず第一に先づ理想に近い住家

を自分のために作ることを思ひ付くに違ひありません。まだ家を建てる程もまだまつた金を貯へ得ない人も、どうかして金を工面出来れば、樂しい住み家をこしらへて、自分が自分のために作つた家を有つ喜びを味ひつゝ、一層眞面目に自分の業務をいそしむ方が、不満な心で貸家住ひをなし、小さい贅澤のために目立たぬ金費ひをして一生を過す多くの人々よりも得策であるとは思ひませんか。

家を建てるに、金が無いから、と云ふ人が多い様ですが、家を建てるに考へる位の人であつたならばどこかに餘裕があつて、自覺して居なくても、どこから幾分の金が出て來るところの人に違ひありません。収入と生活費が一ぱい一ぱいであること云ふ人も家を建てること云ふ希望を満すためなら、毎日の生活の状態を引締め、毎月いくらか宛、金をへぎ出す様に儉約することが苦痛でなくなるでせう。建築に要する全部の金がなくても、出發に於て幾分か金があるなら、建築に取りかゝり得ると思ひます。足らぬ丈は月賦にして、なしくづしに拂ふ様にすれば、容易に知らず知らず家が我が物になるでせう。建築物は財産です。現代の社會では財産を有す

ることが大なる仕合せであります。そして自分は氣に入つた家で幸福に暮すならば衣服を華美にしたり、虚榮のために金を費はなくとも満足が出来、外へ行つて浪費する心が出ないから徳です。

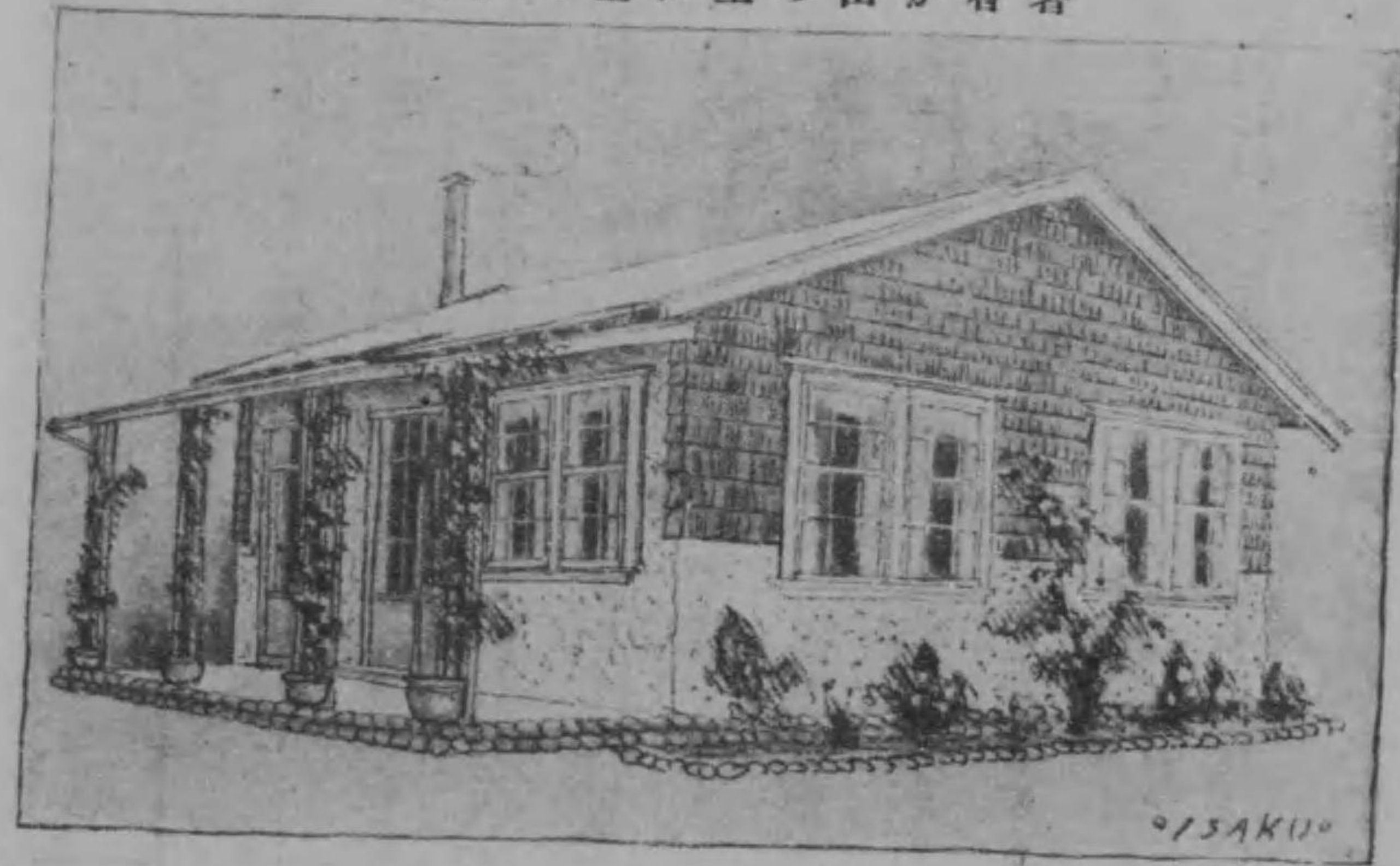
金を溜めてから家を作らうとしても、中々容易に建築する丈けの金になる迄溜めることは六ヶしいものだと思ひます。故に先づ家を作つた後に金をへぎ出す勘辨をする方が實現され易いせう。

2

よい土地

家をいよく建てやうとする時に、何處へ建てたら宜いか、如何なる場所を撰ぶ可さかゞ第一の問題であります。家は自由に工夫して作ることが出来ても、山や川や樹木などの天然の宜い組合せを見付けて手に入れるのは中々困難なことです。景色の宜いと云ふところ、見晴しのよいところなど、初めの中は其景色を賞するとも、直きに其の眺めに飽きて來て一向有難くなく、何の感興も引かぬ様になるものです。殊に高い、見はらしのよい土地は、當然風雨が強く襲撃して來るし、寒暑の差が烈しく感じ水が得難いなど云ふ色々な不便困難があります。私が十數年前に小山の頂きに小さな家、四疊半二間に八疊一室あるバンガロー風のものを見て、そこで僅かに間、暮して見たことがあります。今思ひ出して見ると、不便な事を感じるこのの方が、風景の美しいのを嬉ぶよりも多かつたと思はれます。それで其所には永く住まず、風雨にもきつく曝されぬ場所を見立て、其處の其家を移しました、それが私が今此れを書

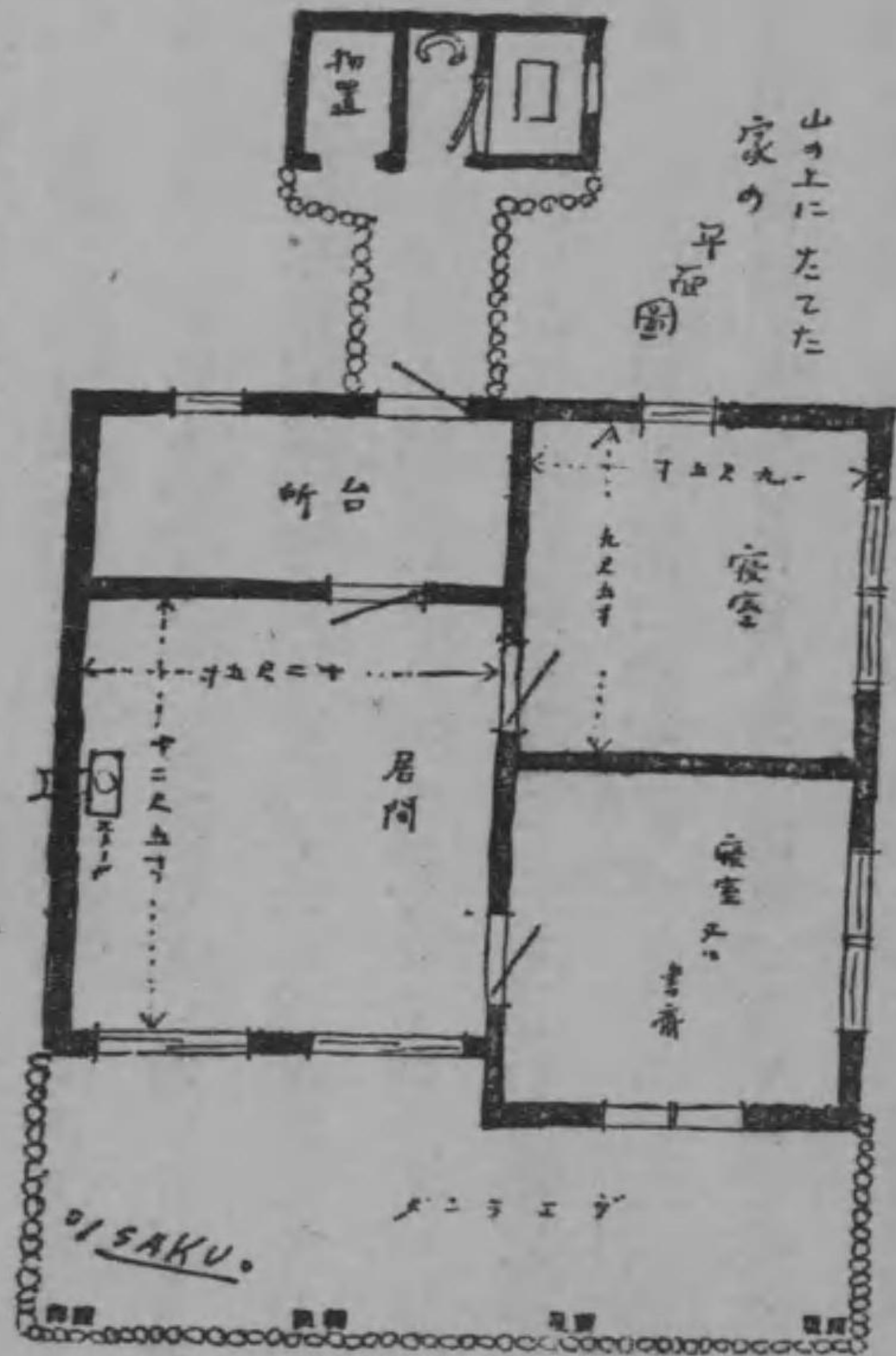
家たて立に上の山が著



いて居るこの屋敷です。こゝも小高い所で、見晴しは割合よい所であるが、前の山の上よりは餘程人間界に近く、物賣りも来るし、一寸通りが、りの人も寄つて遊んで行くし、井戸を掘れば水がよく出るし、餘程住み宜い場所であるが、此頃はも少し、見晴しは無くとも平地に廣い庭を取つた方が宜いと思ふのです。

斯う云ふ風に、高い所から廣々と下界を見下した風景の善さは住居には却つて宜しくはないが、風景などに頓着せず、實用計りを考へたならまた面白くない事になります。美の多くの部分は實用で成つて居る、

景色が美しいのは、我々に幸福を與へて呉れを與へてくれる自然だからです。風雨から安全な場所、涼しい蔭を有つ木立、水の清い谷川、交通に便な川や道路、さう云ふものは



はみな善い風景を作る要素であります。だから我々が住居しようとする土地を撰ぶときにはなる可く實用を含む美を有つて居る風景の場所であればならぬと思ひます。

私が慕はしい思ひ出になる、幼時の記憶として残つて

居る風景も、決して、高山や奇巖怪石の風景でなく、平和の生活に都合のよい楽しい土地の風景なのであります。

失望と浪費に陥らぬ様に仕ようとするれば土地の撰擇に就ては先づ左の件々を熟慮せ

ねばなりませんまい。

- △第一には自分の職業のために交通上の便利はどうか。
- △学校はどこにあるか、子供を学校へ通はせるのにあまり遠くはないか、鐵道線路や
其他危険な所を通らねばならぬことはないかと云ふこと。
醫師が近くにあるかどうか、急病などの時のことを考へて見ること。
- △日用品の供給は便利であるか、どんな商店が近くにあるか。
- △其土地に於ける税金はどうか云ふ風であるか。
- △道路は宜いか、淋しい危険なところを通行せねばならぬのではないか。
- △警察力が十分届いて居る所か。
- △土地の高低、水はけは宜いか、濕地でないか、蚊を發生し、又は病氣を起す様な水
溜りや沼地が近くにないか。
- △不健康地と稱せらるゝ所でないか。
- △埋立地ならば何んで埋めてあるか、不潔な塵埃の棄て場所の跡でないか。

- △水の供給は如何、井戸を堀れば宜い水の出る地であるか、又は近所から汚水が流れ
込んだり滲み込んだりするところでないか。
- △不潔な悪臭を發したり、騒しい音を立てたりする工場や牧場などありはせぬか。
- △電気、瓦斯、上水、下水の設備はどんなであるか。
土地の設備は追々向上しつゝあるか。
- △土壤はどんな性質か、芝生や植込や、花園や野菜畑に適當であるか。
- △建築材料、木材や石材、煉瓦、土など近所でとつゝのふか。
- △近所の人々の生活はどうか、禮儀ある、信實な人々であらうか。子供の遊び
連れの宜いのが出來得るのであらうか。
- △地震、海嘯、暴風、洪水、火災等の災害に對して安全な土地であるか。
右の伴々の外に大體に於て地相に就て考へねばなりません。人相だとか家相だとか
云つて、みな其れ／＼物には其のもの、性質が自ら表はれて居ります。それを我々が
見て、無意識に又は意識して、感じ得るのでありますが、家を建てようとする屋敷の

候補地に對しては十分に其の地相を考へ見ねばなりません。

私の感じるところに依れば、方角に就いて考へると、東向きの地は桃色の感じで、若者の進取的気分があり、そこに住めば急ぎ進むで、落付きがない代りに快活な心になるであらうと思ひます。

北向は陰氣で寒い、藍鼠の色の感じで、端正、嚴肅、病氣、克己、忍耐、難苦、勉強などに就いて聯想が浮びます。

西向は不安、狼狽、熱病、争鬭、嫉妬、怨恨、復讐、衰弱、死等を思はし、或は涙悲哀、感傷等の感情を起さしむる様に思はれます。色で言へば黄色です。

南は、温暖、平和、永久、平凡、長命、無爲、睡眠、懶惰等の心持ちを持つて居り、赤の色を見る心だと思ひます。

だから私の考ふるのには、強健な人は其將來を光榮あらしむるために進取努力を以て生活すべく、東北に向つた地に住んで勉強したらよいでせう。

北西に向つて住めば、野心を遂げ得るかも知れません。強くして争鬭的な人のため

の土地は西向なのかと思ひます。

私は楽しい、平和なる、そしていつも退窟せずに愉快な進轉ある生活を希望するのですから、どうしても、東南に向つた住居の土地を撰ばねばならぬと思つて居ます。

住家の敷地は後に丘があり、西に樹木があり、前の地面より少しく高くなつて居る地を理想とします。平地の廣いところなれば、後は樹木の植込か、他の家屋があつて寒風を防ぎ、東と南とは成る可く空地を作つて暖かい日光を受ける様にしたいものです。都會で職業や商賈を有つて居る人でも、其住居を田舎に有つことは少しの決心をもでば出来ることとせう。少し計りの不便や金錢上の損失があつても、自然の恩恵を受ることが多い、身體の營養に都合のよい田園の生活を望む方が一生の利益だと思ひませんか。

私の今住んで居るところは、前面南の方が田で、屋敷は田の面より十何尺も上つて居ます、北から西へかけて小山があり、二階へ上ると東の方の町の屋根を見降して、

遙に青い海が見えます。非常に宜い屋敷であるのを幸福に思ひますが、だゞ家の割合に屋敷が狭く、廣い庭、芝生などを取ることが出来ないのです。

家と地面の廣さとの關係を考へねばなりません。建物が如何によくても、庭や花園や野菜畑や運動場などがなければだめです。

あまりに閑靜をのぞんで、淋しい不便な土地を撰んでは後で必ず後悔します。私の弟が昨年、或る村外れの土地を撰んで家を建てました、その土地は景色が宜く、櫺の木の多い、一寸西洋の田舎の繪を見るやうな所だったので、彼は熱心に圖面を引いたり、西洋の雜誌の繪や、建築の圖集などを研究して、小さいバンガローを作りました、白い窓縁が櫺の木の間から見へて、中々よい住家に見へましたが、さて住んで見ると淋しいのと不便なとで大に弱つて居たやうでした、或る時、人相の悪い乞食が來たのでお金を與へる代りに説法をして追ひ返したら、乞食は氣味の悪い捨臺詞を残して去つたとかで、大きに氣味悪るがり、私のところへビストルを借りに來たりしたが、直きに其の家を他の人へ賣つてしまひました。それを買つた人も若い夫婦者でし

たが、二三ヶ月しか辛棒が出来なかつたと見へ、今は空家になつて居ます。淋しい計りでなく、その屋敷は西向で夕日が烈く射し込み、東が高くて風を防ぐものですから夏は暑くて困り、冬は西風の寒いのが吹き付けて實に寒いのです。

平凡な土地に見へても、住み慣れるに従つて、面白い繪になる風景が発見され、詩になる生活を味ひ得ることの出来るやうになる、そんな土地を授かつたならば幸福であります。日本は風景のよい國だと云はれて居るに係らず、住居として善い土地が少いと思ひます。第一に樹木が少い、伸々とした枝を張つてよい木蔭を作る大きな木がありません。山の木や、鎮守の森の樹などもみなかたくなに曲りくねつて居て、我國の或る種の人間の根性の様であります。大傘を擴げた、美しく枝の伸びる樹は皆伐つて了ふのです。樹を保存する思想がなかつたために斯んなになつたのでせう。また畑や田が多い代りに芝草の野が少ないのです。牧畜のない國ですからせう。土地に少しも餘裕がないのです。

尙一つ困るのは百姓が人糞を肥料にかけることで、田園的の樂しみを得やうとして、

夏の夕方など、庭のすゞしい所へテーブルをこしらへて、楽しくそこで晚餐を取らうとすると、近所の畑に百姓が肥をかけ初め、折角の御馳走も全くだめになることがあるのです。特に大きな邸か別荘地ならとに角、一般の田園生活にはどうしても下肥の臭氣を嗅がない様にし難いのは困つたものです。

道路の悪いのも我國の名物でせう。良い道路のある所に住家を定めることは大なる要件です。都會の地、殊に東京市など極めて狭い泥深い路を通らねば出入することの出来ない邸宅がいくらかあります。自動車など持つた人は道路に就いて一番不快を感じてせう。

文明的な生活をしようとするには現在の日本の状態では首府と雖も不可能です。だから、どうしても廣い土地を整理して住宅地を經營し、文明的生活に興味を有つた人々の家が集つてガーデンシチーの様なものを作るより外はありません。

田園都市のやうな、理想に依つて建てられた所でなく、自然のまゝに發達した村とか町とかは、また格別の興味があるものです。どれ位な、どんなところが宜いかと考

へて見ますと。私は勿論、大都會はいやです。あまり小さな村も不便です。人口が一萬から五萬位或は少し大きいけれども、十萬位な都會で、中等教育の學校が男女共に揃つて居て、相當な醫師や病院があり、食料品の自由にとゝなふ所が宜いと思ひます。そんな町へ住んだらば、その町の人々と仲よく暮したいものです。一構への別荘の内にとちこもつて、村の人々と何の交渉もなく、別人種の様にして居ては不愉快です。

世界共通といふ傾向は現代の特徴で、學問でも、技術、商業、何んでも世界が同一の方式に従はねばならぬ有様です。現代に適應する生活も、世界共通でなければ如何に不便か知れません。お國自慢の精神の強い、國粹保存と云ふ言葉に權威のある、西洋とは全く歴史と傳統を異にした日本でも、學者、軍人、政治家、實業家など、今日の社會を率ひ、文明を築き上げつゝある人々は皆洋服を着て、椅子とデスクを友として仕事をせねばならなくなつたでせう。最早日本人も、洋服に慣れ、椅子に親しみ、扉ドアの開け方も覺へ、腰を掛けて飯を食べても腹痛を起す様なこともなくなつて居ます。たと家庭だけです、個人の住家に於てのみ相變らず舊日本式に座らなければならぬのです。官署、事務室、學校、病院、汽車、汽船、停車場、商店、工場など家庭を一歩外へ出るならば何も彼も世界共通の生活法に従はなければなりません。家庭のみが世界的から超越して居ることが何時迄も出来るでありませんか。男子が外で取る業務

が如何に世界であつても、家庭が世界的を閉め出してある間は、どうしても我々は眞正の現代文明の味を味はふ事なく、何時も一步を譲つた生活しか出来ないと思ひます。西洋人の或る者は日本が西洋化するのを惜み、いつ迄も東洋の風習、舊日本の状態をのこして置きたがる説をなす様ですが、そんな人は日本を骨董扱ひに爲やうとする考へなのでせう、しかし日本に住居して居る西洋人の多くは矢張り日本の西洋化―世界共通の法則習慣に従ふのを希望し、世界的の日本に向つて尊敬を拂ふ様に思はれます。

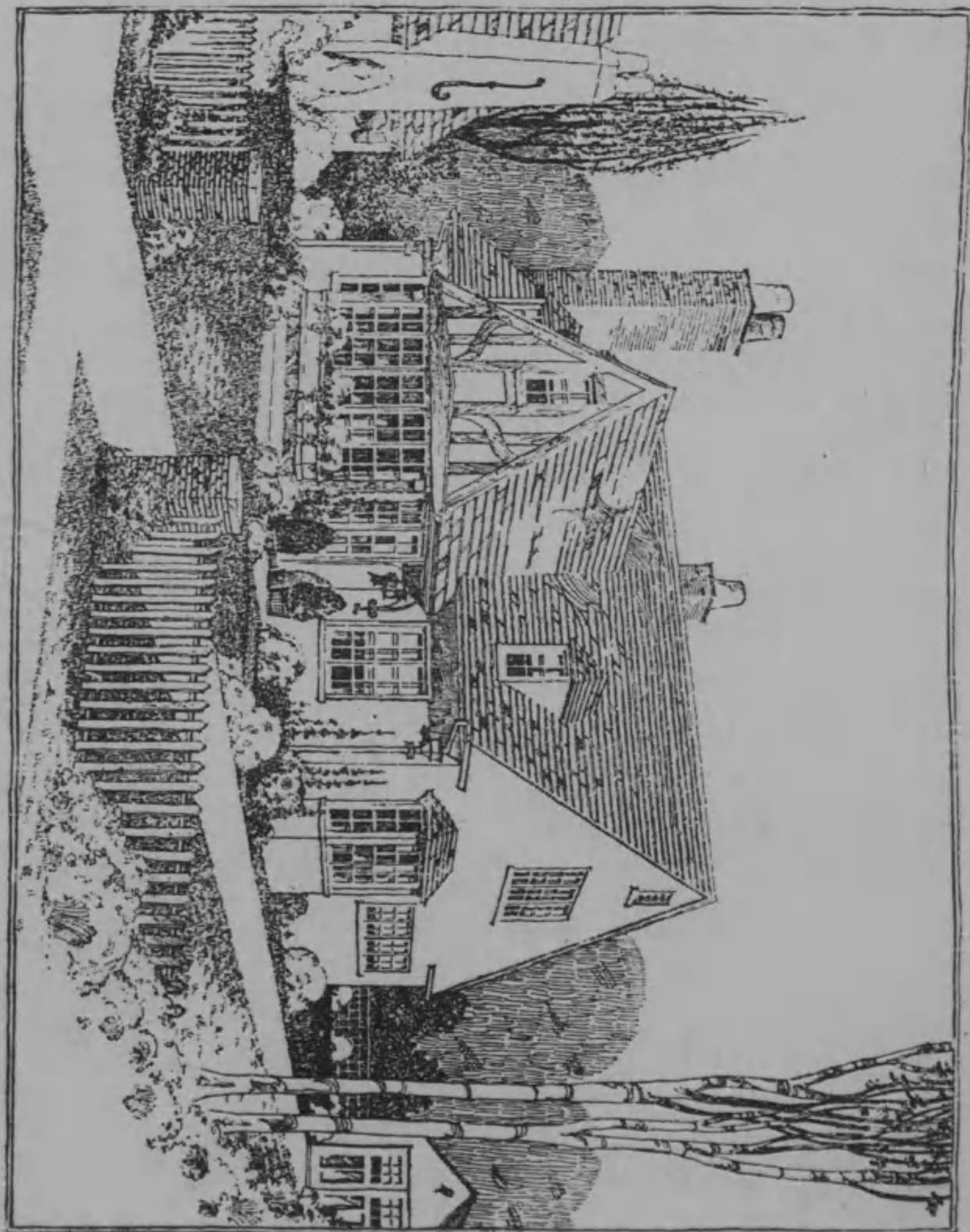
世界的と云はゞ西洋の流儀に従ふことになります。學問技術に於て萬事西洋が優つて居て我々を教へ、我々はそれについて行く外なきが如く、家庭生活の方法も西洋式の方が遙に人生に幸福を與へる様に工合よく出来て居ると思はれます。ほかの事はとに角だが、住居だけは斯うして疊の上へ自由に寝ころんだり出来る方が宜いとか、障子は衛生的だとか、澤庵は消化素を持つて居るから最上の副食物だとか浴衣がけは美と衛生とに於て世界第一だとか主張するのは、幾何か負け惜しみの心からだらうと思

ひます。

真正の國民性、若し我々に幾何かでも善い國民性があるならば、それは家屋や衣服などの形式に依つて決して破壊さるゝものではないでせう。どんなにして生活しても我々の本性は外面生活に左右せられないところがあつて、外面の形式を快活な便利なものに改めるならば、益々自由に我々の固性や國民性が現はれ、我々の種族の光榮を發揮するでせう。

僕も今度は一つ理想的の家を建築しようと、外國の雑誌の繪などを見てはハイカラな建物の圖面など引いたりして居る人でも、いざ建築に取りかゝらうとすると、女や老人達の意見が出たりすると、種々な事が氣になり、一層あたり前の家であれば無難であると、思案がつい引込んで、理想が空想になり了ると云ふ様なことも時々ある様に見受けられます。

すべて改革には勇氣が要ります。家屋を改良するにも、種々の故障や反對も起るが、大體に於て有利な結論を有つて居る以上は、小さな障りや習慣を變へるの不便位は忍



ばねばなりませんまい。今日住家を世界的のものにすると云ふことは、一步人より先へ進むことですから、其道あらしめのための苦勞は進んで負ふ可きものでそれを一つの樂しみにする覺悟だと善いと思ひます。

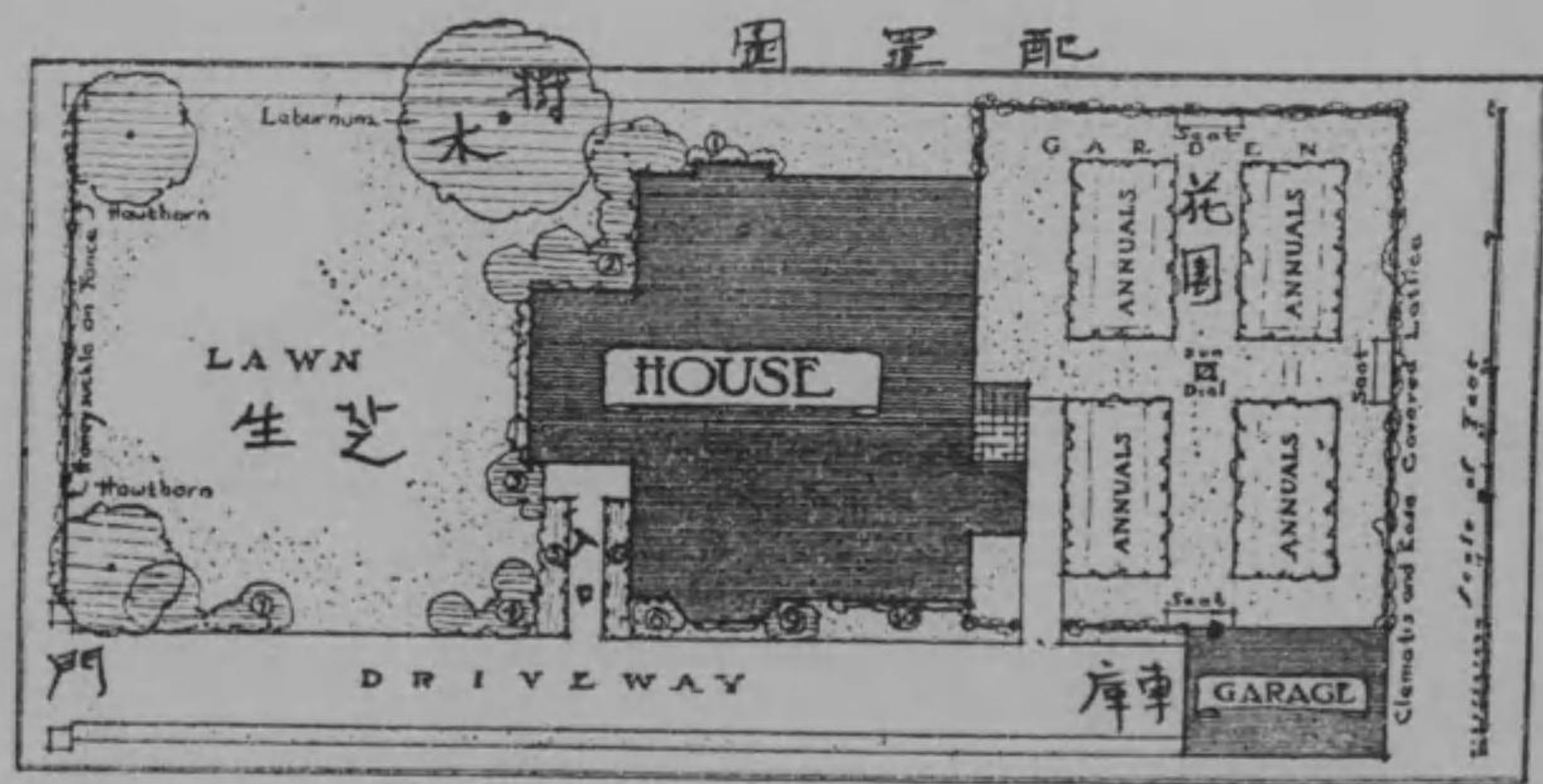
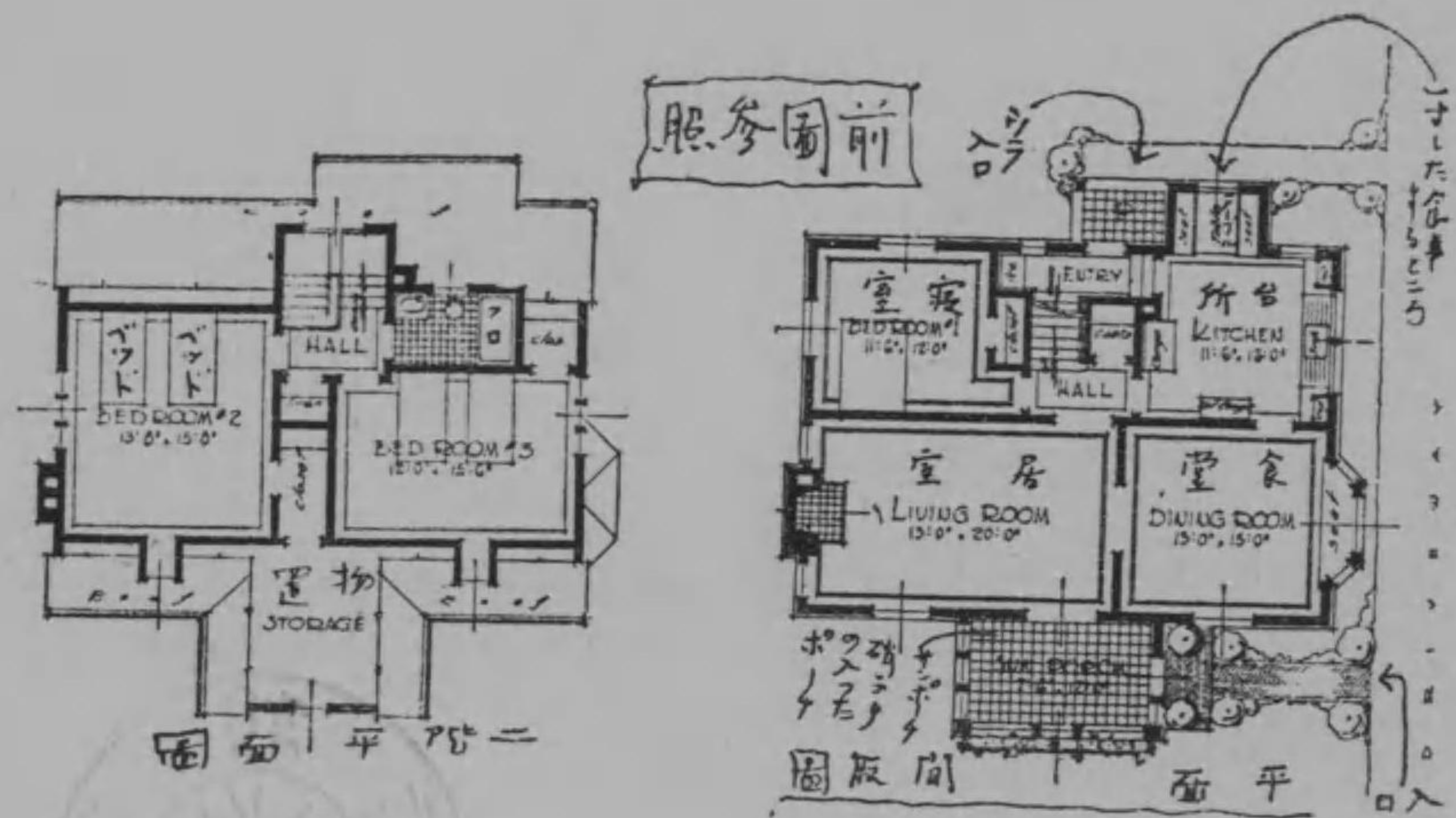
現今西洋の住家の間取りの工合は、國々に依つて多少の違ひはあつても、殆んど共通して居る様です。普通中等の家、我々が今日の文明の程度に於て、相當に満足して住むことの出来る、然も、贅澤や物數奇ものずきに陥らぬ、所謂、健實な中流の家庭を標準（と云つても決して正確には定めることの出来ないものですが）として見ると、大體左の通りなので宜いだらうと思ひます。

一、玄關、及び廣間（ホール）階段は多くの場合その室にあります。

二、應接室、又は談話室（ドローイングルーム、又はパーラー）

三、食堂、（ダイニングルーム）

四、臺所、



右の四つが主なる階下の室であつて其外に、
 五、書齋¹、又は事務室²、或はデン³とか喫煙室⁴とかモーニングルーム⁵とかの中一室又は二室を取り、
 六、配膳室、と稱へらるる、パントリー⁶、即ち臺所に近く、食器や食料品を置き、小さい流し場などある小さな室、
 七、ポーチ⁷、或はヴェランダ⁸、
 八、物置、薪炭置場、洗濯場、
 等の設備の内、其人の生活に應じて適宜に取捨するものであつて、其他、玉突室のある家や、書室¹⁰ 仕事室などあるのは其れく特殊な人の要求に依る可きです。また、左の各室は通例二階へ取るのです。

一、寢室¹¹、持主の室、子供の寢室、客の室、召使の室など數室、家内の人数に應じて要ります。
 二、浴場¹²、及び便所¹³

1 Reading room—Study 2 Office 3 Den 4 Smoking room
 5 Morning room 6 Pantry 7 Porch 8 Veranda 9 Billiard room
 10 Studio 11 Bed room 12 Bath room 13 Water closet

三、小供室（ナースリー¹）或は裁縫室²を必要あらば設けます、

右の各室から階段へ通ずるために廊下（ホール）が要することは勿論で、其外に、

四、押入れ（クロセット³）が各寢室にあれば宜し。

五、物置の小室が廊下に向つて出来るなら、便利であり、

六、バルコニー⁴、或はヴェランダ、

七、スリーピングポーチ⁵、

などを適宜に付けるのです、二階の上に向一階、屋根裏に、召使の室とか、物置とかを設けるのも普通に行はれることです。

地下室⁶は西洋風の家には大抵必ずあるもので、また非常に便利なもので、暖房装置などする場合には是非なくてはならぬのです、地面を掘り下げて、そこから石や煉瓦やコンクリートで壁を築き上げるのですから、地下室があると堅固な基礎が出来るのです。地下室は暖房装置の焚場としての外、物置、燃料置場、洗濯場等に宛てるのです。

右に挙げた各室はみな一種の家の内におさまるので、普通住家として此外に何の附屬建物も要らぬ譯です。近頃の設計になる西洋の住家は前から見ても後から見ても、どちらから見ても建物が宜い恰好に出来て居て、裏庭があつて不恰好な物置小屋があるなど云ふことなしに、綺麗に片付いて居る様に出来て居ます。だから家の周囲へ高い板塀や煉瓦の壁など廻らし、外界と縁を斷つて牢屋の様な感じにする様なことが要りません。家の周りには殆んど塀や柵の様なもの無しに、打開いた廣々とした心地で、社會と何のへだてもないと云ふ心地の生活が出来るのは愉快なことだと思ひます。英國式の住宅は米國より古風であつて、家の廻りに塀があり、裏庭のやうなところも出来、物置なども外から見へるやうにしたのが多い様です。

自動車を持つ家には車庫（ギヤレージ）を建てねばなりません。これも獨立して風雅な小屋を建設する代りに、近頃は巧妙に一棟の主家の建物の内へ取り入れた設計になつたのもあるのです。

これ迄挙げた室を一々皆な設けるならば、餘程大きな家で、完備した大住宅となり

* Garage



ます、然し人々の金箱の重さに依り、まだ此上に加ふることも出来るし、またずつと少ない室數で十分楽しく住むことも出来るのであります。必要に迫られ餘儀ないのでなければ、餘計に何室、何室と云つて多くの室を作り過ぎぬ方が得策だと思ひます。

制限ある金では理想的に完備した大住宅を建てることは出来ません。然らば、極めて少しの金で最も簡単なものでも宜いから一つの住家を建てるのはどんなものにしたらよいかと云ふに、それはたゞ一間きりの家を拵へても住めます。一室の片隅に寢臺を置き、中央へはテーブルを据へ、一方の壁には爐を作り、そこで食物



の炊事場が付いて居る平家でした、八疊の室は居間兼食堂で、四疊半の一つを寢室とし、他の一室を書齋又は客用寢室としたのです。斯んな家だつたら、夫婦者でも、一人位子供があつても十分に生活が出来るでせう。四疊半の室へダブルベッドを置くに狭苦しくて汽船の船室の様な感じがします。けれども汽船の船室は小くても中々心地よく出来て居ます、外國通ひの汽船へ乗つて何十日暮しても、さう苦しくは感じないです。それは巧く室内を整頓して、綺麗に片付けて居るからです。だから、どんな小さい室でも成る可く不用なものを置かずに片付けることを巧みにするなら、決して不快でもなく、不衛生的でもありません。

の調理をすると云ふ工合にすれば宜いわけです。たゞ一間の家でも十分便利で愉快な生活が出来ます。たゞ其取扱ひ方、住み方に依るのです。獨身者又は夫婦ぎりの人であるならば、少し氣を付けてよく片付ける手数を惜まぬならば決して不體裁なことなしに暮せるでせう。どんなに宮殿の様な大きな家でも、不潔にして引きちらかして居れば、醜い不快な住居となります。しかし一間ではあまりに不自由です、先づ最も小さい家としても

一、居間、¹(リビングルーム)

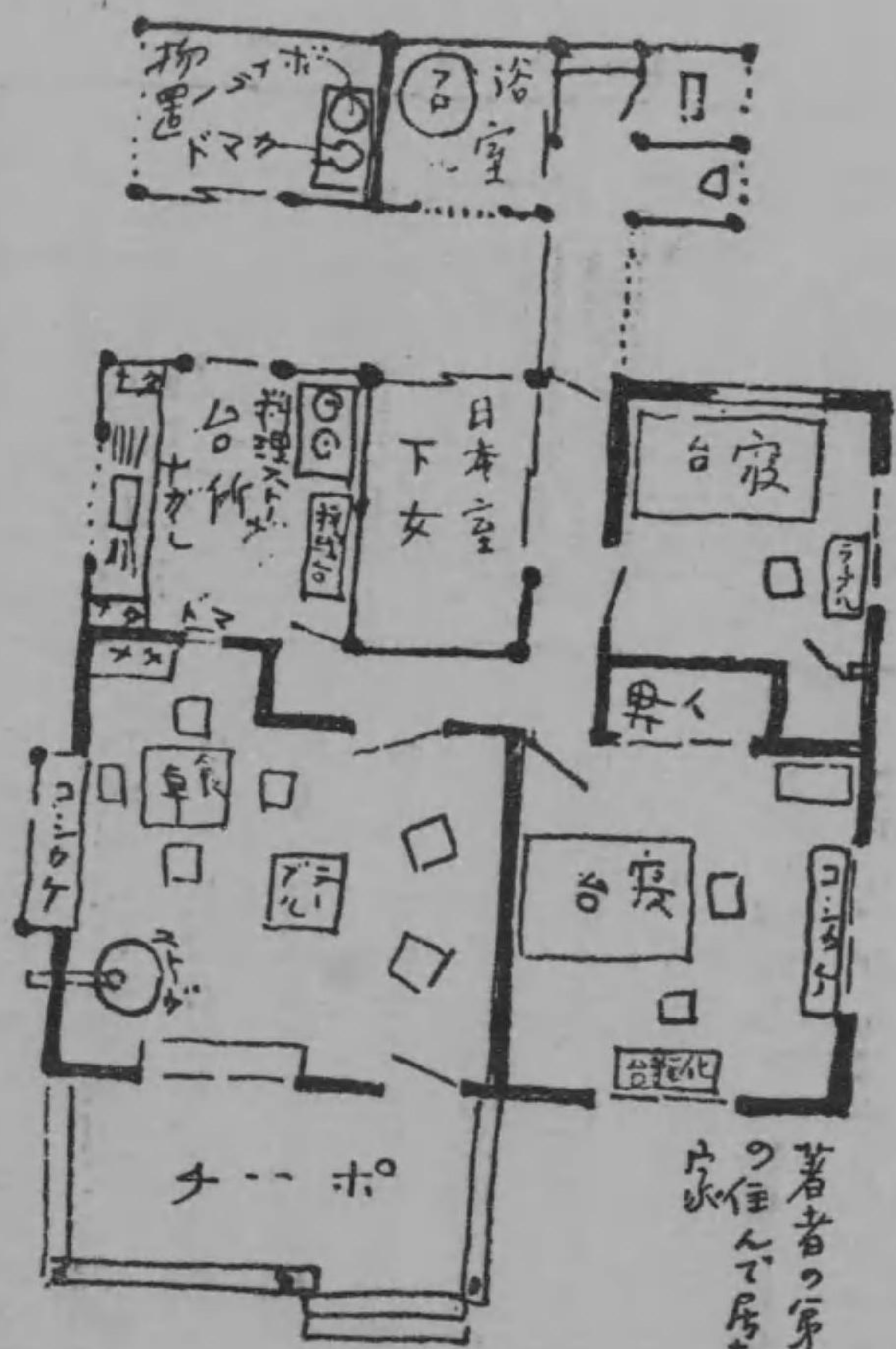
二、臺所、

三、寢室、

この三つは要ります、リビングルームは晝間いつも居る室で、談話讀書等の外に食堂としても使ふことに爲なければなりません。此の室に疊み込みの寢臺を置くならば、來客が宿る時など、そこへ寢さすことが出来ます。

私が山の上へ建てた小さい²バンガローは四疊半二間と八疊一間の外に巾四尺長二間

居間と食堂を兼ねた室は、食事の際、來客があると都合が悪い様に感じますが、御飯の時、テーブルを調へ、行儀宜くさへして居れば、人が來たらば平氣で迎へ入れ、



ものを食べるのを人に見られるのは決して恥かしい事ではないと思ひます。何のはう。

自分等の食べて居る食卓の傍に席をすゝめて、お茶など供し、食べつゝ打とけて話しをする云ふ工合にすれば、却つて親密を表し、興味ある交際が出来るでせう。

かかることなく、安心して御飯を頂くことが、我々の生活を楽しくさする大なる要件ではありませんか。

居間と食堂と全く別になつて居ないが、居間の一方に突き出た小さい室の様な場所が付け足されて居たり、出窓、ベイウインドーの出張りがあつたりして、その所に食卓や食器棚など置いて、居間とは何の仕切りもなく、やはり一室になつて居ると云ふ設計も近頃多いやうです。これも、食ふところを他人に見られるのを厭ふ習慣のある國で歓迎されないでせう。私の今住んで居る家は食堂とバーラーを隣り合つて居ますが、多くの場合に、客間と食堂との間の戸を開け放ち、一室の様にして置きますが、何の差支へもないと感じます。

食堂とバーラー又は應接室とを別々にしても其れを隣り合せにして、室と室との間が廣く開くやうにして室の隔を開くと一室の様になる様にして置けば、多人數の集まるときなど便利です、私の家なども時々何十人の人が集つて色々な會などする時があります、それには甚だ便利です。

食堂と談話室を取る代りに食堂と居間を取るの也有ります。應接室や、談話室など、居間とは自づから、其の名に應じて室の心持ちが異ひます、應接室にしたらいくらか固く、居間にすると氣樂に捌けた感じになります。大きな家、家族の多い來客の多い家は居間と談話室と兩方あつても宜しい、また其ほかにも一つ應接室、レセプションルームを要することもあるでせう。

應接室、談話室を二階へ取りたがる人もありますが、二階は寢室や浴場などの私^{プライベート}の場所に宛てる可きもので、市街の家なら別ですが、郊外又はゆどりのある屋敷にある家は階下へ來客を招く室を作る可きものです。

玄關拂ひと云ふことの流行る、或は必要ある我國の習慣、殊に東京邊の習慣では、どんな小さな家にも玄關が要る様です。一方には用のあまり無いのに人を訪問して、長時間のむだ話しをする風習があり、一方には貴族の眞似をしたがつて、一々取次ぎをさせたいといふ虚榮心があるからでせう。小さい家は玄關が無くとも宜い、其かほりに、ポーチがあれば宜いと思ひます。

* Reception Room



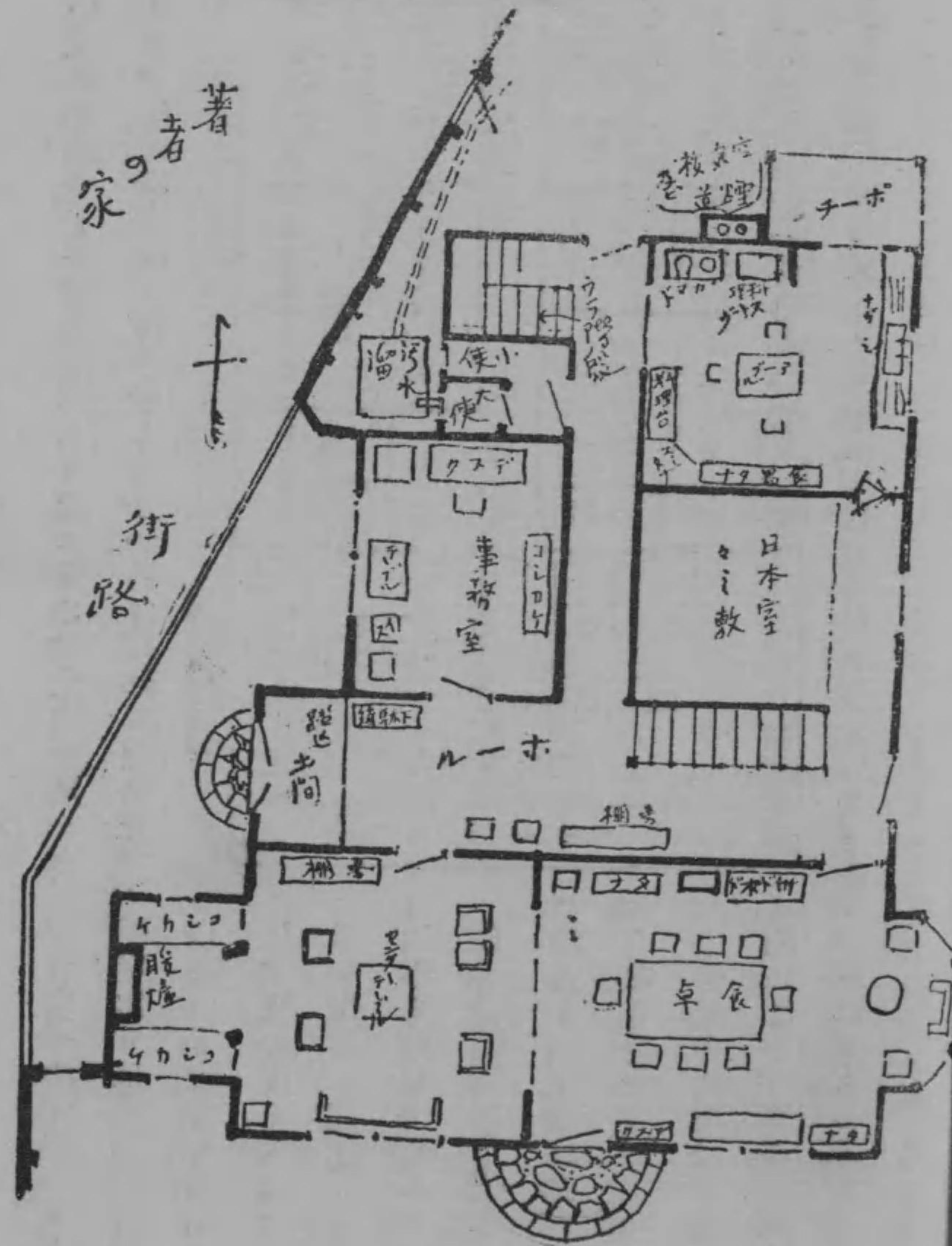
著者の家。

此の家は一九一四年に紀伊新宮町にたてたもので、田舎の大工ばかりで建てました。瓦葺き白漆喰の外壁の木造です。

屋根は單純に一つの棟が通してある丈け、妻は堅てに板をはり、紀州の山奥の家の型をこりました。ス井スの山の家にも似て居ます。

ですが、玄關拂ひのためでない玄關は小さい家には小さいなりにあると便利です。外から入つて来た時に埃の付いた外套や帽子を脱ぎ、濡れた傘などを置くために、玄關らしい場所が入用であります。米國のバンガローは多くは玄關なしです。ヴェランダから直ちにリビングルームへ入る様になつて居ます。

ヴェランダ或はポーチは家を楽しくさせる主要なものです。ポーチは米國の住宅には大きく付いて居るのですが、英國の住宅には割合少なく、あつても小さい様です。ヴェランダは印度の建築物に付いて居るもので、西洋人も熱帶國では必ず建築物に付ける様になつたのです。家の外へ屋根を付け出した、日光の直射を除け、涼しい蔭を作るために、幅が六尺内外で家の廻りに付いて居るものですが、今代の住宅に用ひられて居るヴェランダは、家の四方に廻つては居らず、たゞ前とか横とかの一方に計り付けて、椅子や卓子を置き、打開いた場所で、外をながめながら座る場所となり、室内と室外との中間で、半ば室内であり、なかば戸外である感じで、自然に親しみつゝ讀書し、談話する場所としてよい場所であります。ポーチもヴェランダと同じ様に、

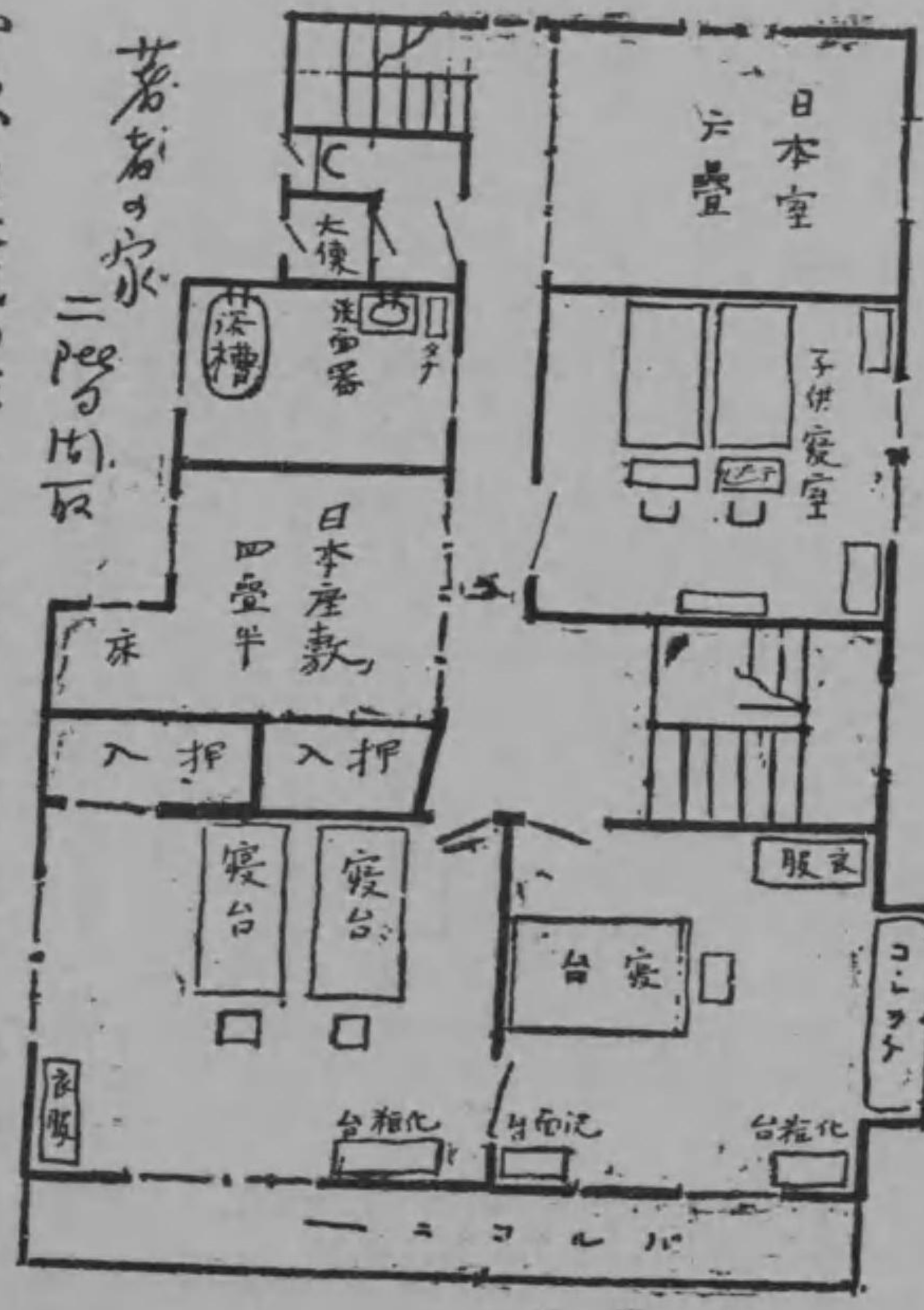


同じ目的のために使はれるので、別に區別するところはないのですが、ヴェランダは長い縁側の様なものが多く、ポーチは、壁の無い室の様に家の一隅に付いて居るので、日本家は障子を開けると、外の自然が室内へ流れ込んで来ますが、西洋建築物は家の内外の區別が劃然として居るから、ポーチやヴェランダの様なものが必要であり、それに依つて、外界の自然と室内と好く調和させることが出来るのです。

或る米國人が私の家へ来て見て、これは中々宜い家が出来たが、一つ不足なものがある、それはポーチである、と云ひました、私は此家は窓を大きく澤山とり、室そのものがポーチである様にしてあるのですと云ひましたら、でも「ポーチは……ポーチです」とその米國人が云ひました。米國人はポーチを愛する國民であり、またよくポーチを利用し、楽しむ人々です。

寝室は二階へどるのがお定りであります。浴場と便所も寝室に近くなければ不便ですから、自然、二階にせなければなりません、バンガロー式の平家の住家は、どの室も一平面上にあり、寝室や、浴場も同一階にあるのです、階段を上り降りしなくとも

よい故甚便利ですが、二階作りに比べると、土地を広く塞ぎ、各室への光線の入り具合とか、風の流通の工合なども幾分か妨げられる理屈です。平屋作りは建築材料が少



し弱いものでも保ちますし、壁も薄くてよく、工事易く、建物も軽く、地形も簡単ですみますから、屋根坪など多くても、坪當りの工費は却つて安くなる筈です。

洋風の建物では寢室を別にとり、寢臺を用ひますから、日本家で座敷を應接室にも客の食堂にも寢室にもすると云ふやうなことは、不體裁と不便が甚多く、

建康の時は宜いが、病氣にでもなると、晝間も室を寢室として使ふため、別に寢室を取つて居ない日本家は一人の病人のために一家内が大きな不自由を感じるのであります、だから不用の様でも寢室は寢室として別に設けて置かなければなりません。

日本室を欲しいと云ふことは、我々日本室で生れて育つたもの計りでなく、外國人でも日本へ来て日本室のサツパリしたのを見たときは、それを欲しくなるに違ひありません。女や老人の居る家ではどうしても日本室なしには困ると思はれます。しかし、それは初めだけで、西洋風の家に慣れると、日本室が却つて面倒臭くなつて来て、終には椅子に掛けるのを望むやうになるのですが、やはり日本室を戀しくなるのも無理はないのです。

だから、寢室を數室とるならば其一室を日本室にして置くのも宜いでせう。下女の寢室も矢張り日本室にして置かないと、新らしく来た下女などを寢臺に寢させたら、すい分まご付いたり、困るでせう。

二階の寢室全部を疊敷にし日本風に座る様にして置いて、慣れるに従ひ、一室づゝ

寢臺を置いて西洋風の寢室に改めて行くのも一方法です。さう云ふ場合は扉を開いても疊を擦らぬ様に疊を敷く床を下げて張るか扉を上げ、厚い敷居を下へ付けて廊下から室へ入る時に一段、疊の厚さ丈け上る様にするのが宜しい。

階下へも小さな日本室を要求することがあります。女の人など裁縫などするとき、どうしても疊の上へべたりと座らなければ出来ないらしいです。私の家にも階下へ一室疊敷きの室を作つて置いてありますが、女共は必ずその室へ行つて仕事を仕て居ます、この階下の疊敷の室には下女が寝ることになつて居るのです。

疊敷きの座敷は廊下や他の腰掛ける室よりも、一尺二寸許り上げて床を張ると宜しい。

外氣を吸うて眠ると衛生に宜い、殊に呼吸機のためにはいつも冷たい空氣を吸うて、戸外で眠る方が宜いと云ふ説で、スリーピングポーチが米國で流行して居るのです。戸の無い開け放ちの室です。汽車の窓の様にした戸があり、風雨の時丈け閉ぢ常には開け放ちにするのもあります。私はまだ、スリーピングポーチを實驗して見ませんが、

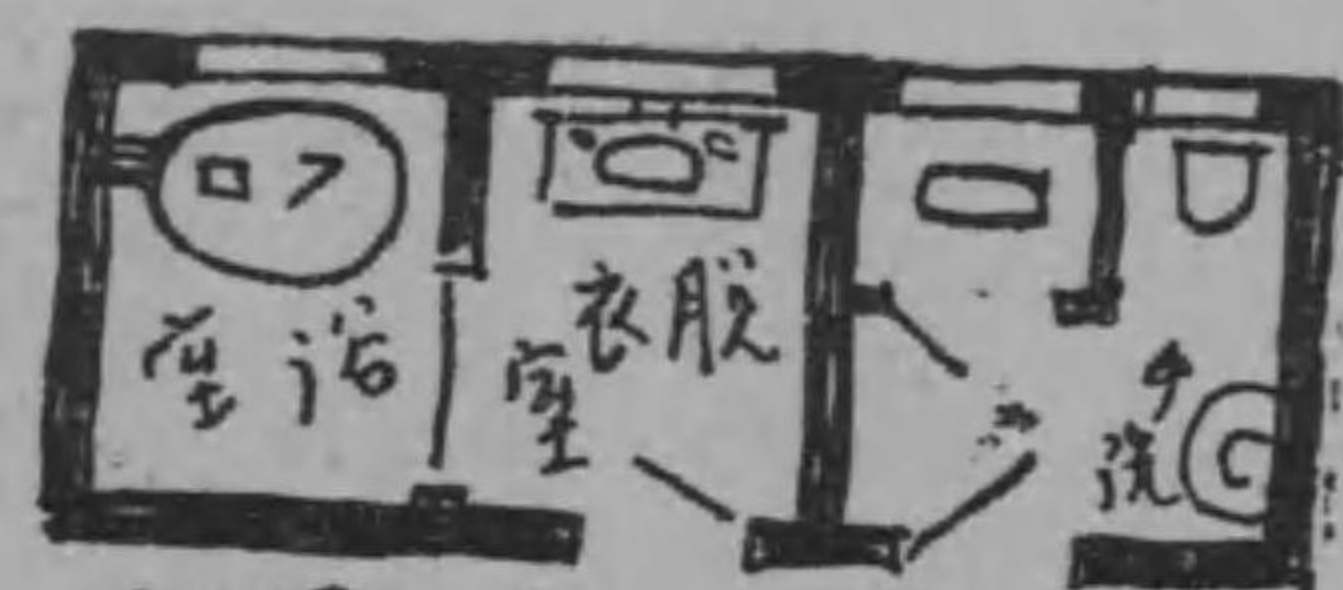
悪くは無からうと思ひます、試みて見たいと思つて居ます。

表の入口から直ちにホールに入らず、小さい玄關、^{*}ハヴェスチビウールがある家もあります。日本の様に下駄を脱いで上らねばならぬところでは、この玄關を土間にして、そこで履物を脱ぐ様にしたら宜らしい。私はホールの一部、入口のところを奥行四五尺丈け土間にしてそこへ履物を脱ぐ様にし、或は靴を拭ふマットなどを置いてあるのです。

日本在來の風習に依つて、浴場や便所を別棟に建てたいと思ふ氣持もあるが、現今の洗い流し式の便器を使ふならば少しも臭氣がなく、便所をはなれた所へ置く必要はありません。寒い時、風雨の際、たとへ廊下傳ひでも、遠いところへ一々行くのは毎日のことですから積る不便は大きなものです。

浴室の設備を純西洋式にすることは、日本人にはまだ容易に行はれますまい、西洋風にするに、浴室の内へ腰掛けの便器を備へ、別に便所はなしに済みますのですが、そんなことは今のところ日本人に工合が悪いでせう。我々、殊に女子子供はよく便所に

* Vestibule



日本式にたい浴場と便所



洋風式にたい浴場と便所

通ふ人種で、外出しても至るところに「はゞかり」を探して居ます。劇場とか公共建物へ行つて見ると便所が賑ふこと盛なものです。服装が便所へ行くのに便利のためか、だらしないがためか、食物の関係か、とに角よく便所を塞ぐのです、だから我々の家の便所は浴場と獨立して、別に便所に一間を占領させなければなりません。二階作りで、二階に便所がある家でも、別に又階下に便所がなければなりません。外から一寸訪問して来た人、一寸用があつて寄つた人でも、便所の在りかを探索して居るのですから。

西洋式浴槽も西洋風に使ふならば床へ水を散らさぬ様に心掛けて静に入り、外でサブ／＼水をかぶつたりするのは勿論、かゝり湯などとしてはならぬ、それでは、どうしても今迄日本風をやつて居た習慣の人々には心棒が出来ないせでう。

だから我々が洋風建築をするときは、浴場は二階にして、便所を隣りに並べ、便所もなる可く大小兩便所を作り、成る可く洗ひ流しの式にし、浴室は床を水の洩れぬ様にアスファルトの紙などを重ねたものを敷き其上にコンクリートへセメント塗りにするか、敷瓦を張るかにしたらよいと思ひます、尙、階下にも大小便所を設備し、階上のは西洋風腰掛の便器にし、階下のは外から来る人も使ふから日本風の便器で洗ひ流しの式になつたのを取付けたら宜いでせう、斯うしたら餘程完全に近い日本向きの西洋館の設備となると思ひます。従つて費用も大分かゝりますが、浴場や便所にはなる可く奮發して置いたら、後で自分の家を有つことの幸福を感じるのは第一に斯の様な設備の善いことを覺へる時にであります。

金を掛けることを欲しない、簡易生活の家であるならば、殊に夏期に丈け使ふ別荘などにするのであるならば、便所は家から少しはなれた所でも宜いでせう。しかし便所はどうしても在來の臭氣のひどいのは困ります。臭くない便所に就てはまた後で述べやうと思ひます。

英國風の住家には便所や浴場が二階にないのが多くあります、もし便所や浴場を下へ設けるなら、階段の付け方をよく考へて、二階からたとへ寝巻のまま階段を下りても、外來の客に見られずに便所へ行ける様に、階段とホールとを仕切るやうにしたら宜いのです。

4

設

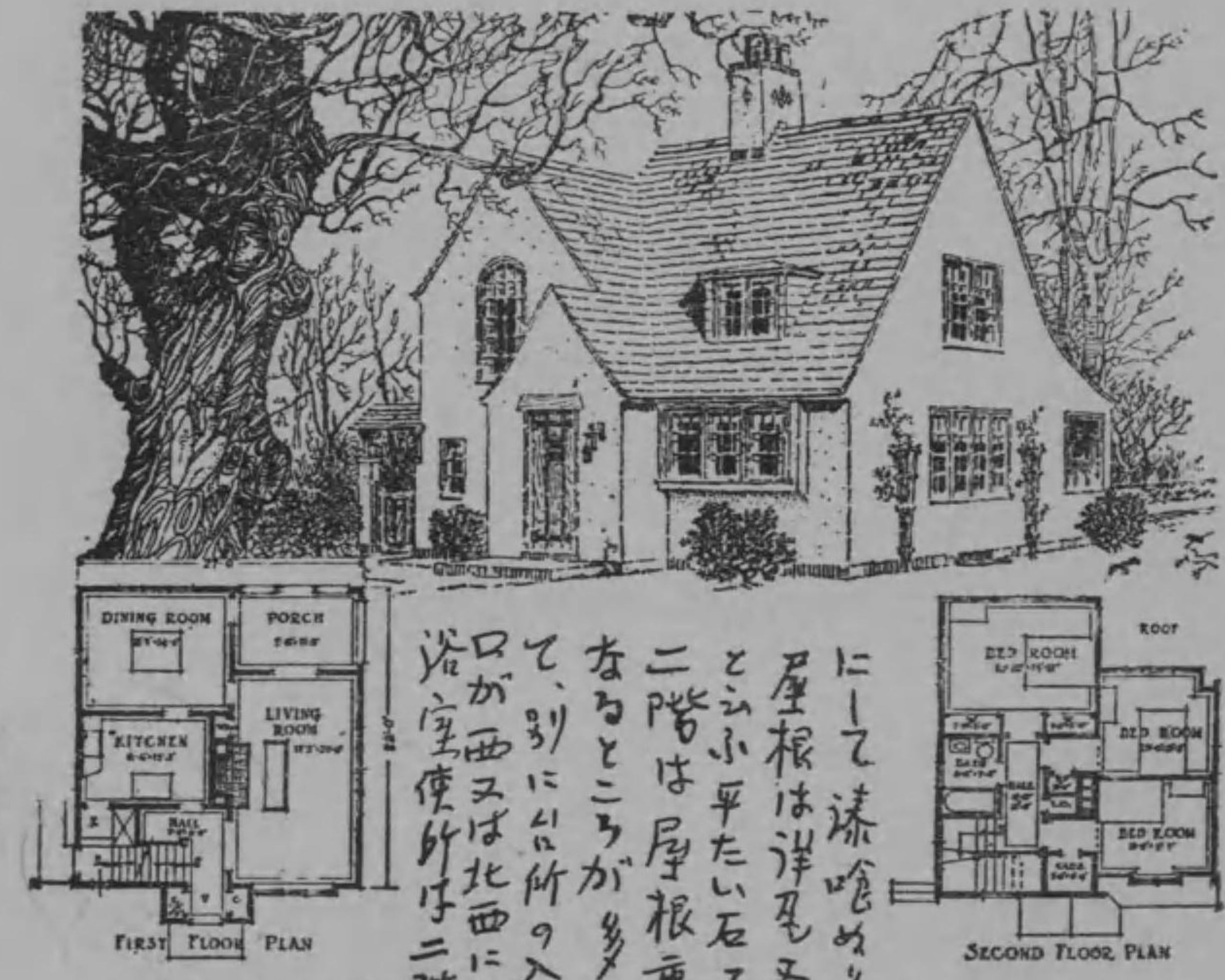
計

家を建てるには先づ撰定した土地に似合ふ様に家の設計をせねばなりません、平家が宜いか二階建が宜いか、またどんな形なのが此の土地に相應しいか、市街地の狭い土地なら三階にも四階にもせねばなりません。その大きさはどれ位、室數は何個、土地の有様のみならず、家族の數に應じ豫算の額に依ることなどは重要な問題です、其他何も彼も無限の事情と要求とが互に中よく調和しなければ出來ないので、家を建てるにはその本人が自分自身と考へねばならぬので、それがまた非常に面白く樂しみなものなのです。頭をつかつて、そのことが大變興味ある仕事なのです。

建築家に設計を依頼するにしても、(立派な建築家は中々缺點なくうまく設計して呉れるでせうが)大體の工夫は先づ自らせねばなりません。間取の工合など自分で略圖を種々に引いて見て、自分が最もよいと思つたのを建築家に見せたなら其れを基にして、こちらの趣味嗜好など酌取つて設計して呉れるでせう。

建築家、建築専門家と云つても種々あつて、普通の建築家は主に材料の強弱とか、豫算見積りとかの算數的の頭が働き、様式は何々、構造は斯く斯くと云ふことなどを考へ、理論上の便利な設備などは十分に行届く設計が出来ると云ふが、真に楽しい家を作り、心持ちのよい住居を作ると云ふことは職業的の建築家よりも、常識的に自身の種類々の經驗を考へ、理想を參酌したものを土臺として設計をした方が宜いと思ひます。建築は立派な藝術であり詩でありますから、自分の感情、信仰が、建築のリズムに現れるのでせう。我々は詩情を持つて設計に取かゝらねばなりません。

自分の心、考へを現はすのに言葉だけでは不充分なことが多いのです。文章でも思ふことの半分も現すことは出来ずまい。身振り手真似を加へても割合貧弱な表現にしかありません。然るに繪圖を以て示すと云ふことは、物の形態に關する考へを他人に傳へるのには最も便利な方法です。繪圖は他人に示す計りでなく、自分の考へを自分にはつきりさせるために必要なものであります。だれでも言葉を使ふ様に、誰れで



これは近頃米國で設計せられた英國コワテージ風の小さい家です。煉瓦作りで、外壁はスタコ塗りなのが本當ですが、木造にして漆喰めりしても出来ます。屋根は洋瓦又はスレート或はフラグストーンと小平たい石で葺くとよく似合います。二階は屋根裏のやうになつて、天井が斜になるところが多々あります。小さい玄関があつて、別に台所の入口もあります。此の家が入口が西又は北西に向くやうに建てるに宜い。浴室使用は二階にあります。地下室もあり、台所への入口のところが内蔵も降りて行きます。内蔵も外敷もよくとつた代住宅です。

も繪を描き、圖面を作る事が出来る筈です。幼い時から學校でも稽古して居るのですから、遠慮なく繪圖を利用したら宜い筈です。繪を描く習慣を付けて置くのは便利なことです。私は人と話をするときでも、何時も雜記帳と鉛筆を持つて種々な圖を描きつゝ話しをします。勿論走り描きの略圖でも、どんなにか自分の心を人に傳へる助けになるか知れません。建築のことも初めの思ひ付きは心で考へるのですが、それを正確に定めようとするにはどうしても一々圖を描いて見なければなりません。

建築に関する書籍、設計圖案などを數冊求めることは決して無駄でないのみならず、必要なことです。此の種の書籍圖集などは割合高價なものであつても、建築費の一部であると思へば數十圓を費す位は知れたものです、日本出來の書物も種々あるが日本の洋館設計は皆いくらかづゝ改悪されて居ます。西洋の新らしい建築圖集などには我々の意想外の工夫が年々加はりつゝあるのを見ます。外國語を讀まない人でも、繪を見るのですから、外國のものでも十分に役に立ちます。

我々日本人は何でも小さいものを好む傾きがある様です。土地も狭く、財布も小さ

く人間も小柄ですから、建築物でも我々が設計するときには小さい室をこまかくと澤山取りたがります。都合に依つては小さいのも仕方ありませんが、出来るならば或一室、リビングルームか食堂かを思ひ切つて大きくして置くこよいのです。雨の多い國では毎日降り續く陰鬱な日に、小さい室に閉ぢ籠るのは實に苦しいものです。室の大きさは大略左の通り位のもので宜いかと思はれます。

	日本尺にて		
	最小	普通	大形
ホール	5×7	8×24	12×30
應接室 談話室	12×10	13×20	20×25
リビングルーム	12×15	14×20	20×25
食堂	13×10	14×20	18×25
臺所	10×9	13×13	13×15
書齋、事務室	10×8	10×13	13×18
寢室	10×12	13×18	18×24

浴場

6×7	8×10	10×13	
ポーチ、ヴェランダ	6×10	8×15	10×25

右は大凡の寸法で必ずしも斯んな規則があると云ふわけではありません、しかし用材の長さの関係上から西洋風の家でも室の大きさを八疊とか十疊とか、日本座敷の大きさと同じくしたら便利です。

家に關する色々のことが大體心に浮び、どれ位の大きさのどんな室とどんな室が必要と云ふこと、どう云ふ工合にそこに住むかと云ふ想像が出来ても、さていよいよ家を建てることにして、紙と鉛筆と物さしや定木を前に置いて、圖面を作り取りかゝると、問題が急に現實的になり、ボンヤリ頭で考へる様なものでなくなりません。

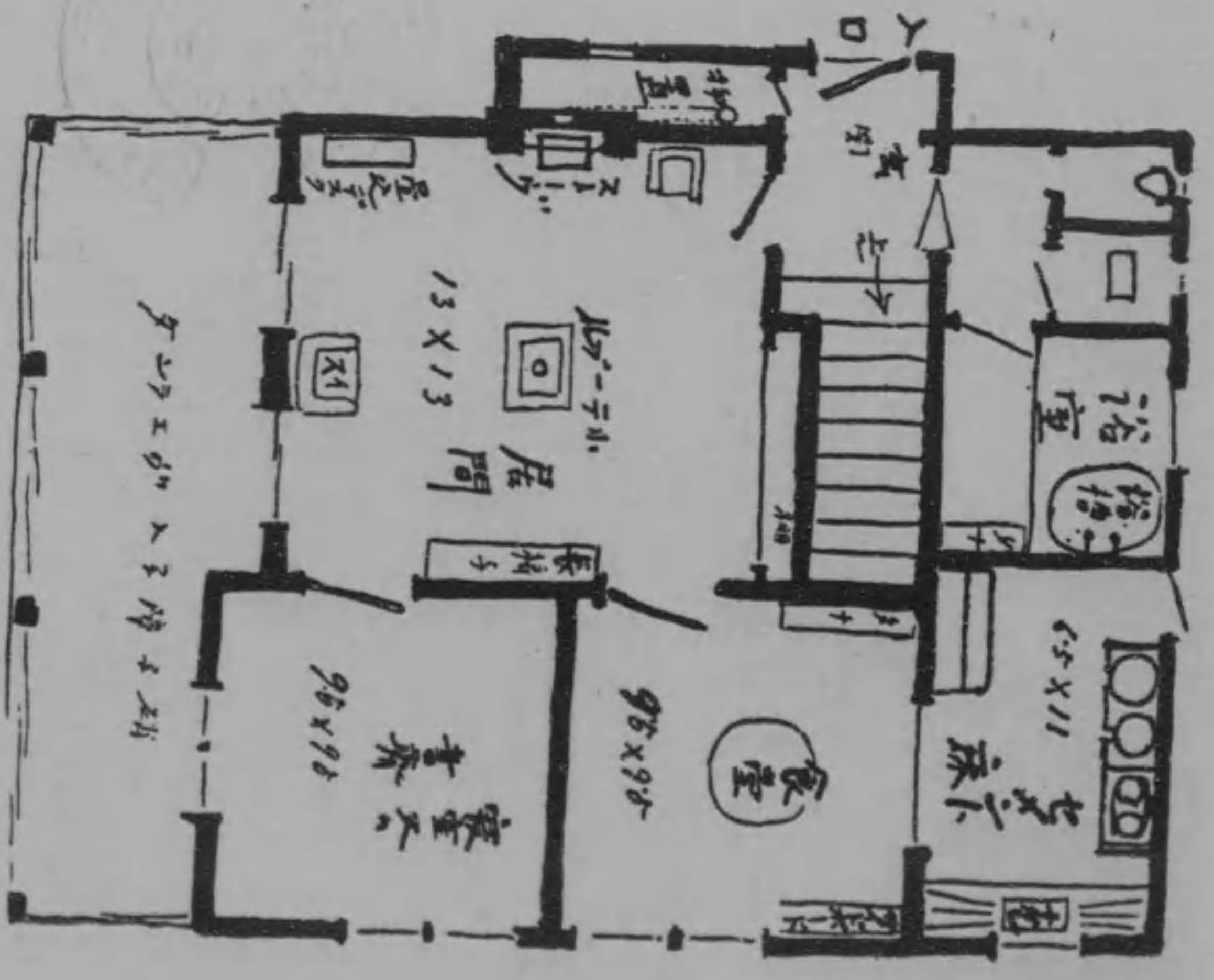
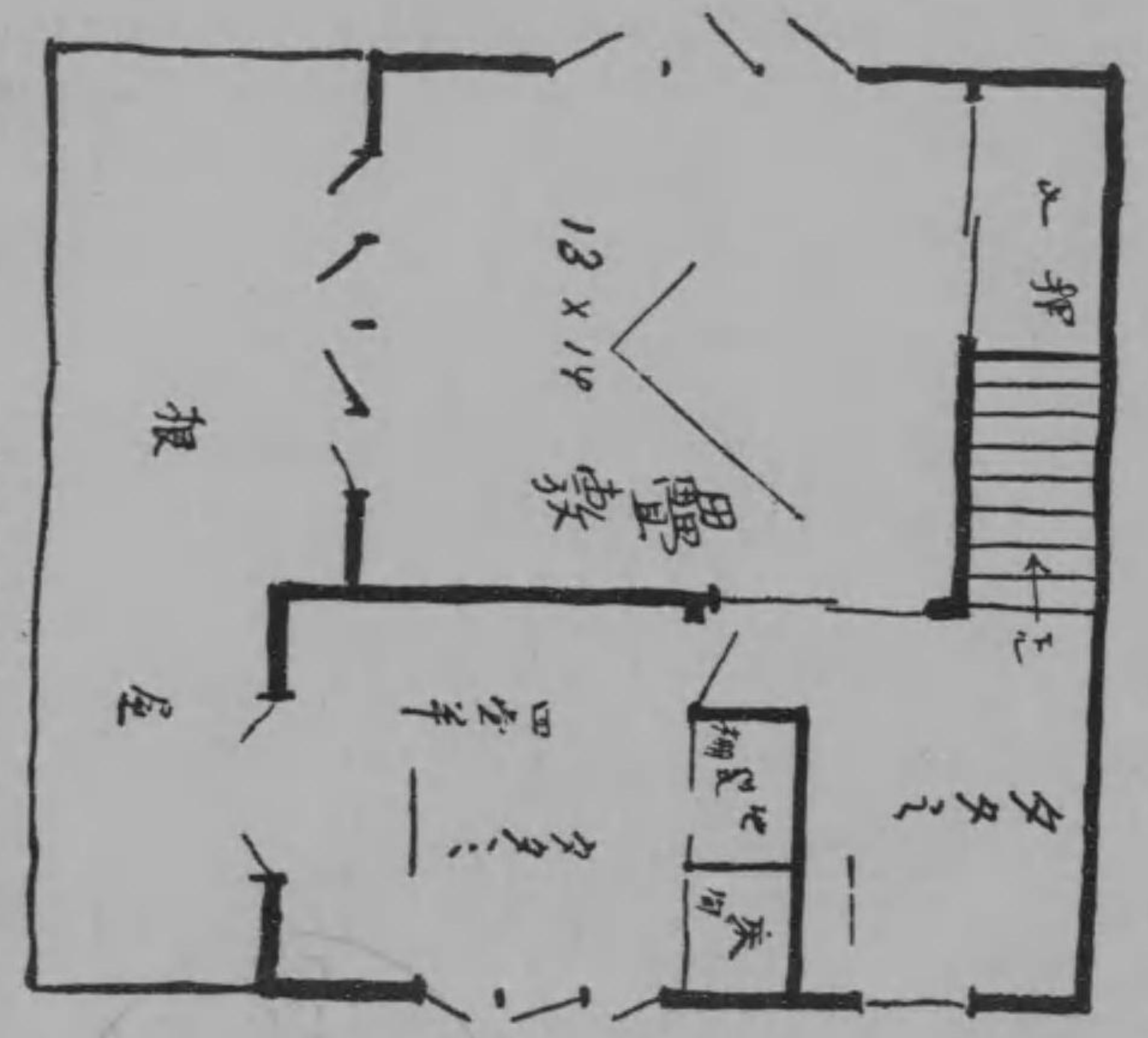
家の圖面を作るときは必ず既にそれを建てる土地が決つて居て、其の地圖が出来て居なければなりません。我々が實際家を建てるのでなく、たゞ自分の考へを紙の上に表して見ようとして、家の圖をひく時がありますが、その時でも如何な土地、どんなに向いた、どちらに出入口のある敷地へ建てるのであるかを先づ定めてかゝらねば、

家の間取りを描くことは価値ありません。だから本當に家を設計するには地面が十分研究されてからでなければなりません。たゞ土地を眼で見ただけで、こゝが玄關、こゝが庭など、宜いかげんに決めたら後で斯うすればよかつたなど、悔いることがあります、だから先づ土地の圖面を正確に取り、家の位置や、入口の付け所をよく考へねばなりません。

日の當り工合、風の流通の工合、勝手口の便不便から洗濯場の干場のことまで考へつゝ、土地の圖面と首引をして考へることが必要です。さうする内に、建てる可き家の設計が漸々、心の内に出來上りつゝあるのです。

設計に取りかゝる第一は土地と家との關係を考へることですが、家の位置と大體の間取りの工合が想像されても、それを正確に圖面へ出すには、各種の室の位置、方向が、どの室はどうすればよいかと云ふことを知つて置かねばなりません。先づ最もよく使用される、最も主要な室の置場所を決めるのがほんどうだらうと思ひます。

階 二



のりもたけつな階二に家たてたに上の山が著

居間、リビングルームは最も主要な室ですから、南向きの、日當りのよい、快活な、窓の大きな室にす可きものでせう。そして成る可く大きい室にして、正方形でなく、長形の室にしたいものです。同じ面積でも正方形より長方形の方が広く感じ、實際広く使はれ、氣持ちもよろしい。

或る場合には、間取の都合にも依り、外觀のため、窓の工合に依り、室を四角形にせず、或る部分が出張つたり、曲かまの手になつたりすることがあり、また出窓があつたり、イングルヌック*があつたりして、色々な變化ある形ちの室が出来ることもあり、それ相當に住み心地よく考へるならば、此の様な室が面白いでせう。

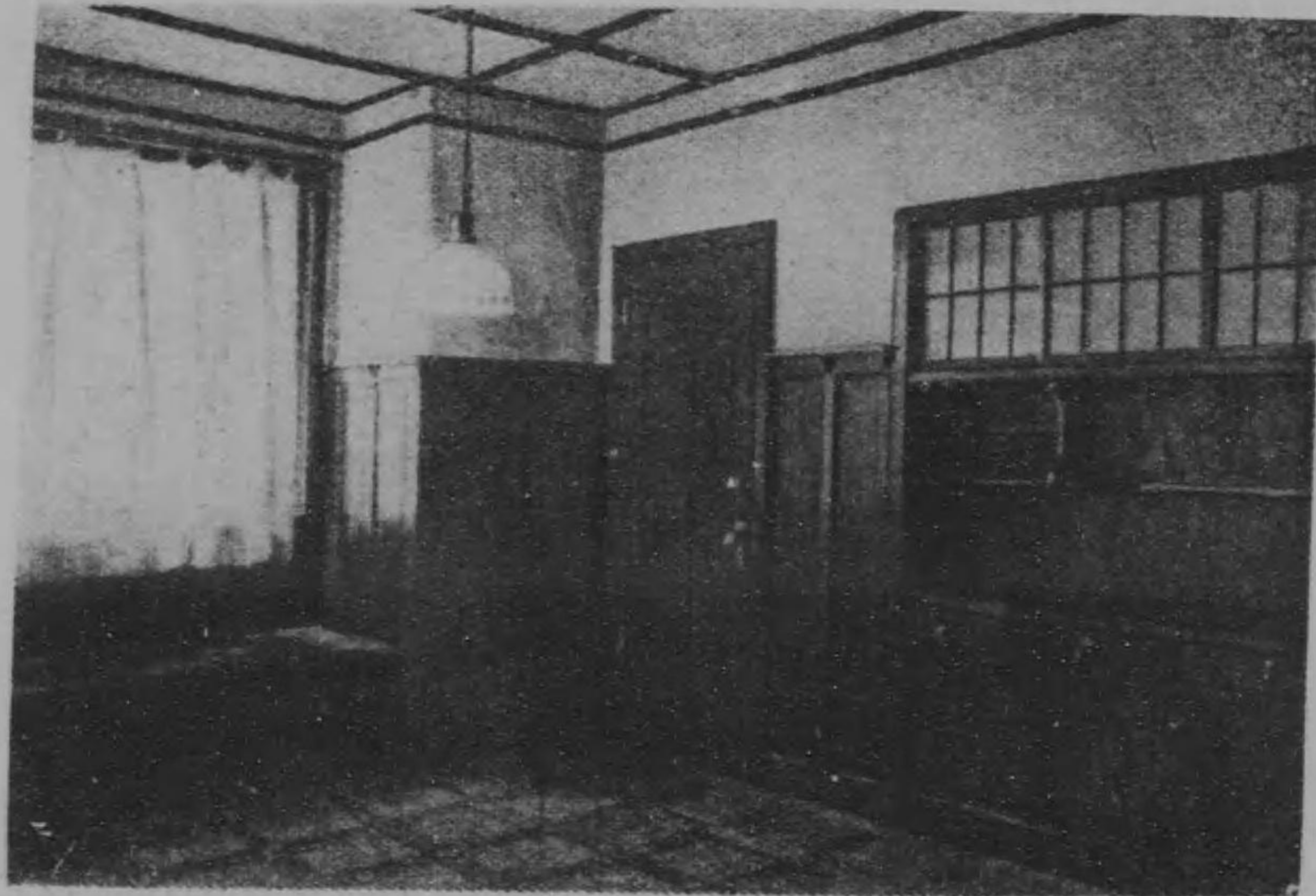
談話室、應接室などの客を迎へるのを専門にした室は西側へよつても、北へ向いても宜しいが、裝飾的な室ですから、室から外を見た時も、美しい庭園や花壇の見へるやうにして、庭へも一寸出て行くことの出来る様にしたら宜いのです。お客様と室内で計り話しをして居る以外に、一寸庭へ出て花を見せたり、樹の下のベンチへ腰を掛

* Ingle nook

けたりするのは、より自然な交際ではありませんか。

食堂は東向きか、東南か、東北かに向いたのが宜しいが、取扱方に依つては西向きでも差支へないでせう。下手な八卦見が方角を云ふ様に、これでは東西南北みんな宜いと云ふわけですが、食堂は實際、向きよりも、光線のよく入る、そして窓から見る外の景色が氣持ちの宜いものであることを要件とします。夏、暑い時に食堂が他の室より蒸し暑かつたなら、全くだめです。西向きの食堂は夏の夕食をまづくさせる惧れが多いでせうから、ヴェランダなどで夕日が食堂に射し込まぬやうにせねばなりません。

落付いた、奥まつた食堂を要求するなら、臺所に近く、客間や居間と廊下をへだて、割合小さく作つたら宜らしい。小さいと云つても、中央に食卓を据へると其中が三尺位ですから、椅子が其廻りに一尺七寸計りの巾で場所をとり、其後に通り道として二尺以上要りますから、完全に食堂として使はうとしてはどうしても十二尺角以上は要るのです。が、小人数の會食するものだったならテーブルも少し小さくしたなら、



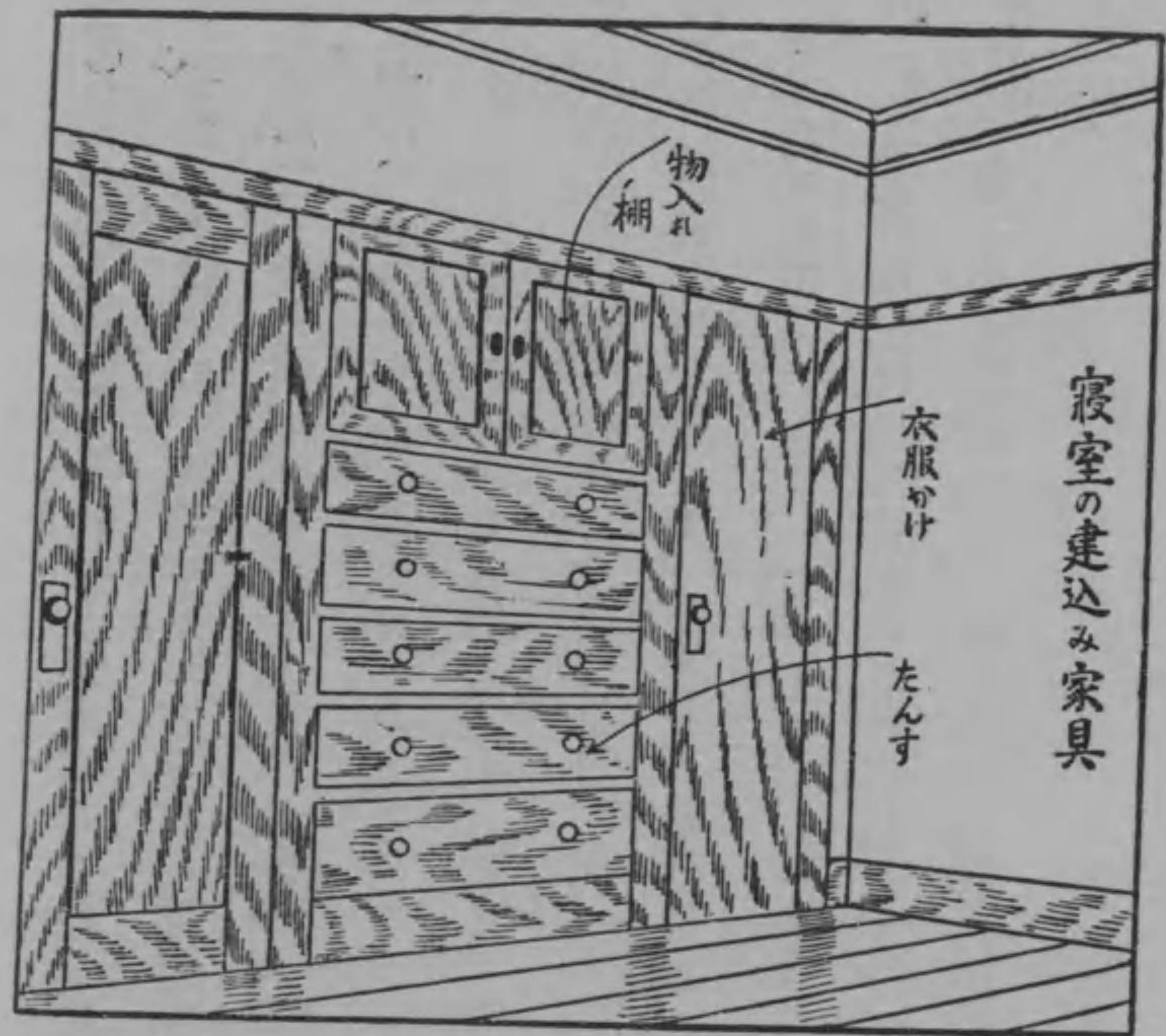
食堂

建て込みのサイドボード高い腰羽目
腰羽目の上にせまい皿立ての棚
寄せ木張の床
押出し窓に皮のふしんを敷いた巾の広い腰掛
け
玉子色の壁
白漆喰の天井
細い天井竿さまはりぶち
木部はダークマニホガニー塗り

九尺巾位でも宜いでせう、極めて狭い室を食堂とするには座席¹を一方の壁へ付けて、食卓に向つた人の後ろを給仕人が通ることのない様にしたものにするのです。私が夫婦と子供二人位の時、四疊半敷の室を數年間食堂として間に合せましたが、それでもお客さん二人位は割り込むでも差支へなかつたのです。

食堂に、食物や食器を臺所から持つて來て、テーブルへ出すまでに載せて置くためにサイドボードとそれから食器を入れて置く戸棚とを置くのですが、そのかほりに、³建て込みにした棚を作り、サイドボードとチャイナクロセットの役をさせるのが此頃の新しい家のやり方です。つまり、奥行の浅い押入の様なものを作り、上部は硝子戸を入れて食器入れとし、中程にテーブル様のところがあつてサイドボードとなり、其下にまた戸棚を付けて物を入れ得る様になつたものです。これがあると室が小さく片付いて居るから便利です、建て込みの家具は最初設計の時から考へて置かばなりません。

⁵ビルトインフアーニチュア（建て込み家具）は食堂計りでなく、どの室でも、箆笥、



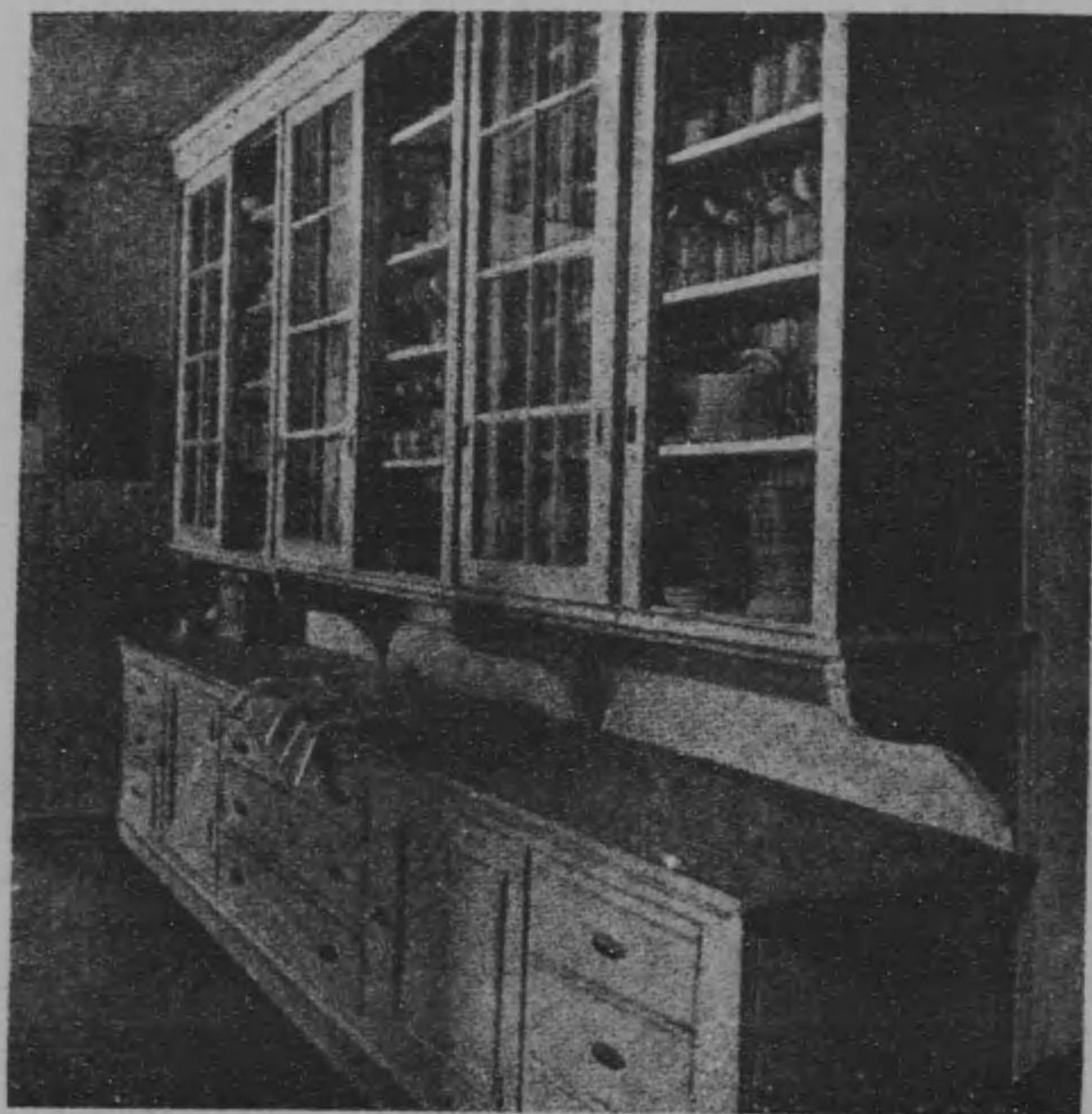
書棚、食器棚、其他事務室の帳簿書類棚や、醫家の藥品や器械を入れる棚、金庫、冷蔵庫其他何んでも大きな家具を移動し得るものにせず作り付けにすると、體裁よく片付きが宜いのです。大きな家具を置くとき其後ろの壁との間や下の方に塵が溜つて掃除に困ります。日本室は押入があるためによく片付きます。押入れは既に一種の建て込み家具ですが、それをもつと便利に、整理し易くしたもののなのです。

臺所の向きは、家庭に關する雑誌などには、東南に向いた日當りのよい衛生的なところでないといけないなど、書いてあるが實際に於てはそんな宜い場所は、居間や、食堂や、平家作りだつたら寢室や子供の室などを取らなければならないから、臺所にはこんな第一等の場所を與へることが出来なくなるのです。然し、日光のよく入る、明るい、涼しい室でなければならぬのですから、東北に向つたところがそれに最も適して居ます。東北がどれないなら、西北向きで少々暑いけれども辛抱するわけです、北向きで西も東も塞がつては日光が入らず、病氣が入る恐れがあります。西向きだつたら北の方も開いた室に爲なければ風通りが悪るかつたなら、臺所として不都合です。

臺所と食堂との間に、パントリー（配膳室）を設けるのは種々の便宜と必要があるからです。臺所からパントリーを通つて食堂と往來する様にしたのと、パントリーを獨立にしたのとあります。臺所から扉一枚へだて、食堂へ出るよりも、間にパントリーのあつた方が、食堂が氣もちが宜いでせう。臺所から一旦ホールへ出て食堂へ行く

様になつて居るならば、パントリーは臺所の隣りへ獨立して宜しい。此の室は食器や食料品を置くための棚を設け、食卓へ出すものをよく整理して置く室ですから、小さいもので宜いのです。押入れの少し大きい様なものでも宜いわけです。少し大きくするならば、七尺に九尺以上にして、流し場の小形のものを付け、戸棚も多く作り、食器の内でもお茶の道具や酒の硝子器など此の室で洗つて仕末するのです。日光がよく入る様にしなければなりません。餘り日がよく射し込んで室があつくなると、食品を置くのに不都合です。小さい家には此室が無くともすみます。

臺所でもパントリーでも、食器食品を入れるのに、置き戸棚より作り付けの棚の方が宜いのです。ビルトインにしても戸棚は浅い方が宜いのです。一尺二三寸の深さにしたら上等です。棚の上部の戸は硝子を入れ、下部の戸は木にす可きです。日本風の押入の様に奥行が半間もあるのは中が暗くて不潔不整理になります。また戸棚の中、殊に食品を入れるところは空氣の流通が宜くないと臭氣が溜つて甚だ不快です。金網など張つて戸を入れると網の目から埃が入つて食品にかゝります。だから戸棚は硝子

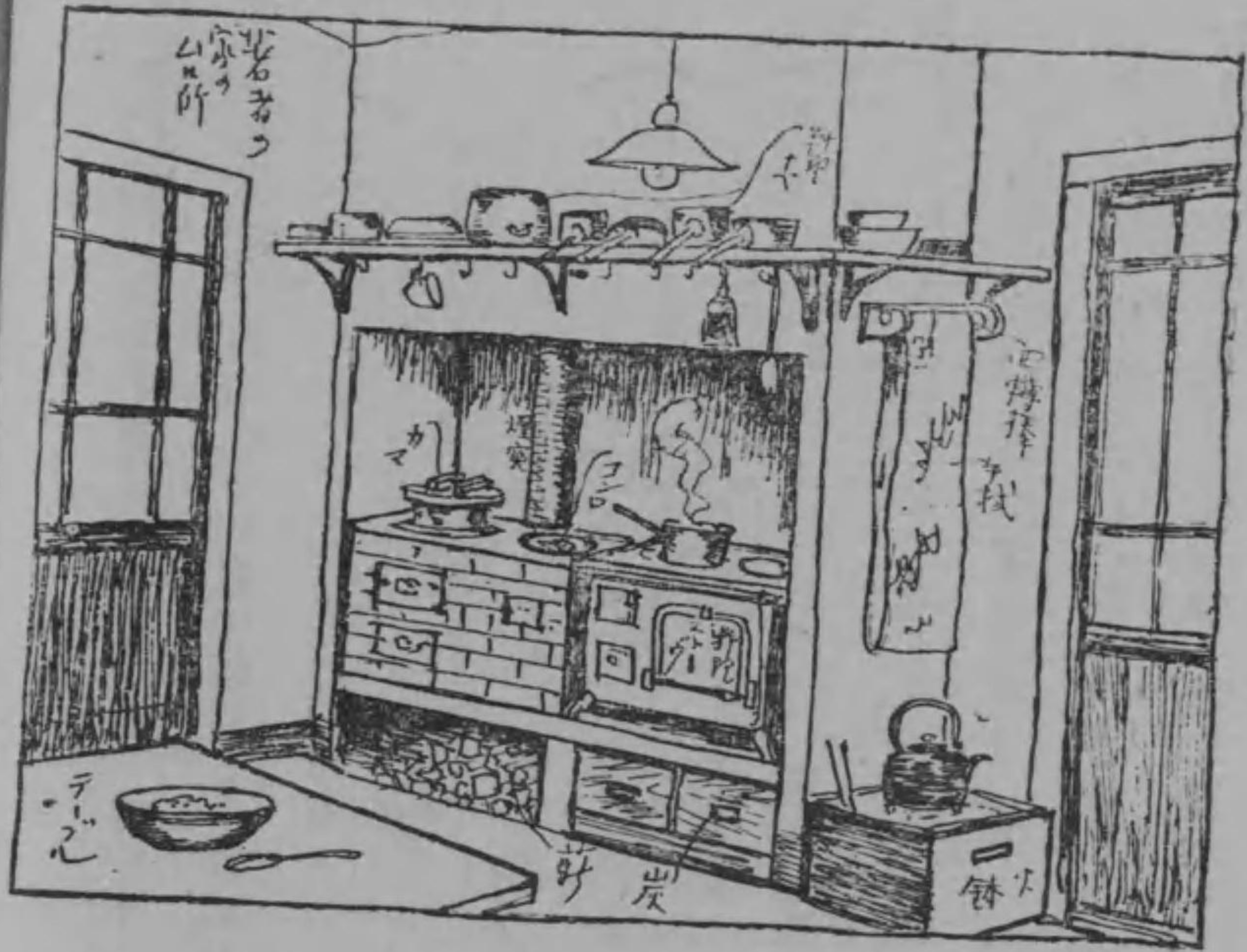


臺所又はパントリーの棚
上部は硝子戸入り食器棚
下部は上の棚より四寸計り出て居て、引出しや開きの戸の付いた物入れて其上がテーブルとなり料理臺となる

板の戸をキッチンと接する様にし、空気は棚の後の壁に窓を明けて、外気が棚の中を流通する様にすれば甚だ宜しい。流し場の下へ棚なんかを拵へたら、必ず外壁に小窓を開け外の風が自由にその窓の鍍戸と金網の戸を透して入る様にしなければ宜しくありません。



流しは、外壁の方へ付けて作ることを要します、斯う云ふことも初めから考へて居なければ設計が完全に行きません。流し場は明るい、窓際に付けねば清潔になりません。ストーヴ、料理用の竈は、臺所の窓から来る光線を受ける様に、窓と對ひ合つた壁に付けて置く様にし、煮炊の臭気や、熱気が家中を這ひ廻らぬ様に、竈の上に空気抜き設備をすることも必要です。天井から漏斗を逆にした様なものを竈の上に下げて空気をそれへ吸ひ込む様にするか、押入れの様などころを作り、其上部から屋根の上に達する空気抜きの筒を付け、其の押入様の場所へ竈を据へるかするの



です。だからこのことも設計の時から考へて置く必要があります。

臺所の體裁をかまはぬ場所ではありません。下女又は主婦が多くの時間をこゝで過すのですから、便利も考へねばなりません。其上、氣持ちのよい體裁であらねばなりません。

他の室に割合善い方角を占められた後で、玄關や便所などは西向きか西北向きへ廻されねばなりません。斯んな室に最上の位置を占領したならば損です。

ポーチ、又はヴェランダは、南、東

の方へ付け、または、夕日の直射を防ぐ目的を兼ねて西の側へ付けることもありま
す。見はらしの宜い、廣い庭に向つたところに向いたがよく、食堂や居間、又應接室
などから直ちに出来る様な位置に置かねばなりません、玄關の無い家だつたら、ポー
チを居間の前へ付けてポーチが玄關の代りになる様にするのです。

小さいポーチが臺所から外へ出るところへ作られてなければなりません。雨ふりな
ごに八百屋や魚屋の來たときや、荷物など到着した時などに此の裏ポーチが無ければ
何といふ不便でせう。

寢室は二階作りの家だつたらば、東南向き、東向きなど寢室として理想的の方向の
室が自由に出来ます。平家作りならば、東南は居間か食堂かに占領されるならば、東
向きの室を多くとれば宜しい。西向の寢室は夕日の熱がこもつて居て、夜寝るときに
尙暑苦しくて困るでせう。

寢室の衣服箆笥や化粧臺やなんかを建て込みにするならば、又は押入を作るならば、
これ等も設計に加へて置かねばなりません。

寢室から露臺（バルコニー）へ出られる様にする可きことでも考へる可きことです。

寢臺の置場を初めから、室のどの場所へ置くかと決めて置く必要があります。室が出来てから寢臺の置き工合が悪くて困る可きこともあります。

浴場は臺所の眞上に置くと、臺所のボイラーから湯を送るのに近く、鐵管工事が容易に出来ます。平家作りならば臺所の近くに作る可きです。

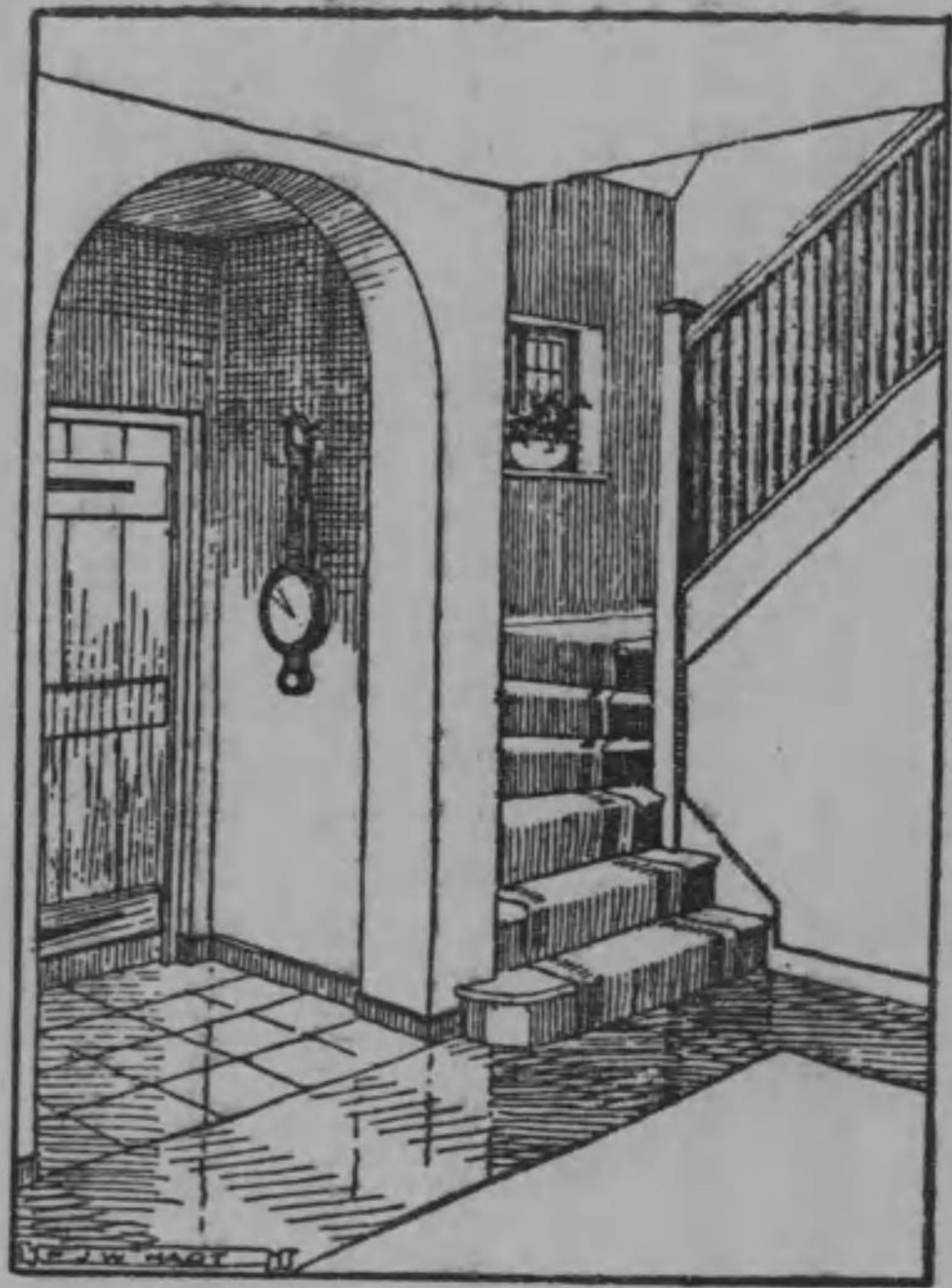
臺所で湯釜を焚かずに、地下室か又はボイラー室を別に作るのなら、臺所と往來に便利な様にして臺所の人が仕事をしつゝ湯釜を焚くことの出来る様にして置けば便利です。

地下室は家全體の下を広くとつたものと家の一部分だけ地下室にしたのとあります。一部分を地下室にするならば、成る可く臺所の下か臺所から近く、入り易いところにする可きです。地下室を拵へるなら二間角以上の大きさをなければ、折角作つても小さいものだつたら用を爲しません。

階段は家の内部の主要なもので、内部の裝飾ともなるものです。階段は家の内を賑

やかな心持ちにさせるものです。従つて善い階段を作るには費用が多くかゝります。

その手摺りなどは種々の意匠に作られ、踏板なども善い木を使つて丈夫に體裁よく作らねばなりません。



らねばなりません。

階段は多くはホールにあり、普通の家は玄關へ入ると、階段が大げさに見える様になつて居ます。しかし、近頃は、或る建築家などの主張するところに依ると、階段あまり目立たやうに、ホールから壁で仕切られた場所に置いた方が宜いと云ふことで

す。さうすると、二階と下との區切りがよく付いてよいさうです。成る程さう云ふ設計の圖繪を見ると其の方が宜さうです。そして、階段が壁にはさまれる様になるか

ら手摺りなんかの立派なものを付ける世話がなく階段も安く出来上ると思ひます。階下から二階迄、一息に上るのは昇るのに中々骨が折れますから、途中で踊り場おどりばを設ける必要があります。多くの場合には其踊り場で階段が屈折するやうに出来て居ます。踊り場が無ければ上るのに息が切れる計りでなく。小供などが轉んだとき、止るところがなくて二階から下まで轉げ落ちる恐れがあります。廻轉階段は踏み板が三角形になつて居て。よく足をふみすべらし、上り下りに甚だ危険であるし、心持ちのよくないものですから、成る可くそれを避けねばなりません。ホール、(廣間)はたゞ階下の廣いもので、何の役にも立たぬ様な氣もしますが、斯う云ふ室はまたその役目があるものです。*リヴキングホールと云ふ、居間として使ふことの出来る廣いホールもあります。融通の利く室です。

種々に繪圖を引いて見て、間取りが決つたら、各室の出入口の扉ドアーの付け場所や窓の位置、大きさ、それから暖爐の位置を決めねばなりません。



暖爐、¹ファイアプレースの木造の家でもすつかり煉瓦積みにせねばなりません。其煙道も屋根の上に突出するまで全體煉瓦積みにするのです。煉瓦積の煙突は地震に弱いものですから、四隅に鐵筋をたてに通さなければなりません。その構造法は後に記します。

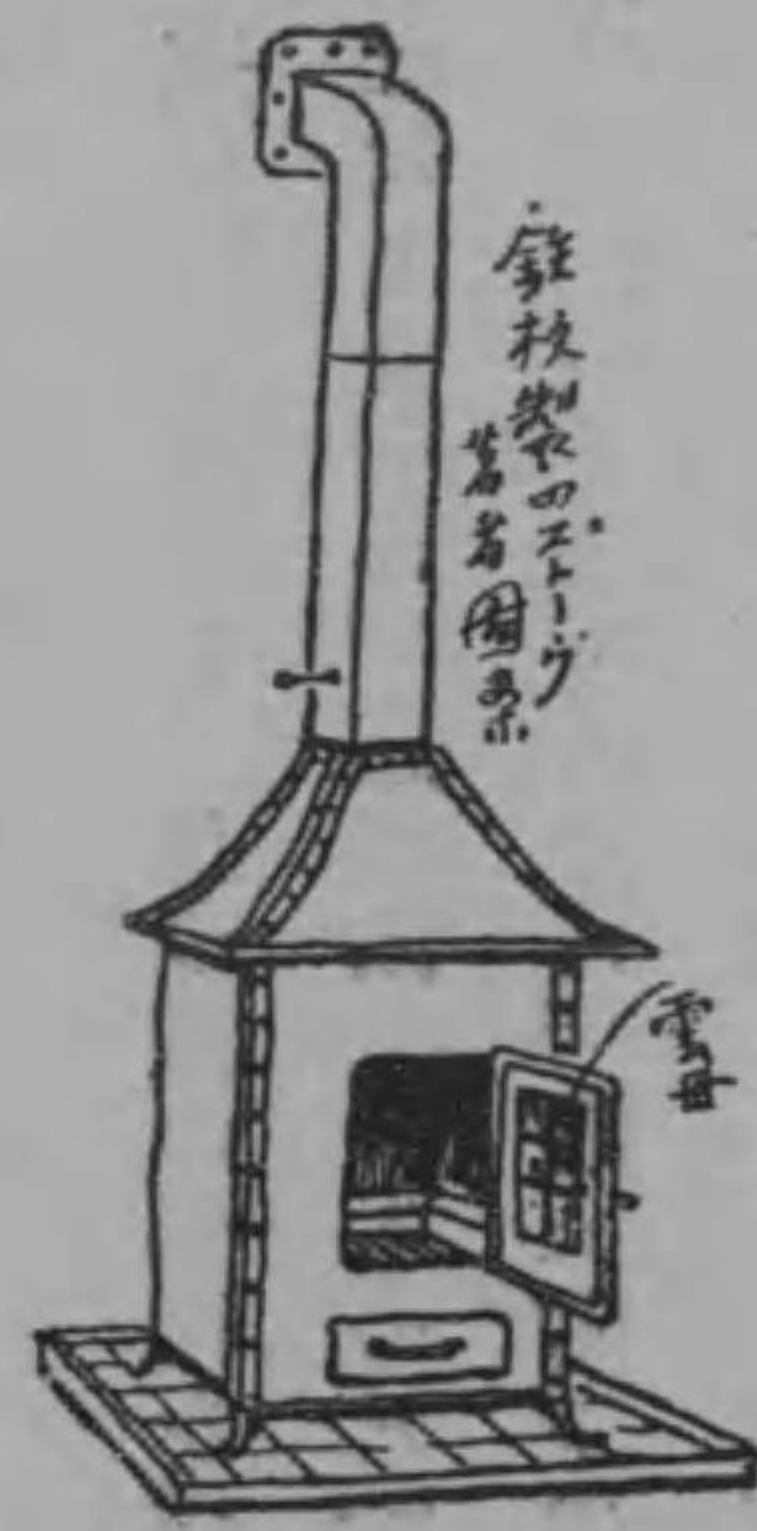
暖爐を付けるごそのために費用が大分かゝり、熟練な煉瓦積工を要します。²ホットエアヒーティング ³ホットウォーターヒーティング 熱空氣暖房や熱湯暖房装置が現今の多くの家に行はれて居るのに暖爐などの必要が無い様に思はれますが、しかしファイアプレースは西洋室には無くてならぬもの

日本の床の間の様に室の裝飾の中心點となる場所で趣味として、も現今皆他の暖房裝置を設備しながら、矢張りファイアブレースを捨て得ぬのださうです。蒸氣や熱空氣などで室を暖めるのよりもチラ／＼と燃ゆる裸火の光を面に受けて、爐の前に座はつて談笑するのは寒い日の大なる慰めでありませんか。

然し、私は經濟から、財布の大きさから考へて、我々日本人にはファイアブレースが無くてそんなに物足らぬ感じは爲ないのであらうから、略しても宜いかとも思ひます、私は南國の暖い所に住んで居ますから、何の暖房裝置もなしに冬を通します。もつとも、大きな火鉢に火を入れて椅子を其廻りに置いてあたるのですが。我々は火鉢の火を圍むことに依つて親しい、楽しい家庭の團欒が得られ、友人との話しも佳境に入ります。火鉢の火のこと、灰のことなどに關しては種々の考へもありますが略します。また室の裝飾的中心と云ふことも、室へ飾り棚、書棚などを置き其上に色々の置物など置く事によつて相當にうまく行くものです。

しかし、矢張り眞正のファイアブレースはあるに越したことはありません。眞正の

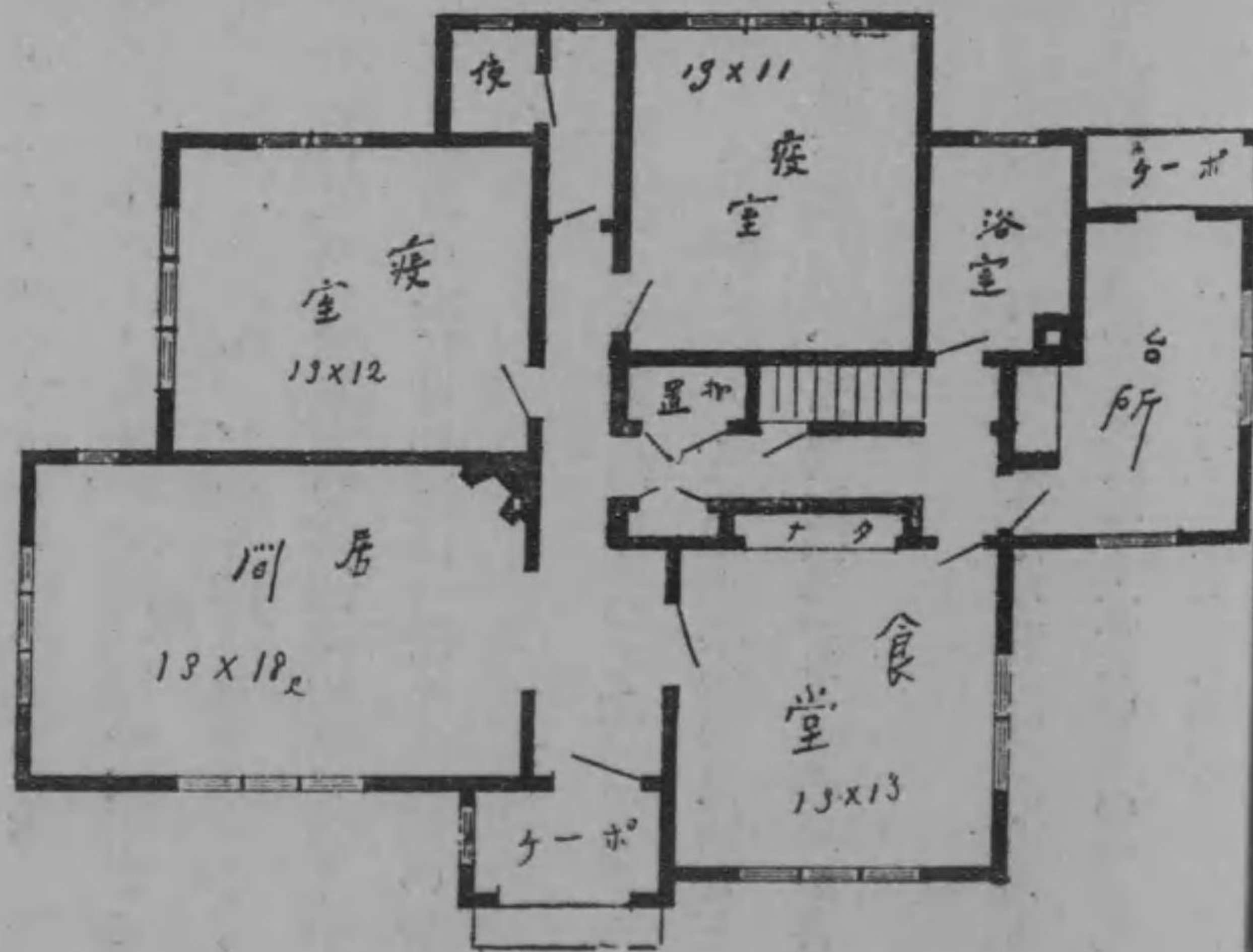
西洋風の生活の味を味ふためには是非ファイアサイドの味を見ねばなりません。暖爐の位置は室の出入口から成る可く遠いところにし、窓のある壁でない壁へ付けるのが宜いのです。



鐵の置きストーブを暖房のために用ふるなら、費用は少なくすむし、燃料も少なくて熱を多く出しますが、あまり感じのよいものでありません。趣味としてはよくないものです。殊にその煙突が鐵板などで作られて家の外壁から屋根に向つて突出したのなどは殺風景なものです、假小屋的の簡易な家には

さう不似合なことはありませんが、よい住宅にはストーブは適しません。

扉は室の隅から五六寸乃至一尺位はなして付ける様にしなければ、出入口が室の隅へあまり近くなれば額縁が納りません。開き戸を室の壁の中央へ付けると扉が大廻轉をして場所を塞ぎ開閉に面倒です、扉は九十度丈け開けば宜しい。



引込戸、(スラディングドア)は應接室、談話室や食堂とホールとの間などに用ひます、大きく開いて気もちが宜く、各室が隔てなく廣々とした感じになるものです。開け放つときは戸が壁の間へ引込まれるので、二板の戸を兩方へ開けると七八尺も開くことが出来るのです。引込戸にするのだつたら、壁の中央が開く様にする方が宜しい。

窓は室に適當し、且つ家の外觀を作る重要なものとして、外觀との適合に就て考へねばなりません。窓は階上のものと階下のものが一直立線上に重なるやうに付けねば外觀が宜くありません。階上階下の窓が揃はずに亂雑になつて居ると家の形が醜くなります。しかし、必ずしも上下共同の様と同じ大きさの窓を揃へねばならぬのでありません、都合に依つては二階と下と窓が大きさも數も異はねばならぬのでありますが、それでも成る可く揃ふ丈けは揃へた方がよろしい。窓の位置を定めるのには建て圖を作り、それへ窓を描いて見るのです、そして、よい感じになる迄、種々やつて見る可きです。

空氣の乾燥した國では夏の暑い時に窓が小さい方が却つて外から熱の射入を防いで涼しいけれども、我々の國の様に濕氣の多いところでは、空氣の流通、風の吹くことに依つて、汗を蒸發せしめ、冷氣を得なければなりません。だから窓は割合大きくする必要がありません。英國の家は總體に窓が小さい様です、日本で英國式のコツテージなどを建てたなら、英國のものより遙かに大きな窓にしなければ蒸し暑くて、夏の暑い夜などは安眠することも出来ない位ひでせう。

しかし、あまりに窓を大きく仕過ぎるなら、夏は外から副射熱が入つて却つて暑く、冬は寒さが餘計に感じ、室の感じが散慢で落付きが無くなります。小學校の建物などあまりに硝子窓計りで、あんな家は却つて寒暑が甚しく、光線が強過ぎて、心地が善くない計りでなく衛生にもよくありません。

窓は割合小さくても、風が少しあるなら、壁に突當つた風が、みんな其の窓から通り抜けようとするから、僅かの風のときでも、窓から吹き込む風は強く涼しいものです。室と室との關係、間仕切りと扉との付け方に依つて、風が巧く家ちうを吹き通る様に設計すれば、夏は涼しいのです。涼しい家に住むことは大なる幸福であります、小さい室でも空氣の流通の工合で非常に涼しいのがあります。

風が如何な工合に各室を流通するであらうかを考へるために、夏期に主として吹く風の方向を知り、(夏は主に東南から北西へ風の吹くことが多い様に思ひます)家の圖面へ窓の位置と扉の位置を描いて、その上へ風の流通の工合を線を引いて描いて見ると宜しい、若し自由に風が流れ通らず、行詰りが出来るところが出来たら、色々工夫して窓や扉の位置を變へたりして改良するのです。

室内の床から天井迄の高さは、西洋館と云へば高くするものだと云ふ觀念があるけれども、西洋の近頃の住宅は割合低いのです。殊に田舎家、カンツリーコツテージ¹式のもの²は天井のひくいのが特徴です。天井の高い室は空漠な寒い感じがします。スナツグな²コジーな氣持ちが生まれません。スナツグな心持ちは狭くて温かな、巢の様な感じ¹でせう。或る人々は徒らに大の字に惚れ過ぎて居ます。大なもの、價をのみ認めて、小さいものに深い清い樂みと親みのあるのに氣の付かないことがあります。天井の高

さでも、家の大きさでも、徒らに大きなもの計りが宜いのでなく、小さなものでも、其れが我々に適して居るものであり、我々がそれを楽しみ得るならば、その方が宜いのでせう。

小さい室、小さい家は自らスナッグな結果になるのですが、大きな家にでも、デンとかモーニングルームとかスモーキングルームとかの小さい物数奇な意匠の室を付けてコジイな感じを有たせることがあります。また、イングルヌックと云つて、居間や應接室の一方に回んだ小さい室の様なものを付け其の回んだ小室の突當りへ暖爐を設けたりして、天井もそこ丈は特に低くするなどもこの感じを作るためです。

床から天井迄の高さは階下では八尺から九尺位で十分でせう、二階は八尺位、二階の軒端の下つた構造の家だつたら天井が斜に張られた部分が出来、其の低いところは五六尺になることもあります。

低い、カントリーコツテージ風のもものは七尺か七尺五寸位の天井の高さにしても宜いと思ひます。

間取りの工合、構造の工合で、その家へ被せる屋根が種々になります、屋根の作り方で家の外觀が全く左右されます。家の外觀は人間の姿勢容貌の様に内部の精神を表はします、家の持主の氣質が見えます。白紙の上に一本の線を引いて其墨色で人を判断するやうに、家を見て人の心が幾分判ります。家は立派な藝術品であり、氷れる音楽であると云はれて居るのですから、家を作るときは眞面目に藝術品を作る心で、自分是一個の藝術家であると自信して、自分の持つ美的智能を盡くしてやらなければなりません。

西洋建築の屋根は勾配の急な、大小の棟と破風の交錯したものでなければならぬ様に考へる人が多く、また或人は田舎の學校や安建築の洋館の屋根の様に寄棟造りに限るものだと思つて居るやうです。

屋根を複雑にすると家の感じが小さくなり、コセ付いて見え、實用上にも修繕が多く、谷が多いから雨漏りの惧れも多くなります。成る可く簡單で、イヤ味のない、實用から出た美しさを持った家の外觀は、何時迄も飽きが來ず、謙遜な、眞實な形の家

を所有して毎日そこに住むことは自分の生活を眞面目なものにし、自分の人格を作る助けになるでせう。

家を建てるに、其の土地の周囲と調和させるためには、屋根を作るのに其の地方の民家、昔からある民家の屋根の様式を參酌するとよろしい。其地方の氣候や材料やの工合で其地に適した型が出来て居るものですから、其れを無視して全く異つたものを作るよりはそれに調和したものを作る事を考へたらよいと考へます。

北の寒い地方は急勾配の屋根が多く、南國の屋根は緩いのが當り前だと思ひます。雪とか風とかの關係上斯んなになつたのかと思はれます。私の居る地方は南國で、民家はみな緩い屋根を持つて居ます。私の家の屋根も同じ勾配にして單純に一棟の大きい屋根で家を蔽ふて居ます。家の平面圖は割合凸凹がありますがそれでも單純な屋根を被せてしまつたのです。そして此地方の百姓家などの様に破風にガンキと稱する板張りの前垂の様なもの下げました、それで私にはそれが西洋風の家にも割合よく調和する様に見えます。

平たい屋根、陸屋根と云ふものは市街地の商店など屋上庭園テラスガーデンでも作らなければ庭がないと云ふ様な建物に限る様に思はれますが、郊外の住宅へでも其取扱方が面白く出来るならば陸屋根も悪くはないと思ひます、費用も大してかゝるわけでもありません。屋根の防水材料に費用がかゝつても小屋組が要らないから差引き普通の屋根と同じ位いになるでせう。市街住宅で庭の狭い所だつたら、陸屋根にして屋上庭園を有てば、夏など涼むことが出来て愉快でせう。

バルコニー、露臺など、よく小説や何かで西洋建築を取扱つたものへは必ず出る語ですが、それは、屋根の無いポーチの様などころで、多く二階の平面にあり、其下が玄關の車寄せなどになつて居るところです。露臺は人の歩ける陸屋根なのですから、雨の漏らぬ様にせねばならず、勾配のある屋根との調和を考へねばなりません。一寸そこへ出て涼風を求めたり、物を日に曝したりするのに宜いところですから、金の餘裕があつたらば、其取付工合に細心の注意を拂つて作つたら宜いでせう。

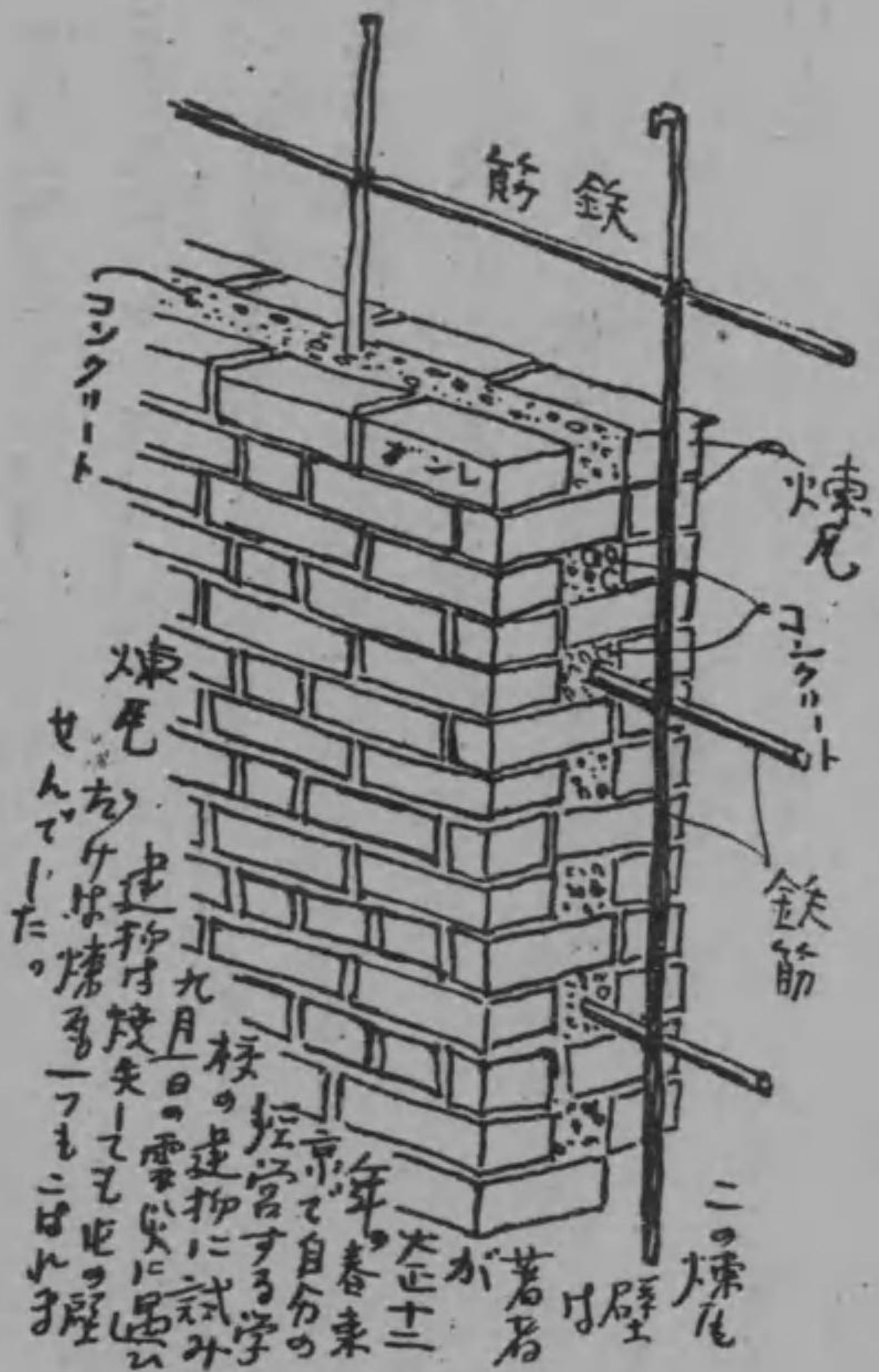
よくやつて居るのですが、日本造りの家と洋館とを並べて建て、和洋二重の生活

をして居るのは、贅澤で、不便で、建築物として見る時に不調和不體裁で、多額の費用をかけて却つて生活を面白くなくさせるのです。過渡時代だからとか云つて、どうしても日本座敷を多く付けねばならぬなら、内部は日本座敷にしても、外から見た形は、西洋風建築の部分の様式と揃へて、日本座敷の部分も外壁や屋根や、窓ぶちなどを同じくすることに爲たら宜しいではありませんか。日本座敷は窓でなしに、廣く打開いて居ますから、西洋風の建築の様な外觀にはならぬと思はれるけれども、少し考へたら巧くゆきます。日本座敷でも、出来る丈け、窓を付ける様にし、廻り縁の付いたのなどを欲しければ、そこをヴェランダやポーチの様な形式にすれば、宜いではありませんか。

近頃は鐵筋コンクリートが大流行で、住家の建築にもずい分、用ひられて居るやうです。鐵筋コンクリートは火災と地震とに最もよく對へますが、工事を餘程眞面目にせねばなりません。そして相當の費用をかけねばなりません。煉瓦は西洋建築の代表的材料で、歐洲各國の建物には煉瓦が一番多く用ひられて居るやうに思はれました。石造は費用がかゝり、住家としては重過ぎるので、あまり多くないやうです。石造でも煉瓦造でも壁を積むときに鐵筋を積み込めば耐震安全のものが出來ます。歐洲から米國へ渡ると第一に氣の付くのは、木造住宅の多いことです。住宅建築は木造にするのが最も便利で、安價で、作り易いのです。煉瓦やコンクリートで作るのより、一坪當りの價格が甚安い故、同じ金をかけたなら木造にしたら煉瓦やコンクリートの家より遙に大きな、室数の多い家を作ることが出来るでせう。耐久と云ふ點からでは木造は腐朽するから、命が短かいので不經濟だとも思はれますが、如何に木造の粗雜なも

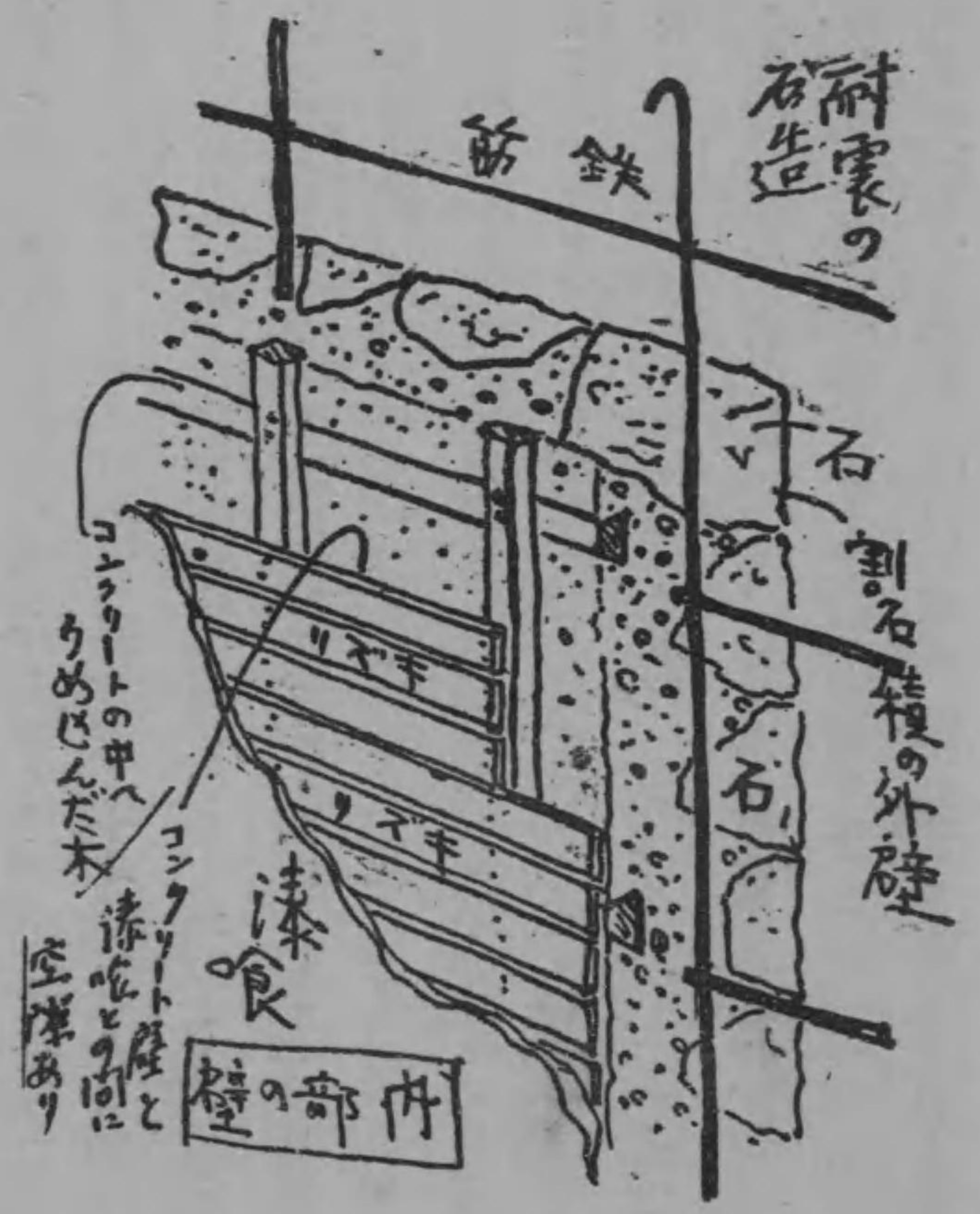
のでも三十年や五十年は保ちます。

昔の様に先祖代々同じ場所で同じ稼業を営むと云ふやうなことは今後は少なくなる
と思ひます。また生活



建てるのは、試験的などころがあつて、本當に我々民族にピッタリ合うた家や、生活の方法は、我々が種々と試みつゝある間に自から出来て來るのでせうから、今のところでは、ほんの間に合ひに家を建てる心組みで居て然る可きです。斯う云ふ考へからは、木造が一番適當だと認めます。

御飯をたべるお箸、象牙かなんかの立派なもので、祖父の代から三代目がまだ使つて居ると云ふ様なのと、白木の割箸を一度一度捨て、了ふのこの二通りは、どちらも相當の興味があり、贅澤さがあり、安いものでも、流行の



ります。着物なども、高價な、丈夫なものを永く着る主義と、

ものをいつも新らしく後へ〜と調へるのとあります。日本の在來の住家は、疊の表替へとか、障子の張り替へとか、屋根のふき替へとか時々あり、家全體の大修繕も時々廻つて來るのです。伊勢の大神宮が二十年目毎に全く新らしく建替へられるのさうですから、我々は割箸主義の種族なのかも知れません。最初の金をしつかり掛けて、永く用ふるより、時々分割して、時々新しい樂みを味ふことの方が、我々の性質や經濟狀態に適して居るのではないかと思ふこともあるのです。

木造で困るのは火の用心です。しかし、木造でも火災を起し易いやうな場所は木を現はさず、コンクリートの床にするとか、壁は厚く土や漆喰で塗るかすれば餘程安全になります。煉瓦作りでも、床や、扉のところや、小屋組が木材であるならば、火の惧れは殆んど同じ位ひです。煉瓦作りの家の火事は、煉瓦の壁が混爐のやうな工合になつて、却つて中々よく燃えるものです。

耐火構造で、絶対に燃えぬ家は、全部コンクリートにしたものです。勿論床も小屋組も屋根もみな鐵筋コンクリートにするのです。コンクリートの上へ煉瓦やタイルや

切り石などを、セメントで付けて裝飾したり、漆喰を塗つたりするのです。しかし、何も彼も不燃質物計りの家よりは、木の部分の多く見える方が、やはり、なつかしみがあつて宜いやうに思はれます。何の災害でも極端に心配したら限りのないことです。

鐵筋でなく、たゞコンクリート計りを板で作つた型の中へ詰め込みつゝ煉瓦作りの家の壁を築くやうに下から漸々と固まるに従つて一二尺宛、壁を築き上げ、漸々木の型を上へ舉げては壁を築いて行く方法で家を作ることにも出來ます。またセメントブロック即ちコンクリートで作つた人造石を築き上げるものや、中空瓦（ホロータイル）*で作つた家、それから自然の丸石をセメントコンクリートを繼ぎにして積上げたものなど色々な方法色々の試みが企てられ、相當の成績を擧げて居るやうです。

極めて安價な家を作るために、普通の泥土を以つて家を作る計畫も試みられて居ります。私共の地方の百姓屋などの納屋や肥料小屋などに、赤土と藁の細かに切つたものごとを交せた粘塊と石片や瓦の破片を積み上げて壁を築いたのがあります。土塀なごにもしてあります。あれを少し丈夫に厚くしたら、濕氣多い土地でないならば、十

* Hollow Tile

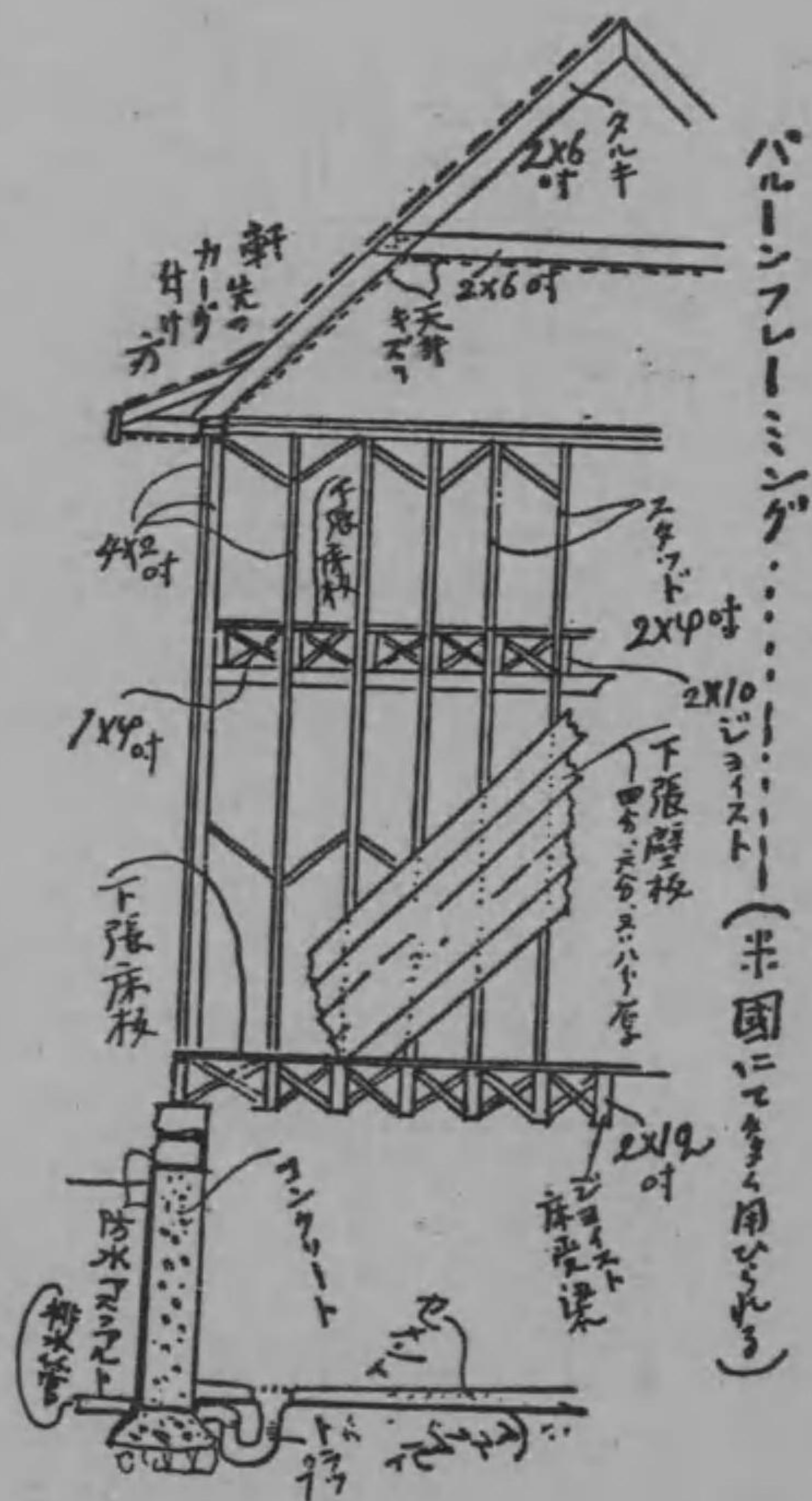
分家が出来てせう、二階建てでも出来るだらうと思ひます。土で作つた壁でも其上を綺麗に塗つたならば、滑かな表面でも出来ます。平屋の物置場や、自動車庫などに試みたら面白いでせう。

木造であつたらば、田舎の大工でも、其構造をよく説明して、一々繪圖で示してやれば可なり出来ます。西洋風の建て方は日本家と比べたなら、實に簡單なのです。米國式の木造住宅は鋸と金槌とがあれば、素人でも家を組立てることが出来ます。木造の上に煉瓦やタイルを張り付けて外見煉瓦作りの如く、外から来る火に對しても耐へる力が多いものが出来ます。漆喰を厚く塗つたものも火に對して幾分抵抗力があるでせう。

米國で一般に行はれて居る木造の構造は、先づ地形の上に厚さ二吋巾四吋位の日本の檜ひのきの様な木を平に一列に敷き、其れへ柱となる可き同じ大きさの木、*スタッドを豎に立て、斜めに釘を打ち付けて土臺の木へ固着さし、その柱の間隔は凡そ一尺五寸位にし、スタッドの間は筋違すぢかひの木を打付け、スタッドの頭へは又、平に同じ木を釘付け

* Stud

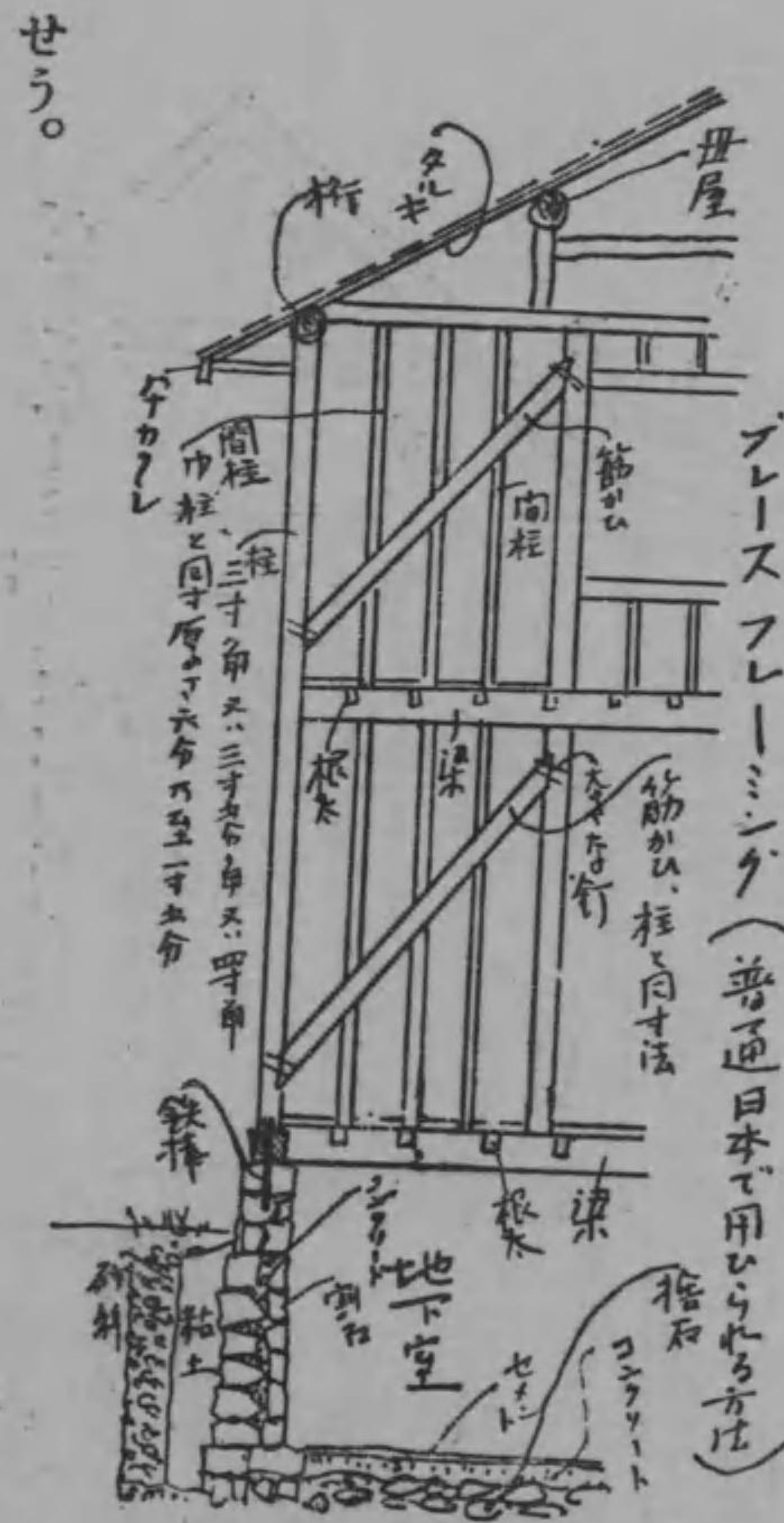
にして、家の壁の骨を作り、床を受けるためには、八吋乃至十二吋位の中なかで厚さ一吋位の板の様なものをままさに並べて掛け渡し、それに床板を張るのです。小屋組も日本



家の様な面倒なことをせず、例のスタッドにした木と同じものを、垂木の様にする丈で、小屋組などは要らないのです。

言葉を以つて斯んな建築の構造に關することを云ひ現はさうとすることは六ヶしいもので、此の書物も随分読みづらづらいところもあるでせう。斯んなことはどうしても繪圖で示さねばだめです。あまり言葉にたより過ぎて居る人は、便利な繪圖があつても、

それをよく見ることを爲す、直ちに説明を求めの傾があります。建築するのに必要なのは目で見る力です。時間、空間の、空間に關する觀念を發達させねばなりません。文學、歴史などの面白味は時間的因果にあるのでせうが、建築は全く空間的に物と物との關係し、押合ふのを考へるのが面白いのです。



この關係し、押合ふのを考へるのが面白いのです。木造建築の構造の大體は、繪圖に依つて十分御研究下されば明らかに分るで

せう。

日本で普通に行はれて居る木造洋館は、柱には角材を用ひ、根太なども日本室の様に角材や丸太などを用ひます。土臺も角材で、柱の立つ所はそれに柄穴を掘り柱へ柄を付けて立てると云ふ工合にし、間柱や筋違柱を入れるなど、これも圖面で見た方がよく解ります。

この建方であれば、一階の高さ八九尺位の家だったら三寸角の柱でよろしい。眞角な材木でなくとも、小丸太の兩側を挽いて三寸の厚さに揃へたものでいいのです、柱や其他骨組になる材木は少しも外へ表はれず、壁の中に隠れて了ふのです。

筋違は成る可く大きな對角線を作るやうに入れ、間柱と筋違との交るところは、間柱の方を切つて、筋違の方を通すことにせねば家が弱くなります。

米國でも東部地方では今でも此のやうな建て方で、ブレースフレミングと稱せられるのがあつたけれども、近來は大抵の木造の住宅は、前に云つた釘付けの仕組の式になつて居る様です。その建て方はバルーンフレミングと云ふのです。

英國の古風な家の式でハーフチンバーと云ふ、材木、栗の木の様な種類の材木を用ひ、頑丈に建て、柱は外へ現はし、柱や桁の間の空間へは煉瓦を積み込んで壁にする。と云ふ構造のものは雅味があつて宜いけれども材木が多く要り、割合高價な建物とな

るでせう。

二階を木造又はハーフチンバーにして、下の一階は煉瓦作りか、石積み（切石又は割石或は丸石）にしたものも面白いのです。

木造の家は真面目に作り、適當に筋違を入れたものなら、
* 一般的な地震にでも耐へます。

地形のことに就て云ふのが後になりました。木造の二階作り位なら、大して大げさな地形を爲なくともよろしい。初めから平たい地面でなかつたところ、傾斜地の一方を掘り下げ一方を埋立てたところなどであつたら、地形のことを餘程注意せなければなりません。建築後、だん／＼一方の埋めた部分が下つて、家が傾いたり壁がひび破れたりします。埋めた土地は其上に地形をせず、土の固いところ迄で掘り下げて、そこから石や煉瓦又はコンクリートの壁を築き上げ、地面から二尺位上までになる迄にして、それを



れを地形にするのが一番安全です。さう云ふ、土地の軟かいところは、掘下げて地形を積み上げる次に、地下室を作るのが普通です。地下室の壁が同時に地形になるのです。

乾燥した土地、傾斜した、水はけの宜い地であるれば地下室は雑作なしに出来ますが、湿地であるとか中々骨が折れます。水気が地下室へ滲み込むのを止めようとして、いくら地下室の壁の内側からセメントなど厚く塗つても何の甲斐もありません。壁の外側からセメントのやうな、水氣の滲すものでなく、* アスファルトか、アスファルト製の防水紙の厚いものを何重にも張りつけ、其上をセメントで塗つて、床面も同様に防水装置をしてから、其上にコンクリートを敷き、床の防水と壁の防水とは嚴重に聯絡を取つて密着させてどこからも水の浸入せぬ様にする可きです。

私が近頃友人のために設計して作つた地下室は、甚だ簡單なものです。割合成功しました、工費も僅かですみます。それは割合深い地下室で、其の土地はあまり乾きの宜くない市街宅地ですが、十四五尺計り掘ると水が出る位のところです。そこを八

* Asphalt

* Foundation

九尺も掘り下げて、其穴の底へ先づ二尺計りの厚さに石片や砂利を敷き其上に七八寸計りは粘土で床を締め、四方の壁は普通の割合で積んだ石垣にしました、ところが其の石垣の裏は矢張り粘土で詰めて、固く槌で搗き固めたのです。建築が出来てから後、長い霖雨に遇つたり、大暴風にも出合したが、地下室に水が入つて溜るやうなことにすみませんでした。

一丈以上掘り下げても、水の湧き出ぬところであるならば、此方法で地下室を作つて見られんことをお勧め致します。

家の一部分丈けが地下室になつて居るところであるならば、地下室でないところの地形は地面を搗き固めて其上にコンクリートを敷き、石や煉瓦を積んで高さ二尺計り厚さ七八寸から一尺五六寸迄の壁を築くのです。地形の外面へ現れたところは切石や煉瓦できちやうめに積むのもあれば、玉石や割石で荒つぽく仕上げるのもあり、其家の大體の感じと調和するやうにせねばなりません。

地下室などの無い、極めて簡易な家であつたならば、普通の日本家の様な礎を据へて其れに柱を直かに付き付けて建てれば、基礎工事費が少なくてすみませす。その場合には土臺作りよりも、柱の長さを延ばして、床から下、礎石まで丈け長くすることになります。

屋根の小屋組こやぐみの構造は、西洋式ならば必ず、棟束小屋むねつかこやとか、杵束小屋きつかこやとか所謂西洋合掌組がっしょうぐみにせなければならぬものゝ様に思ふ人もあるやうですが、住家は間仕切り壁が多くあり、梁を下から受けることが多い故、在來の日本家の小屋組でも宜いのです。振はなしの長い大きな室の上の屋根を支へる小屋組だつたら、どうしても西洋小屋が必要ですが、住宅にはそんな場合はありません。日本風の小屋組は大工も慣れて居るし、安價な曲つた材木などで作るのですから、頗る安價に出來、相當の強さもあります。屋根裏を利用するつもりであるならば、日本風の小屋組は邪魔な木が多くていけません。合掌がっしょうや母屋もやなどがあると其の木があるために天井裏が狭くなります。そんなものをなる可く無い様にする工夫を爲ねばなりません。樺木たかきは普通日本家のものは一寸八分角以内の太さのものです、其れを一寸厚さ位の、四寸巾とか五寸巾とか、屋根

の大きさを見はからつて、相當巾の廣いものにし、それをまさに使つて、一尺三寸間位に日本家の垂木の様に並べ、棟のところに向ひ合つた垂木をかき合せて釘付けにし

て持ち合はすやうにすれば、棟木も母屋もなにもなしに屋根が出来ます。極の上には裏枝を釘付けにすれば十分固まる道理です。

二階の外廻りの壁を低くし、二階の室の天井を、或部分は傾斜して張る様にする。二階の室が幾分屋根裏をつかふことになり、家全體の高さが低くなり、建築費も幾分少く、風も少く當ります。その場合、二階の室の低いところの壁の高



さは五尺位であつても、一方の高いところが八尺位あるやうにしたならば、窮屈なこ

とはありますまい。その屋根の下つた部分に窓を付けたいときは、窓のところ丈け別に破風を付けるか勾配のゆるい屋根を付けるかして、高く窓を付け得るやうにすればよろしい。斯う云ふ風にすると天井に色々な面が出来て却つて、複雑な面白い感じが出ます。

装飾のために、變化を求めめるために、別に實用上の要求なしに、種々なものを取り付ける様なことがあると、多く失敗に歸します。後でいやな感じがします。けれども必要なことのために、複雑になるのは、一向差支へないのみならず、却つて面白味が出て来るものです。必要なしに不用な仕掛けを加へたものは醜いものが多いのです。機械は蒸汽機關でも起重機でも何にを見ても醜い、厭な感じのものは無いと私は思ふのです。初めは無恰好だと思つても、よく見ると、其形ちがよく平均が取れて居り、調和があつて、いゝ形をして居ると思ふ様になります。機械はたゞ或る目的のために必要なもの計りを最も都合よく組合せてあり、其外觀を飾る装飾などに頓着して居ないから、却つて其れを見て氣持ちが宜いのだらうと思ひます。若し機械に種々模様を

付けたり、御定絞を付けたり、または機械の形を動物に似せたりしたものがあるなら
屹度其部分がいやに感じるであらうと思ひます。

天井が傾いたり、室の形が變つた形になつても、それが、わざとしたもので無く、
事情止むを得ずさうなつたものだつたなら、そのために幾何か利便があり、大きな不
便を感じないならば、何の遠慮もなく、さう云ふところを拵へても差支へは無いだら
うと思ひます。

二階を普通の高さにして、其上にも一層、屋根裏を利用して室を作らうとするなら
ば、少し勾配の急な屋根が要ります。勾配の緩い屋根の時は、人の住む室とせず、
物置きとするのもよろしい。私の家の屋根は普通日本家の屋根と同じ位の勾配ですが、
家の中が四間半計りありますから、屋根裏の中程は、人が自由に立つて歩くことが出
來ます。人の住む八疊敷位の室も取れます。屋根が床に接するところは物置として色
々な荷物を置いてあるのです。中々澤山のがらくた道具があつても甘く片付いてしま
ひます。

家根裏は夏は暑苦しいものです、しかしその様に空気が熱くなつて居ることに依つ
て、空気がよく乾燥して居て、物を置いても黴が生へたりせず、何時もカラ／＼して
居ます。品物を保存するのに都合が宜く、梅雨の期節でも、屋根裏の物置きにあるも
のは大丈夫です。それから、洗濯したものを雨ふりなどに此の屋根裏で乾かすと特に
火氣を用ひずともよく乾きます。

屋根うらの利用はほんの僅か計りの張り込みで出來ます。地下室を拵へるやうな費
用は要りません。

陸屋根と云ふ、平たい屋根、屋上庭園などの出来る屋根は小屋組が要らず、たゞ床
を張るやうにすれば宜いわけですが、しかし幾分か勾配を付けて置かないと屋根の中
程へ水溜りが出來たりしては不都合です。そして屋根を受ける梁が十分丈夫なもので
ないといけません。初め陸屋根を作るときに、根太の上へ板を張り、其上を歩いて見
たり、揺ぶつて見たりしても確乎りして居つても、屋根葺き材料を戴せ、其上に砂や
コンクリートやを載せて重味がかゝると、靜かに歩いても屋根が振動することがあり

ます。

屋根葺き材料では、日本の普通の瓦が一番手軽です。しかし、材料の目方は一番重いので、瓦の下に土を置いたものなんかは餘程の目方がかゝりますから、小屋組は丈夫なものでなければなりません。しかし、日本瓦は、どこにでも其の職人があり、家を壊しても瓦は再び使へるのですから便利徳用だと云はれて居ます。

スレートは日本瓦よりも軽く、近頃はスレート業者が殖へた故、割合安價に屋根を葺くことが出来るだらうと思ひます。日本瓦は勾配の急な屋根には適しませんが、スレートは急勾配には差支へないのです。

最も軽い屋根葺き材料は、ルーフイングペーパーでせう。これはアスファルトを毛製の紙の様なものへ浸ましたやうなもので、すい分前から米國より輸入して賣つて居るもので、ラバロイドとかマルソイドとか云ふ名で賣つて居ましたが此頃は便利瓦と稱して内地で製造して居るやうです、巾三尺位で、長六間程のものを巻いてあります。葺く時には裏板を高低のないやうに平等に張り、節穴などブリキなどで塞ぎ、其上に

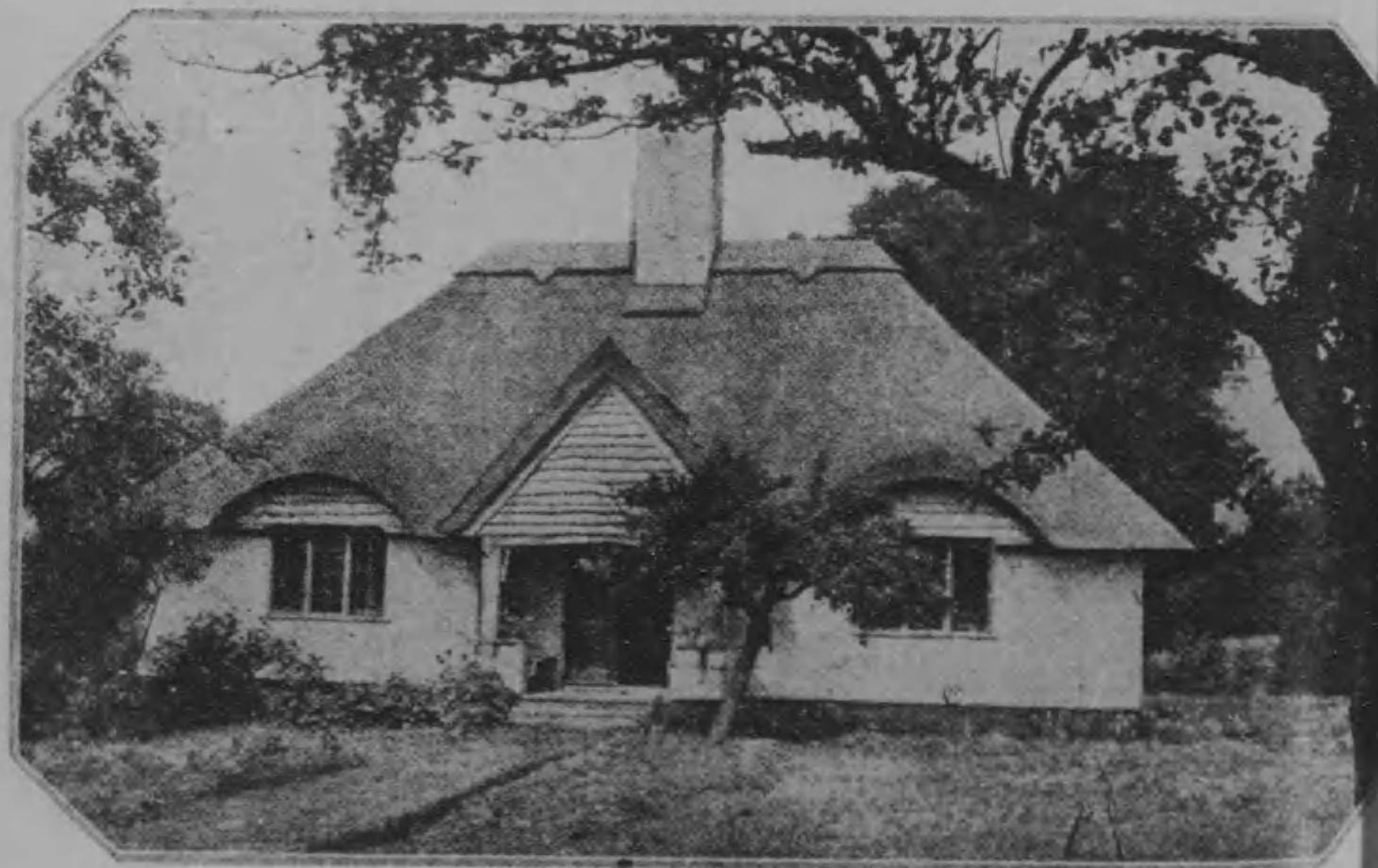
* Roofing Paper

ルーフイングを擱げて、日に温まつて十分伸びたところを釘で打付けるのですから、屋根葺き材料は安いけれども、其下地の裏板などに念を要れるので、相當の費用がかかります。厚いのと薄いのと、幾種にも成つて居ますが、厚いものでないと直ぐ破れて了ひます。

私が山の上に建てた家に、初めルーフイングペーパーを試みに葺いて見ました。建築が終つてから私は暫く旅行しました、其後で可なり強い暴風があつたので、どうかと思ひつゝ、歸り、其時分にはまだ汽車がなかつたから、汽船から上り、人力車に乗つて坂を越へると遙かに向ふの小山の上に自分の家が見えます。自分が設計して建てた家、小さい家だけれども、旅から歸つて遙にそれを見たときはうれしいものです。家は風にも飛ばされず安全に山の上に座つて居ましたが、その屋根に黄色に光つたところがあるので、近よつて見ると、ルーフイングが風のために直徑一間計り剝がれて居るのでした。そして其下の新らしい裏板が黄色に光つたのでした。旋風が屋根の上を通るときに吸ひ上げたのだと思ひます。屋根全體が一枚の紙になつて居るので、少



スレートの屋根



(國英) - ロガンバのきぶ草

しも空気のぬけるすぎが無いために、却つて吸ひ抜かれたものだらうと思ひます。ルーフィングペーパーで葺いた屋根が風のために剝がれて居るのを外でも時々見ました。此種の材料で葺くならば極めて厚いものを使はねばなりません。且つ此の屋根は美観上甚だ感心しません、けれどもこの屋根葺材料を一尺角位に切つてそれをスレートのやうに用ひたならば餘程見よくなるだらうと思ひます。

* アスベストスレートは石綿板とも云はれて石綿とセメントで板を作つたスレート代用品で近來盛んに製造され、相當の成績で用ひられて居るやうです。厚さが二分位で二尺角位なのや一尺角位なのや、色も鼠色のもあり赤色が、つたのもあります。耐久、耐火、輕重等の優れた點を有ち、黒色でないから日が當つて熱を吸収して家の内を暑くすることが少なく、釘が自由に打てるし、自由に切ることも出來、すべての點に於て理想的であります。色々の名を付けて日本でも賣り出してあります。斯う云ふ新しい材料で屋根を葺くのは、材料に親しみが無いためか、住家の屋根には雅致がない心地がするものです。けれども、此石綿板などは、その取扱方に依つて美しい屋根が

* Asbest Slate

出来ぬことはありますまい、これを適當に小さく切り、鼠色や赤色のを巧く配合して交せて葺くなどするのです。

各國に各種の瓦があります。日本でも西洋瓦など色々試みて居るやうです。また各國で各様に工夫され發明特許を受けた瓦が色々あつて、色々その長短があるやうです。外國の瓦はどの國のでも多くは赤色のものです、日本のやうな黒い瓦はあまり外に見ないやうです。洋畫家の多くは日本瓦の形ちと色とを嫌ひます。繪にするのに六つケしいからでせう。日本家屋のある繪は屋根が灰色なために、西洋の赤い屋根を寫した繪のやうに色彩の派出さがありません。灰色の屋根は陰鬱な感じのするものですが、赤瓦の家よりも重々しい感じがすると思ひます。

米國の平民的住宅は大抵シングルで葺くのです。シングルは日本の枡そぎのやうなものです。しかし米國のは日本の様に木を刀でへいだものでなく、鋸で挽き割つたもので、一方が厚く一方が薄くなつて居ます。シングル葺へは防腐劑、クレオソート油の類を塗つて置くのが通例です。

日本の粉板で丁寧こけらばきに柿茸にしたのも面白いもので、西洋風の家によく似合ひます。瓦下地のやうに粗末にしては直きに雨がもりますから、粉を少し厚く作らせて茸くのです。防腐劑を時々塗つてよく氣を付ければ二十年位も保つでせう。

杉皮の柿茸も立派な外觀になります、杉皮の色も面白く、耐久力もあります、私の山奥の家は杉皮茸ですがもう二十年近くも保つて居ます。しかしこれは杉皮の多い地方でなければ、非常に高價な屋根になるでせう。

私の地方の百姓家などは、杉皮で茸いて其上に丸石を澤山載せてあるのです。私の今居る地方では一番安價に、素人が雑作なく茸き得る屋根です。私はその感じは見慣れて居るためか、悪くはないと思ひます。西洋風住家でも、郊外へ極めて簡易に建てるならば、此の屋根を應用したら面白いと思ひます。

藁茸カントリーコートきは西洋建築に似合ひます、殊に、田舎カントリーコート家などには宜いものです。英國の田舎などでは今でも、藁茸カントリーコートの家が澤山あります。經濟とか耐久とかの考へでなく、趣味として藁茸カントリーコートの家を持つて見たいと思ひます。

粉茸ポウダの屋根の上に貝殻や砂利を一面に並べたのも小さい家の屋根に試みるのも面白いでせう。

けれども火の用心のために、また時々茸替へる手数を省くためには木の皮や粉や藁などの屋根の風雅なのを棄てねばならぬことになります。

木造建築の骨組のことは前に申しましたが、其の外壁は何を張るか、如何に仕上げるかについて、もう少し考へて見ねばなりません、西洋建と云はゞ、板を横に張つて下見張り云ふのへ、ペンキを塗つたのに限るやうに、一般に考へられて、今でも木造洋館と云へば必ずそれを聯想するでせう。ペンキ塗りの板張りは中々費用がかゝりま
す、板が高價でそして、ペイントが高價です。そしてあまり見榮えもしません。

米國の住宅は外壁を^{*}シングルで張つたのが多いやうです。屋根を葺くやうにして壁を葺くのです。シングルは日本の粉より厚く大きいから壁にしても見好いのです。私は杉皮をシングル位の形ちに切り、表面を滑かに削り荒皮を去つてそれで、壁を葺きました、栗色で光澤があり、遠方から見ると杉皮が煉瓦の様に見えます。壽命も相當長いものです。六年程住んで其家を壊したのでしたが、まだ其杉皮の外壁はしつかりしたものでした。

* Shingle

淋しいところへ建てたと云つた、私の弟の家の外壁は、巾七寸計りの四分板を長さ二尺計りに切り、それでシングルを張る時のやうに、壁に下から、上の板を何寸か蔽



ひ被せつゝ張つたのでしたが、其出来上りは中々よく行きました、その板は鉋で削らずに、荒板のままにして、防腐劑を塗つたのです。茶褐色に染まつて落付いた色になりました。斯ふ云ふところを塗るために、^{*}シングルステインとか其他種々の名で賣りだして居るもの

* Shingle stain

が米國にあります。杉の板を削らずに、鋸目のまゝ横に下見張にしたり、または縦に目板を打つて張つてそれに木材防腐材を塗ると、荒木の木目が天鵞絨の様に美しく光ります。

背板、丸太を角材にしたり、板に挽いたりするとき出来る、一方皮のあるところが丸くなつて付いて居る板、それを、丸い方を外へ出して横に張つたなら、丸木小屋、¹ログキャビンの様な外觀になります。

木造の外壁を漆喰塗りにするのは割合安價に、外觀が中々立派に見えます。柱と間柱とへ直かに木摺を打付けて、砂交りの漆喰を塗り付けるのは、一番簡單で安價な法です。板張りやシングルよりも手数が要りません。漆喰の上塗りに砂の外に蠶豆位の大きさの砂礫を澤山交せて塗ると肉が厚くなり表面が荒くなり、面白いテクスチュアになります。

家の外壁の肌觸り、滑らかに又は荒いのはそれ／＼其の物建の目的と主義に依つて、どんなのが此家に一番適するかを深く考へねばなりません。家の或る場所が非常に滑かに仕上られて居る、或部分が極めて粗くされて居たら不調和な外觀のものになります。またこの荒いのと滑かなのとが巧みに調和されて氣持ちのよい場合もあります。大體に於て、肝要な場所、人のよく觸れるところは滑かな仕上げにし、大きな面は荒

く取扱つたらよいと思ひます。これは漆喰塗りの場合計りの事ではなく。石や煉瓦などのときでも同じ様に其表面に就て大に考へを廻らす可きです。

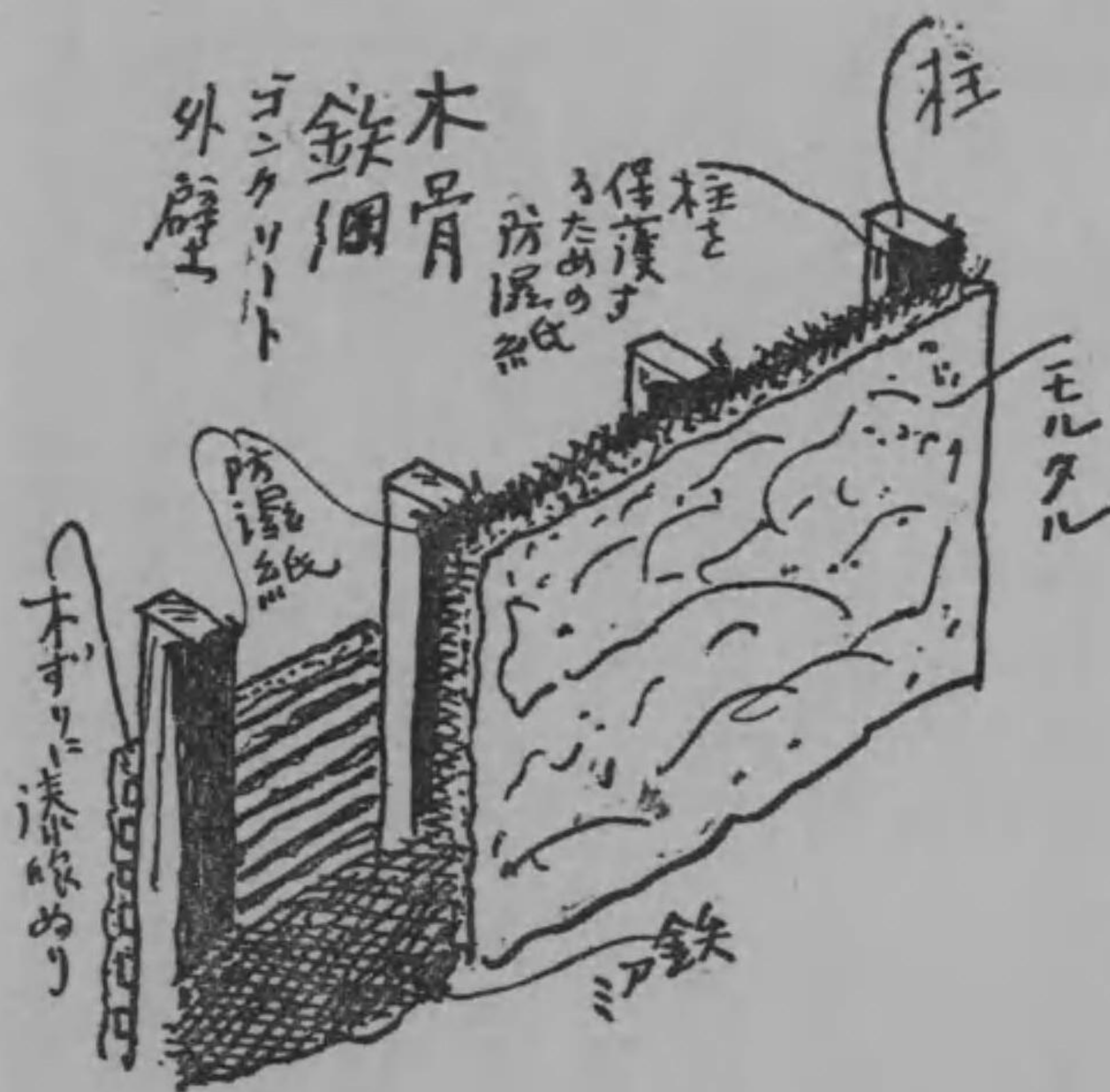
漆喰を打ち付けたら、鏝で凹凸ある面をわざと作つたり、たわしの様なもので突いたりして表面の塗り方の面白味を作らうとするならば大低いやな感じになります。塗るのに骨が折れるけれども、荒い面を作るには砂利の大きなものを交せた漆喰を何の細工することなしに塗り付けたのが一番いや味がありません。私の今居る家の外壁は全體が、その砂利交りの漆喰塗りで、つまり漆喰コンクリートでも云ふ可きものです。勿論この漆喰は出来る丈け丈夫にせねばなりません。私の云ふ漆喰は日本風の漆喰です。布海苔を濃く煮てそれに石灰と麻の筋(寸莎)を交せたものです、糊と筋を十分澤山入れねば丈夫になりません。

半分シングルか板張り(縦に張るか或は下見張りか)にして半分漆喰塗りにするのも氣の利いたものです。上部を塗つて下部を板にするのもあるし、下の方を漆喰やセメントで塗つて上部をシングルにするものもあります。

漆喰の中へセメントを交せると一層よく固ります。セメントと石灰を砂とを交せたモルタルで壁を塗るのは西洋の多くの木造の塗り方です。宜い材料を適當に交せてし

たら堅固なものが出来たります。

塗り方や塗る材料は種々です。建築家や職人と相談して、一番適當なものを選択したら宜いでせう。田舎などでは建築技師も無く職人も新しいことを試みるのを厭ふものから、自分が設計も監督もするのであるなら、私の前に云つた日本式漆喰へ、砂を交せて塗るのが一番安全です。



柱にちか木摺を打ち付けて其上に漆喰やセメントを塗ると雨水が幾分、殊にヒ

のあるときに滲に込み其湿めりで柱を腐らす惧があります。板張りの外壁であつても板と柱との間が湿つて朽ち易いものです。故に完全を望む建物であるならば、絶対に柱が朽ちず、湿氣が内部に侵入せぬやうに仕掛けをせねばなりません。それは木造の柱へ先づ板を張り付け壁一面に板張にするのです。その板も水平に張つたり或は斜に張つたりしますが、柱の間に十分筋違が丈夫に入つて居るなら、水平にしてよいのです。其板の上へタールを滲ませた紙、屋根葺の紙よりも薄い安價な、ビルディングペーパーと稱して賣つて居るものなど、その防湿紙を一面に釘付けにし、其上に縦に木舞のやうな細い木を一尺二三寸間に打付け、それへ木摺を打つて漆喰やモルタルを塗るか、板やシングルを張るのです。斯うすると、柱へちか板を張つたり木摺を打つたりしたのよりは、タールペーパー一重と板一重とが殖へ、それに下張りの板と仕上の壁との間に空隙が出来るのです、それ故壁が厚くなり、窓枠なども巾を廣くせねばなりません。

家の外壁全體にそれ丈の費用をかけて完全にするのは最初の金がかゝるけれど

* Building Paper

も、永久策から云へば、その値打は十分あります。

外壁は工夫すれば色々なことが出来、またこれまで各國のやり方も無数の種類があるのですが、あまりに奇抜のや、風雅振つたことをし、ファンシーに過ぐれば、後で直ぐ飽きが來ると思ひます。一時人の目を引いて珍らしく感ずることでも、それが眞に必要なから出た眞面目なものでないならば、それは永久に美しくは見えぬでせう。

柱を現した外壁も、英國のハーフチンバーの式にすれば面白いものですが、正直に太い材木で骨組を作り其間の壁を煉瓦を積み込むなどの仕事は経費が非常に嵩むが、金錢を厭はずにすれば宜いものが出来るでせう、然るに本當にハーフチンバーにするのでなく只其體裁だけにして、木の柱が壁から見へたところなど柱でなく柱形の板を壁の上へ打付けたのなどは、裝飾としても感心せず、不快なものです、殊に其柱形も配置を誤つて却つて家の形を悪くするものが多いのを東京邊の西洋館に時々見ます。

關西の日本家は外壁に柱や梁が出て居て、其間を土壁にし、白く漆喰の上塗をかけたのであるが多くあります。あの壁のやり方を西洋風の建物に應用したら面白いと思ひ

ます。我々の家は西洋式にしても西洋臭くするのが目的でないのですから、成る可く日本風を取り入れ得るところがあつたら、壁にも屋根にもまた内部にも應用したいのです。

窓も家の外觀を作る要素で、窓の作り方に依つて家の感じが餘程變化します。外觀に關する計りでなく。住み心地、不便、衛生などに關係すること多いのでありますから、窓に付いては研究す可きことが非常に多いのであります。外觀上一つの家の窓はどれもみなよく家に調和し、統一した様式のもでなければなりません。窓の開閉の仕方など場所に依つては一つの家でも異へねばならぬことが間々ありますが、それでもその窓ぶちなどの様式はどうしても統一させなければ不體裁です、勿論内部に面する額ぶちは其室々に應じて變化さして行かねばなりません、今云ふのは外部の統一です。

窓の構造に依り其種類をわけるなら大體、

一、揚げ下げ窓（分銅窓と云つて、硝子障子が重りの爲めに軽く上下してどこでも自由に止るやうにしたもの、又は金具で障子を止める様にしたもの其他種々あるけれども、みな障子が上下に動くもの、サツシウキンドウ¹）

二、外開き窓、（蝶双で窓ぶちへ取付けた開き戸で外向いて開くもの）（ケースメン²ト）。

三、内開き窓、（内部へ向つて開く、蝶双にて取付ける開きまど）

四、引違ひ窓、（日本の障子や戸の仕方を應用したもので左右に引違ひあけたてするもの）。

五、回轉窓、（換氣窓などによくしてある窓）

などが主なるものですが、其他に、壁の中へ障子を横に引込むものや、たてに落とし込んだり、下から上の壁の内へ揚げ込んだりするもの、汽車の窓のやうにしたもの、それから、窓の障子の上部に蝶番を付けて障子を平に外へ突き出して開くものなど、種々ありますけれども、普通住宅にはあまり不思議な仕掛を仕た窓よりも普通のもの

を用ひた方が宜いと思ひます。

窓は開いて室内に空気を入れ、光を迎へるためではありませんが、風雨の際には雨水が一滴も室内へ入らぬ様にし、寒い風が針程の穴から棒程になつて吹き込むことのないやうに、嚴重に締りが付かねばなりません。暴風雨の日や大吹雪の時に普通の日本家にある人々は雨戸を閉めて眞暗な室内に不快な氣持ちで居るのに、締りのよい、西洋風の家の窓を有つ人は、硝子越しに暴れ廻る天候を平氣でながめて、暖かく談笑して居られるのです。

上げ下げ窓は風雨を防ぐには一番宜いと思ひます。換氣のために窓を自由に加減して上下を適宜に開けることが出来て便利です。しかし窓全體を開け放つことが出来ません。窓の大きさの半分丈けしか開かぬわけです。廣く開け放つて多量に空氣を通はせたい人には少し窮窟に感じるでせう。

外開き窓だつたら窓の大きさ丈け皆な開きます。そして雨のしまりがよく付きます。障子の開き工合に依つて風を室内に誘ひ込んで來ることが出来ますから夏など工合が

宜しい。けれども風のために障子の硝子を破つたりすることがあります。尤も外開きの障子には必ず金物を取り付けて思ふ程開いたまゝ留つて居るやうにする可き筈です。

我國では、西洋建窓に使用す可き金物の工合の宜いものを求めることが六かしいのです。蝶番ひでも、錠でも、何の金物でも、弱かつたり、使ひ難かつたりします。製作者が其物を實際使用することなく、従つて何の同情もなかつたゞ金もうけのために或る型に似せて、其外觀計りの真似をしたものを拵へて供給する故に内地製の金物は實際使つて見ると必ず缺點があるのです。特に作らせたならまた非常に高價な代金を要求されます。舶來品を買はうとしても品物が來て居らず、あれば無法に高價です。私は建築金物をいつも米國へ注文します。小包で送らせれば注文してから二ヶ月目位に着します。

内開きの窓は煉瓦作りなどの、壁の厚い建物だつたら、内部へ開いた障子があまり邪魔にならぬが、木造の壁の薄く出來上つたのへ割合巾の廣い障子を付けたらば、障子が室の内へ突出して邪魔になります、そして内開きの窓は雨を防ぐに面倒な仕掛けを爲ねば、雨が隙間から吹込んで來ます。

引違ひ窓は日本の流儀で大工なども昔から慣れて居るし、蝶番ひや分銅などの金物が要らず、簡單に出來ます、雨のしまりに注意して十分な設備をすれば氣づかひありません。此種の窓は多く横に巾廣い窓になります、二枚障子の窓で引違ひにすると、窓を開けるとき、真中から開かず、兩方の端から開ける故、カーテンが邪魔になるので困ります。四枚入りの窓にしたら中央が開きます。此の窓も窓全體が開かず、半分はいつも障子が占領するのは、上げ下げ窓と同じことです、引違ひの障子を入れる窓は温室とかヴェランダなどに宜いでせう。

窓が床まで開いて居て、窓を開くとそこから自由に出入の出來る、フレンチウキン^{*}ドーは腰板を高く張つた硝子障子の扉が入つて多く内側へ開く様になつて居ます、室とヴェランダとの間、二階ならバルコニーへ出入するところへ、このフレンチウキン^{*}ドーを付けたら、そこから出入し得るから都合が宜しい。開くと廣々として、打開いた、日本室のやうな氣持ちがあるものです。

* French Window

このフレンチウインドーの代りに引違ひの硝子戸を入れたものも宜しい。私は自分の家に試みてありますが、少しその窓の大き過ぎた、め障子が弱さうで、而も硝子障子一枚きりで外にブラインドなど付けて居ないから暴風雨の時など風の壓力で少し障子が撓むで外づれさうになります。それでも凌いで居ります。

窓は必ずしもたてに長いもので無くてもかまひません、横巾の廣く、上下の短い窓も宜いものです。或る場所はたてに二三尺で横に七八尺もある窓を作ることもあります。窓の下の壁に書棚や食器棚を設け、または座席を作つたり、色々の變化あることが出来ます。開き窓は一つ一つはたてに長いものにせねばなりません、それを四つも五つも聯絡すると平たい窓が出来ます。

小さい窓を幾個も澤山付けるより、成る可く大きな窓を數少なくする方が家の形もよく、室内の感じも宜いのです。

窓に鐵の棒を格子に入れたり、金網の荒いのを張つたりしたのは牢屋の様な感じで、氣持が悪いです。泥棒を恐れる人はよくそんな仕掛けをします、おまけに煉瓦の

堀を高くし其上に硝子のかけを植へたりして却つて自分の家を牢屋の様にして、此中に泥棒ありと云ふ様なことにするのです。

窓の上に回轉窓を付けて空氣の流通をはかると云ふ様なことは、衛生上必要の様であるが、實際あまり要らないと思ひます。窓の構造を面倒にすれば雨が滲み込む機會を與へることになります。それよりは窓を大きくして置けば、空氣は窓を閉めて居ても隙目から自然に流通します。個人の住宅では特に換氣法の必要な程一室に多人數詰め込む必要もなく、また一室に多數詰め込んで暮しては、回轉窓で空氣を流通さしたつて衛生によくありません。

窓が壁より突出して居る出窓、^{*}ベイウキンドウは、洋風建築に於ける最も趣きあるものゝ一つであります。ベイウキンドウあることに依り家の外觀が非常に賑かになり、樂しさうに見えます、大なる裝飾であります。室内の感じも、出窓のあるのは廣い氣持がすると同時に、打開いた、その出窓から、自然の恵み、善い眺めや心地よい空氣、暖かい日光を迎へ入るゝ分量が普通の窓よりも多いのであります。

* Bay-window

角形に出たのや丸形のや多角形のものなど色々あり、またそれが窓丈け出たのと、床と共に押出したものと種々あります。出窓丈け別に屋根を付けたもの、主家の屋根が葺下されて出窓に被さつたもの、色々難多な形式があつて、それが自由に最も適當に家に付けられたとき、家に一段其値打を揚げるのです。しかしこの様な、目に立つ、裝飾的な窓は、餘程つゝしんで付けねばなりません、一つの家には出窓を一つか二位より餘計に付けては失敗することが多いでせう。

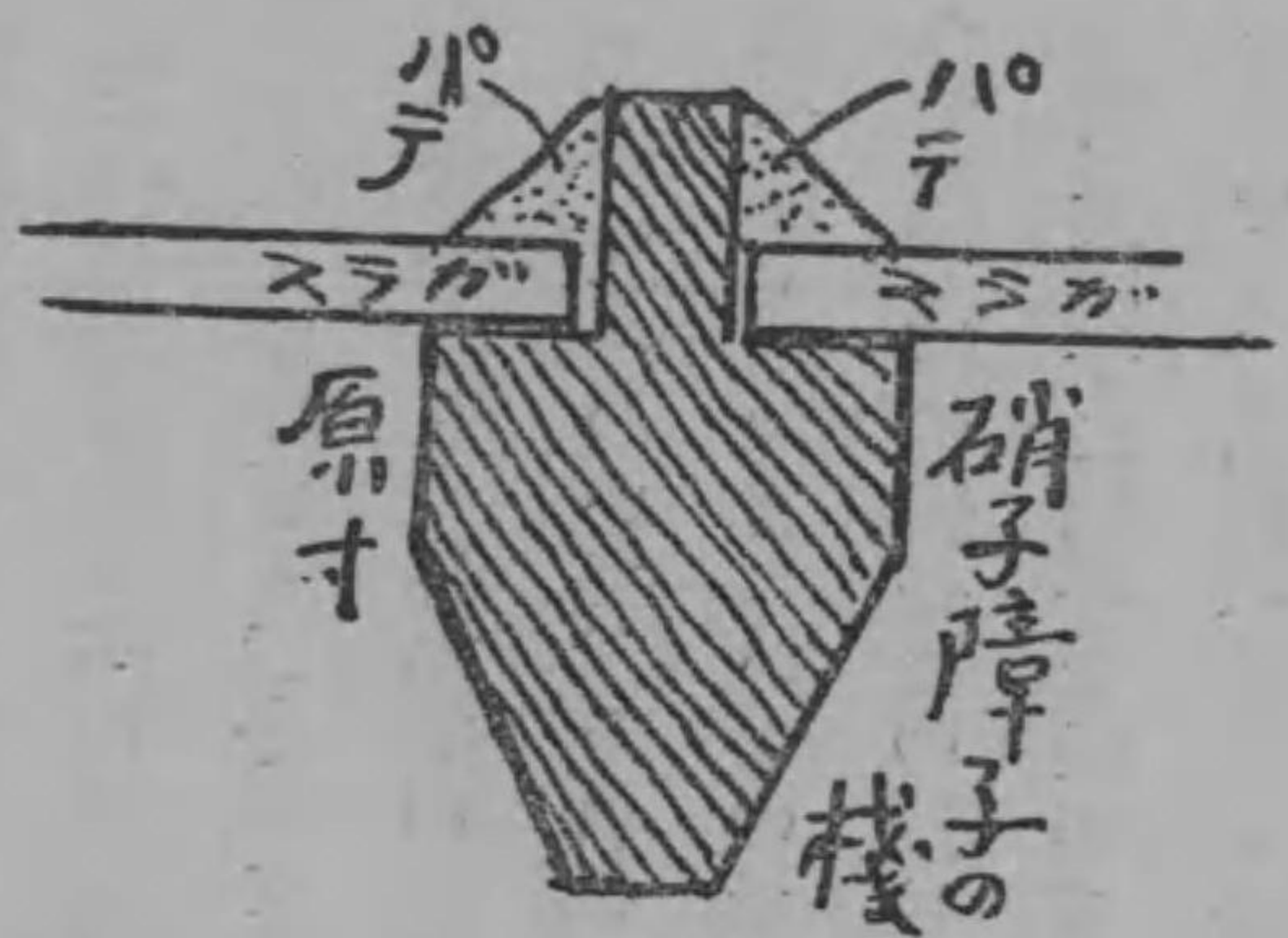
出窓は出た部分の面積はさ程廣くなくとも、その部分が室の能力を陪にすることがあります。私の家は食堂に出窓があります。床ごと出て居るのです。食堂の中央に食卓がありますが、出窓のところにはまた別に小さいテーブルや椅子が置かれて居て、食事の前後などその出窓のところの椅子に座して雑誌など見たり、食後のコーヒーなど啜りつゝ、談しなどするのに都合の宜いところになるのです、つまり出窓があるから、その食堂の一部が談話室や喫煙室の代りになるのであります、或は此の室を居間として用ふるときは、出窓のところへ食卓を置いて、そこを小食堂にすることが出来るのであります。

階下丈け出窓にするのと、二階も下も一しよに揃へて出窓にするのとあります、出窓は庭の廣いところに面して付けねば宜くありません。

窓の硝子障子は木の棧ので宜いでせう。鐵で作つたのや、鉛で硝子を仕切つたのや種々あるけれども、今のところでは木で作つて障子が一番安價で得安いでせう。木の硝子障子でも、日本家の硝子障子や、小學校などの建物の硫子障子のやうに、棧に溝（こあな）をついて、それに硝子を差し込んだものは、風が吹くとガタ／＼音がして、堪へ難くやかましいもので、溝と硝子との隙間から風が吹き込み、雨の水が内側へ入つて来て棧の組合せの所に滲み込み、そこを朽ちさせます。

硝子障子に硝子を嵌めるのはポテ^{*}詰めにするのが一番手軽く安全です。硝子の破れた時でも、取替へるのにでも、ポテを少し貯へて置くなら自分とでもそれを付けられます。ポテで完全に硝子を付けて置けば、雨水や風が吹き込んで來ず、ガタ／＼鳴ることありません。

硝子障子の棧は見付を極めて狭くし、見込み、奥行を出来るだけ深くしたら、棧が目ざわりにならず、而も丈夫に出来ます。普通の大きさの窓で、檜か櫓材で付るならば、棧の見付を五分乃至七分込にし、見込を框と同じ位にし内側はさるぼう面を取り、外方はしやくつて硝子がボテで嵌るやうにするのです。大概、硝子障子の棧は見付と見込を同じ位の角な棒にしたがるものですが、それは大變無恰好です。



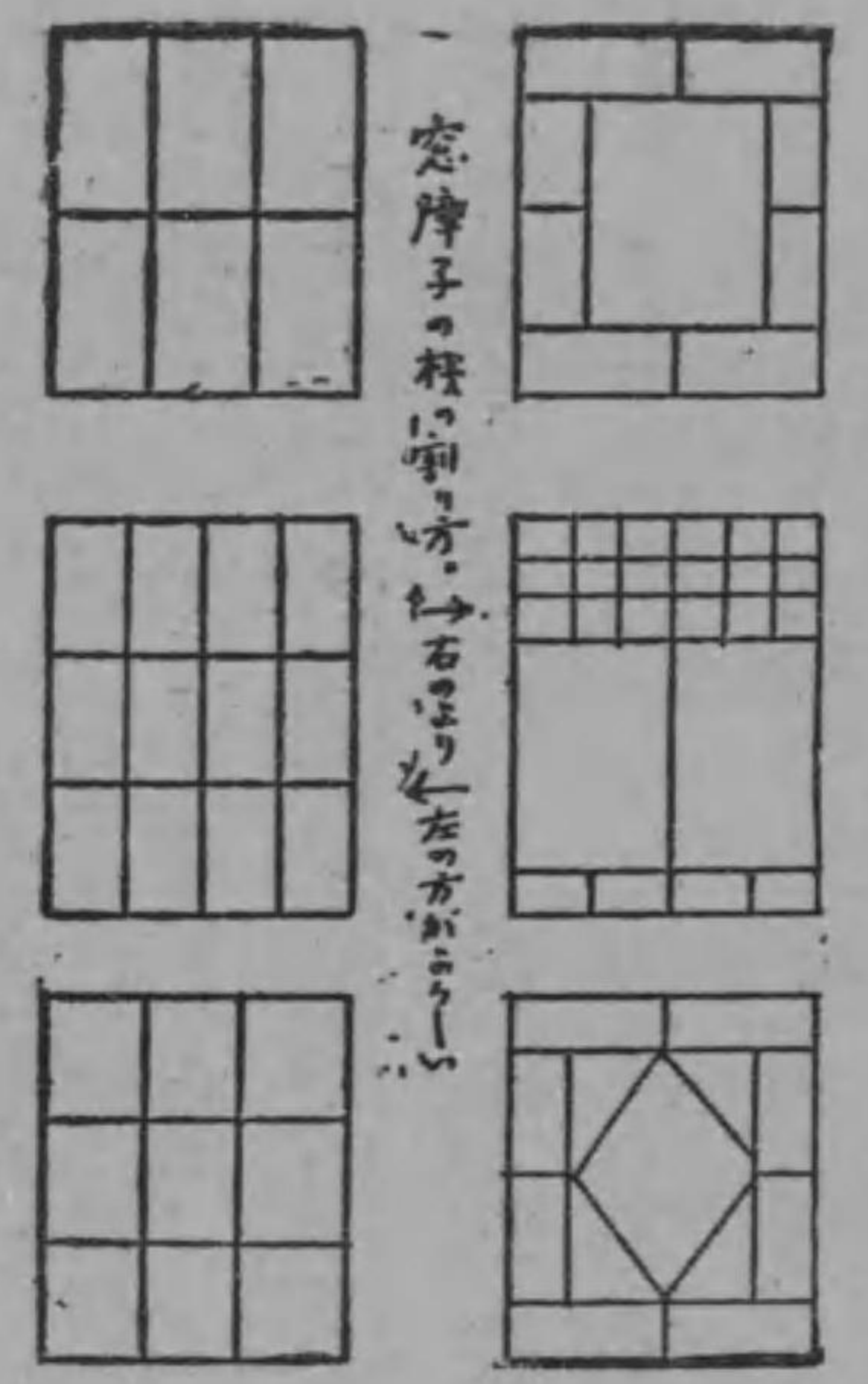
硝子障子の棧の割かた、即ち一枚の障子をどんな形に何枚の硝子を入れるかと云ふことに就いても餘程考へねばなりません。近頃洋館の新築されたものを見ると、體裁宜く氣のきいた面白い形にする考へであらう、色々込入つた障子の仕切り方をしたのを見ます。また色硝子や結晶硝子など取交せて入れてあるのなどを見ますが、氣取つたつもりのもは多く厭やな感じのするゴテ／＼した

ものです。

硝子は成る可く堅に長くなるやうにし、透明無色の硝子計りを用ふる様にし、變つた裝飾のものは出来るだけ用ひない方が宜しい、窓の裝飾としては硝子の變つたもの

を使はずに、カーテン、殊にレースカーテンなど用ひるのです。

上げ下げ障子で、例へば二尺五寸四方位の大きさのものならば、堅に三本横に一本の棧を入れたら宜いと思ひます、また上げ下げ窓の上の方の障子は、



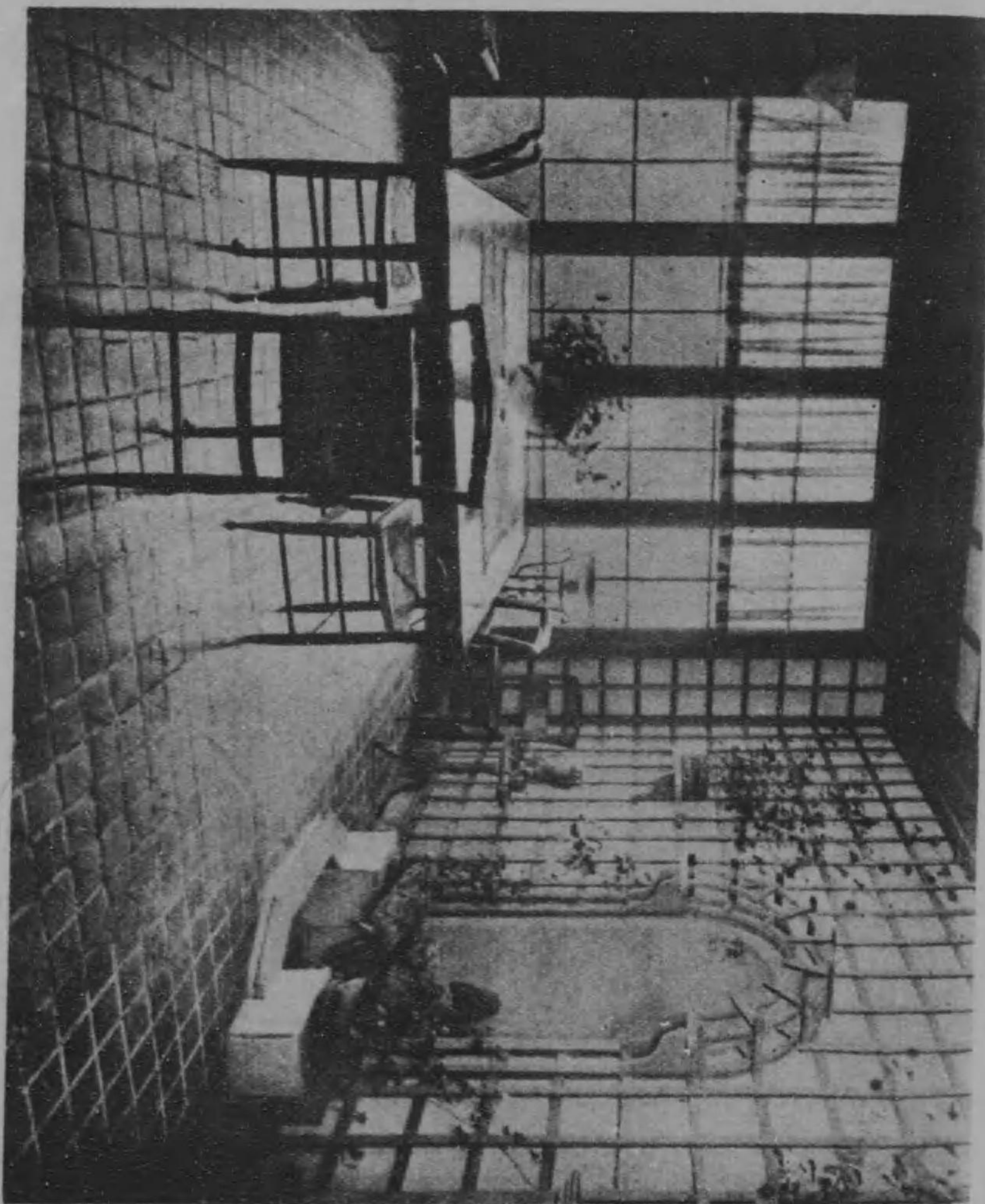
小さい硝子を数枚入れるやうに仕切り、下の方の障子は、大きな硝子一枚を入れるやうにすれば、外を見るのに棧が邪魔にならず、はれ／＼しく感じます、近頃は外開きの障子が多く用ひられ、多くそれは細長い、例へば一尺二三寸の中の高さ四尺位のもので、それが三つ四つ宛並べて一窓になるやうにしてあるのが多いのです。その障

子の硝子の割り方は竪に一本か二本かの棧を通し、横には成る可く、正方形に近い形に仕切れるやうに何本かの棧を入れるのです。

障子の格子は、大きな磨き硝子*プレートグラスなどを入れたものより、小さく仕切つた方が窓の外景色を眺める上に於ても美しく見へ、趣味に於ても一枚硝子などは宜くないと云ふ説を書いてあるのを見ましたが、少し開け放ちの感があるけれども、大きな一枚硝子の窓にはまた特別の味があるものです。

窓の高さは同じ高さに並んで居なければ外から見苦しいものです、或る窓は高く或る窓は低いところに、または或る窓は細長く、或る窓は平たいものを、無茶に付けたなら、家の外觀がすつかり壊れて了ひます。二階と下との窓は同一垂直線上に重つて居るやうにせねばなりませんのみならず、窓の中もなる可く揃つて居る方が無難です。

窓の外に、硝子障子の外に、木の戸を付けるなら風雨に對し耐抗する力が殖へるわけになります、そして保温がよく出来て、冬の夜など暖かです。古風な家は大低付い



硝子障子の入りたがーナ、プレートグラス、ガラスの障子の入りたがーナ、ガラスの障子の入りたがーナ、ガラスの障子の入りたがーナ。

て居るやうですが、今の新しい設計のものには木の扉が付いてなく、硝子丈けのものが多いのです。私の居る家も硝子丈けですが、暴風にも、盗人の侵入にも相當に堪へ得るのであります。窓の外へ付ける木の戸は蝶番てうつがいで外へ開き、常に外壁に付いて止つて



居る様にします。鎧戸になつたものと、たゞ一面に板のものがあります。外開きの硝子障子を入れた窓へは、木の戸を其へ付けることは出来ません。木の戸を硝子の内側へ付け、内側へ向かつて開き、開いたときは窓枠の化粧板になる様にしたのもありま

すが、それは壁の厚い煉瓦作りか、石造かでなければ宜くありません。

暖爐の構造についてくはしく研究して見たいのですが、一寸簡単に説明し難いから、暖爐を築く細かい方法は略して置きます。普通のファイアブレースは只、熱の副射のみで温めるので、ストーヴの様に空気を熱しないのですから、燃料の割合に室が温まりません。塗込暖爐として、出来合品を賣つて居るのも色々ありますが、私は思ふのに普通のファイアブレースのやうに裸火が見へて、而もストーヴの様に爐の後の方が鐵で出来て居て、空気を熱し、其空氣が室内へ流れるやうにしたものが宜い。さう云ふ風な暖爐の色々な種類が西洋にはありますが、自分で工風して、ストーヴをファイアブレースへ付けたら面白いでせう。

暖爐の煙道は家の外觀に對して大に關係があります。それは煙突が高く屋根から突出し、或は煙道が外壁に沿うて出づ張るところがあるからです。煙道は。どうしても厚く煉瓦で積み上げねばなりません。土管や鐵の管を用ひた場合でも、其廻りを煉瓦

で積みねばなりません。木造の壁の間へ、土管や鐵管を裸で通すのは實に火が危いのです。

ファイアブレースでなく、鐵の置ストーヴを据へて、そこから鐵板の煙突を壁に穴を開けて突出したものを西洋館の暖爐だと思ふ人が多いのは、日本の學校や兵舎や官署などの一時間に合せの構造が、俗に西洋風の建物だと思はれて居るからです。

私の兩親が同時に死に、私も大負傷をしたのは、私が子供のとき名古屋に於て、大地震に遇ひ、丁度私共の行つて居た西洋風の建物——多分ミツシヨンスクールだったらうと記憶する——の煙突の煉瓦が、高い屋根から碎けて落ちて來たゝめたつたので。丁度、出入口の扉に當るところの眞上の屋根に煙突が出て居たゝめ逃げ出す時にそれが落ちて來たのだらうと思ひます。斯う云ふことも注意す可きことではありませんか。

煙突は煙道を土管にして其外側を鐵筋コンクリートにして角形に築き上げると宜しい。外に煉瓦を現さねばならぬ時は、外側半枚積みにして煉瓦をつみ四隅に鐵棒を立

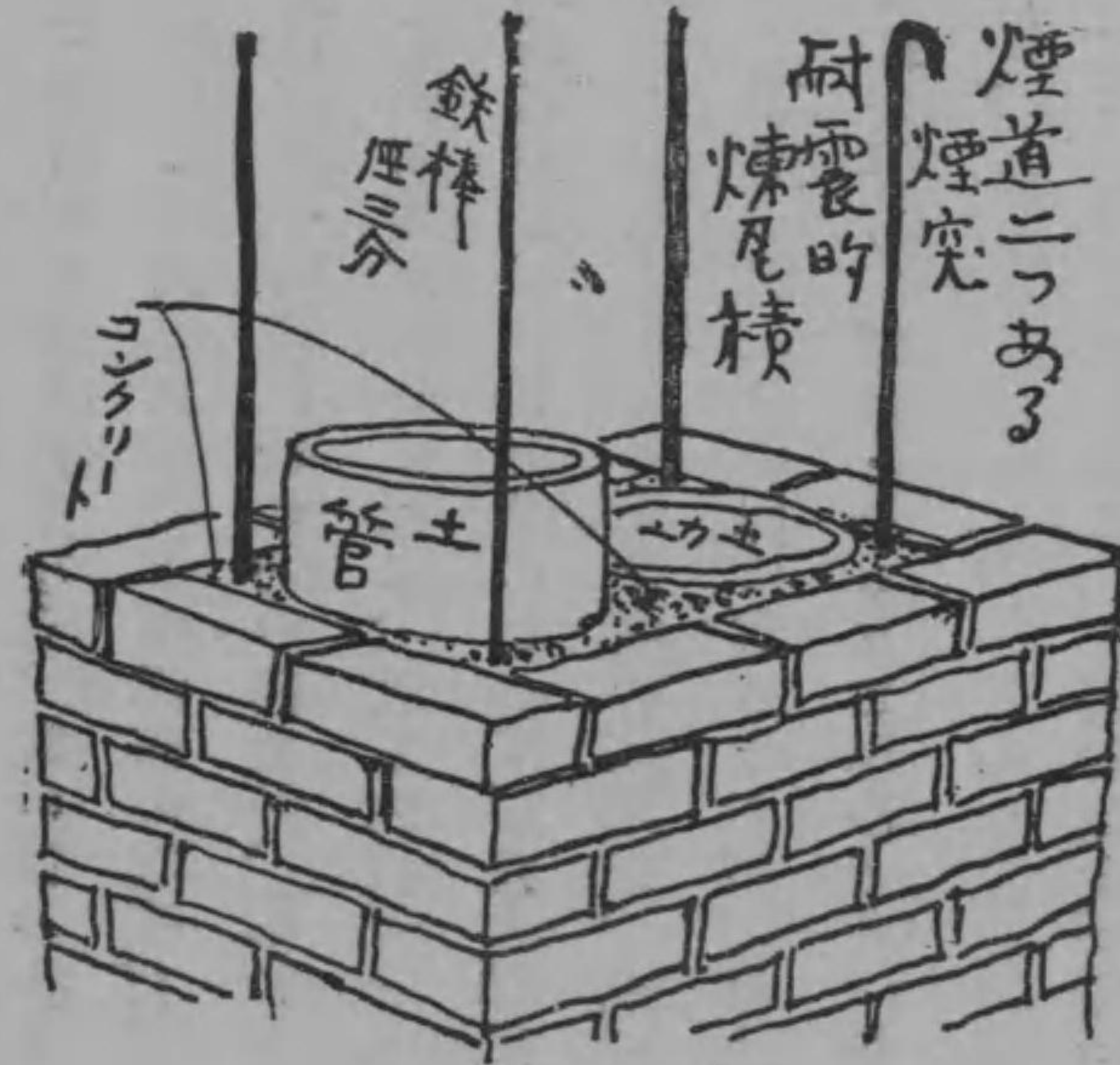
て煙道は徑八寸ばかりの土管にし、煉瓦と土管の間をコンクリートをつめつゝ上へ積

み上ると安價に耐震なものが出來ます。

ストーヴの煙突を鐵板で拵へたものは安價で、容易に出來ますから、何とか工夫して、不恰好なものでなく氣の利いた、多少裝飾的なものを拵へて、巧く家に取付けたらば面白いであらう、殊に小さい家、簡易な住家に適當であらうと思ひます。

軒は蛇腹で包むものだと思ふのは昔しの洋館の書を見たり、石造や煉瓦作りの

軒を見たりしてさう考へる人もあるやうです。蛇腹とか何とか、木造でも石造の家に外觀を似せやうとすることは不要なことで、木なら木、石なら石と、其本質を現はさ



ぬものはいくら立派に化粧してあつても、眞の立派さを有つて居ないのです。

木造家屋は軒が割合多く出て居て、たゞ極が日本家のやうな工合に現れて居るのが眞實でせう。極木を包むで見せないやうにしても、あつさりした遣り方で面白く出來るやうにしたいものです。漆喰の外壁などの家であつたら、軒端も、漆喰で塗り、日本の土藏作りのやうに、勿論、もつと氣の利いた意匠にしたら、火災の時、隣から燃へ遷るのを防ぐ効があるでせう。

パンガローなどはわざ／＼軒の極木の大きなものを裝飾的に屋根より突出したりしたのがあります。軒の出で居るのはおとなしい感じのするものです。

軒へは樋をかけねばなりません。日本家に用ひてある普通の樋を其まゝ洋風の住宅に用ひても少しも差支へなく、見苦しくもないと思ひます。日本風の樋か最も簡単に仕事をしたものが最も宜しい。上等なら銅板、普通なら亞鉛引の板であることは言はずもがなですが、家の様式に調和するやうに、或時は樋の半圓形を角にしたり、三角に

したり、また多少裝飾的に蛇腹にしたり、筒も同様に色々の意匠にすれば宜いのです。樋を軒端の裝飾として用ふる場合には腕金で受けるのでなく、軒端の裏板、または廣木舞の上へ直かに釘付けにし、其上へ屋根葺材料を被せる様にするのです。

家の外観の細かい色々のことは、其の仕様が無限ですから、色々の建築物や、繪圖や寫眞をよく見て研究し、どこはどんなにして居るか、あれはどうか云ふ工合にこれに合わせるかなど、一々調べて行く中に、知らず／＼建築上の見識が出来て来るのです。

西洋音楽なんかでも、日本製の曲はどこかに捉はれた、不味いところがあるやうに思はれます。建築も音楽に類したものの故か、日本出来の意匠には、面白い、奇抜な、大膽で、そして眞面目なものが無いやうです。だから参考にするものは西洋の建物でなければ仕方がありません。外國の建築に關する書物や難雜などは洋書店に種々來て居るから、建築をする前に、種々なものを見て、世界の最新、最善の研究の結果の發表されたものを深く研究して、間違つた、後で困るやうな建物を作ることのないやうにしたいものであります。

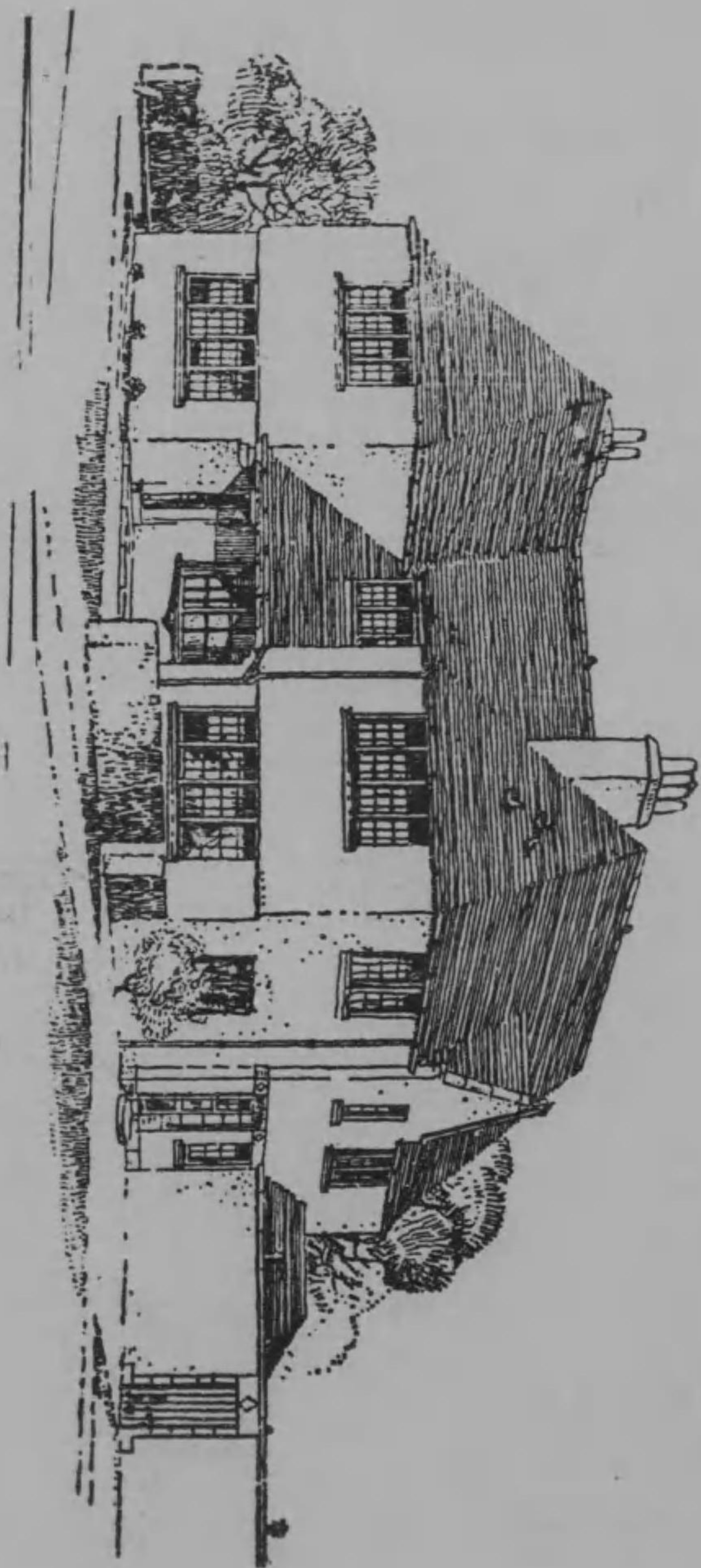
スタイル、様式と云ふことに就いて考へることは何事にでもあることですが、殊に建築に於いて多いやうです。分類して或る型の内へ嵌めようとする考へ方は現今の人々に深く滲み込んで居る習慣でせう。統一した調和のあるものであつたら何式と云ふ型に嵌る必要は少しも無い筈ですが、種々な様式を不統一に混合したものは醜いものですから、非常に美術的天分を有つた人以外は、大よそ何のスタイルにするかを定めた方が安全であります。

建築の様式は地理的に種々變化して居る様です。其土地の氣候、風や雨や雪の工合で相當に其れに對する構造が出来るのでせう。また其土地の産物に依り、木の多い所は木造多く、竹のある所は竹を多く用ひ、森林のない所は煉瓦を多く作ると云ふ工合に其の土地に出来るものを多く利用するのが自然其材料の性質に依つて形式の上にも變化するのでせう。なほ、山や川やさう云ふ風景の感化に依り知らず／＼の内に其の

風景に似合ふ様な建築の様式が出来ると云ふこともあるだらうと思ひます。

英國は割合北方の寒い國ですから、英國の住家の様式も寒い國に適したものであります。^{*} イングリッシュユコツテージと稱せられて英國風住家の様式が中々よく現代に於ても用ひられて居ます。英國風住家は質朴な、重味のある、品格のよい式だと思ひます。現今のイングリッシュユコツテージは大抵煉瓦作りで、煉瓦の壁に屋根の骨組で、瓦やスレート或は藁ぶきのも相當あるやうです。窓は一般に少し小さい方で外開き又は内開きのケースメントウキンドウのものが昔からの風であるやうですが、今は上げ下げのサッシウキンドウも澤山あるのです。屋根の勾配は割合強い方で屋根裏が室になつて居るのが多いのですから、外からは下階丈の壁が見へる丈けで直ちに屋根がかぶさつて居ますから、一階の様な感じで二階になつて居るわけです。古い英國風の家は一室に一つの窓しか無いのが多いのですが、現代は窓がだんく多く付くやうになつたと思ひます。柱形とか蛇腹とか持送りのやうなものを、不用であるに係らず、見せかけの爲めに喰付けるやうなことの無いのが此様式の卒直でいゝところと思ひます。

* English cottage



英 國 現 代 住 家

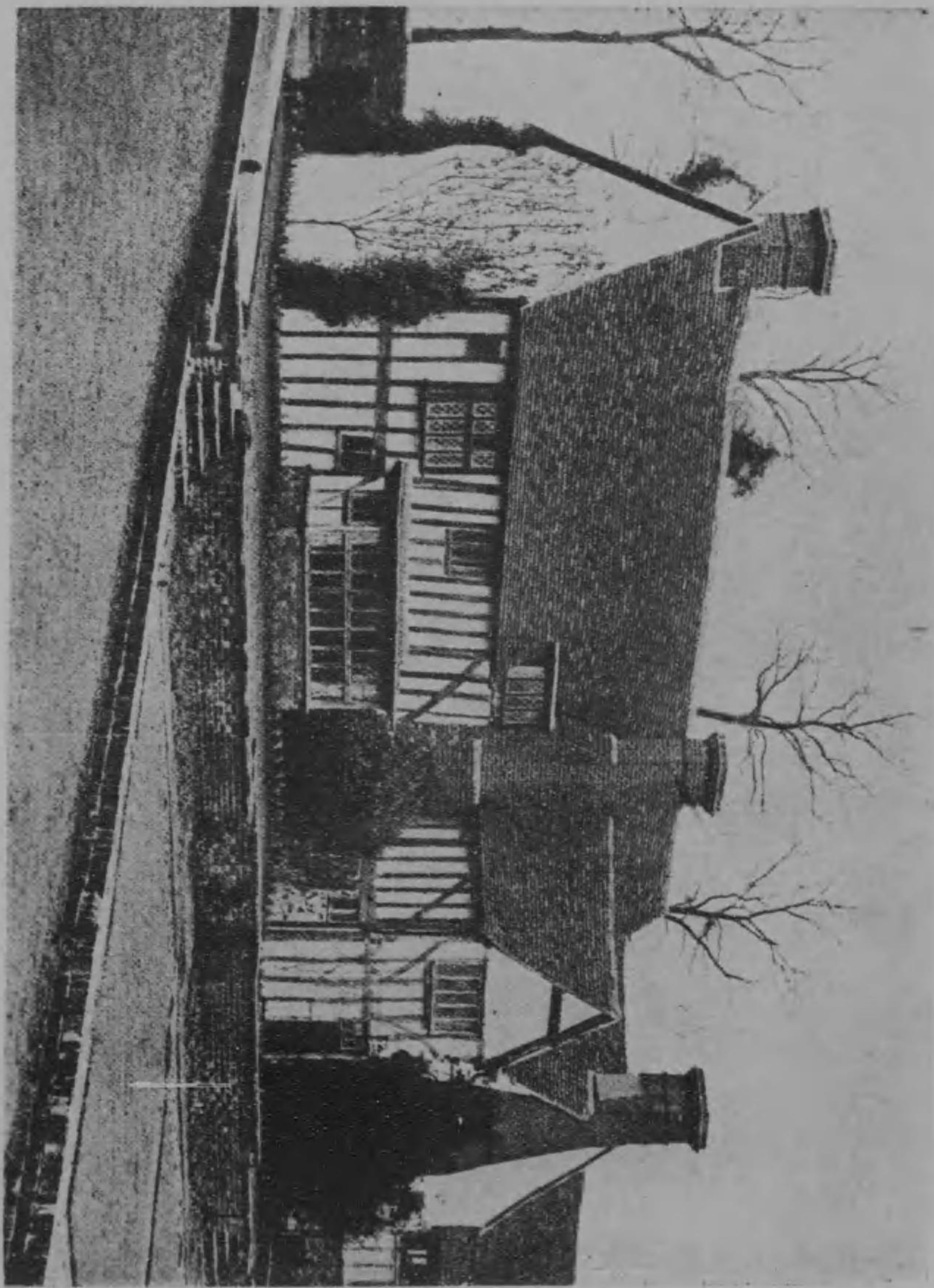
英國風の煉瓦或は石で作つたものゝ外に、昔から英國にあるハーフチンバーと云ふ、骨組は木材で組立て、木の柱と柱の間に煉瓦を積み込んだり、土を塗つたりしたものは、日本の様な地震國に適して居るでせう。現今日本の西洋館にも此のハーフチンバースタイルが多く出来て居ますが、その多くは柱の形を、後で板で作つて取付けた、化粧柱が多いやうです。ハーフチンバーの柱の配り工合も中々宜いのは見當りませんが、筋違柱を現したものは多く失敗して居るやうです。建築には筋違なものは成る可く現はさぬ方が宜いと思ひます。障子硝子などの棧でも格子にしたのは大抵悪くはないが、隅取りに仕切つたものは形のよくなるものではないです。ハーフチンバーの建物も成る可く本物の柱や梁を現して成る可く化粧柱でない様にして筋違を表はさぬ様にし、破風のところでも成る可く立てに柱を用ふる様にした方が宜いのです。化粧柱だと巾の広い板を打ち付けて太過ぎる柱形を作るなどして家の感じを悪くします。

ハーフチンバーの壁に柱や梁の現れて居るのは其れが裝飾のためになるのですが、裝飾のためだと思つて木材を裝飾的に現はさうとすると失敗するでせう。木材が其建

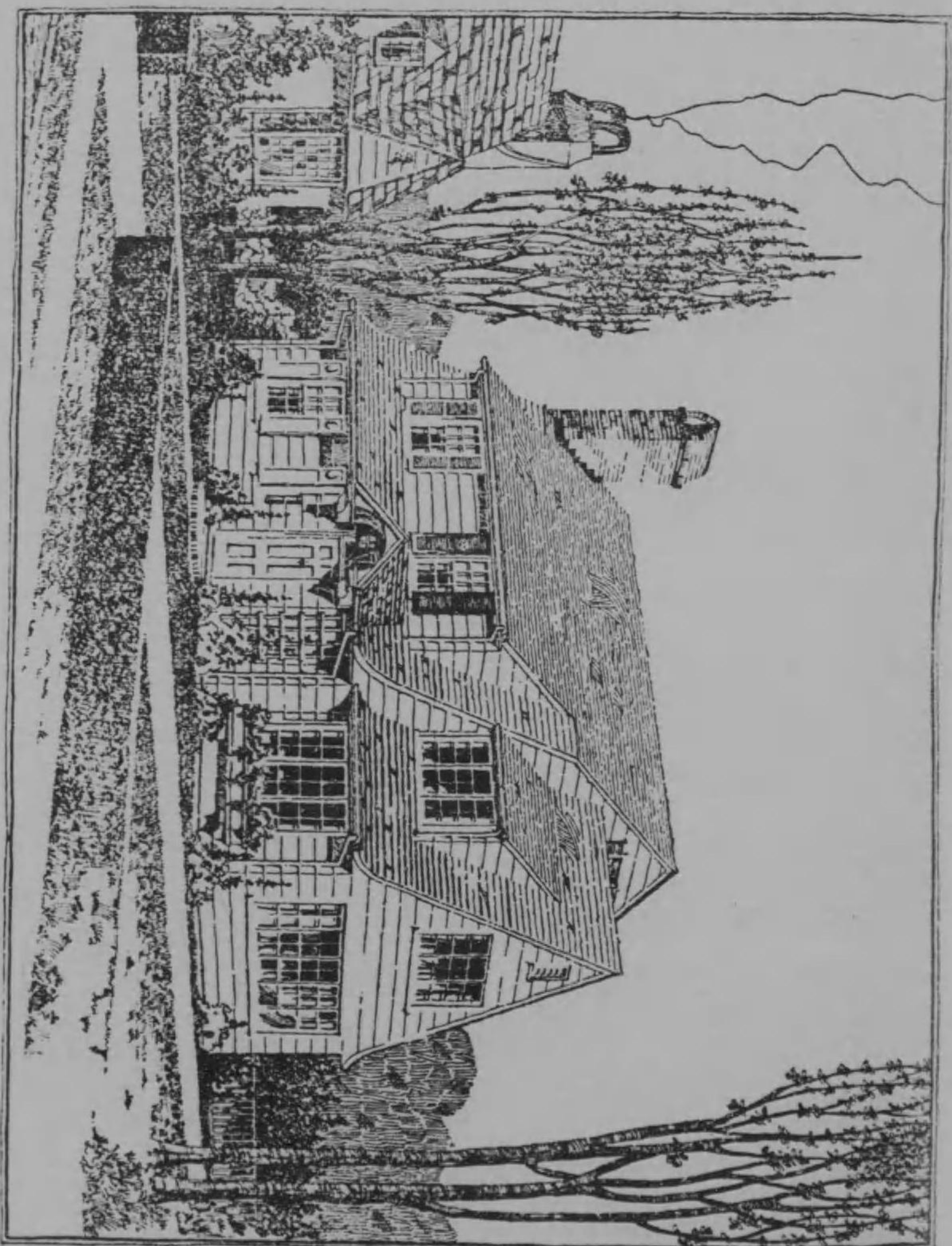
物のために必要なだけの丈夫さを以つて居て其組合せが其建物に適當な場合にのみ現れた木材が裝飾になるのだと思ひます。

コロニアルスタイルは米國植民時代の家の様式で、古風な米國の住家はコロニアルが多いのです、米國は木材が多かつたためせう。木造が多く、コロニアル建築は多く木造です。外壁は日本の西洋館にもよくある下見張（横板鎧張）のペンキ塗りで、柱形が付いて居り、ポーチに大きな丸柱などのあるやつです。日本の明治時代の建築の中で木造洋館はコロニアルにいくらか似て居るかと思ひます。此の式は眞面目な建築で、實用的で丈夫です、奇抜なものでないが費用が割合かゝります。

木造で我々が試みて見たいのはスキス風の家です。瑞西の田舎家は特殊な様式を有つて居り山國の建物として、自然に出來た宜い感じのするものです。建築物の様式は人間が作つたものでなく、自然に必要上永い年月の間に出來て來るのが眞正の様式であると思ひます。人間が一寸思ひ付いて、何々主義を主張して、其の式を流行らしたものは必ずいつか飽きが來るやうです、自然に出來た様式は、見て居るに従つて同情



英國で十六世紀頃建てられたハーナムの標本的な家



ノノ.コロ三ノ家外觀



の念が起ります。

スキスコツテージの特徴は屋根が大き
く、簡単にたゞ一つの棟で家全體を蔽ふ
て、軒が多く出て居り、破風にも一種の
形式があり、壁は丸木小屋式になつ居る
のです、どこにも不要の裝飾がなく、而
も家全體が調和した一つの置物になつて
居るので、近頃は間取りの工合や、生活
の複雑なために、スキス風の住宅も中々
大きなものが出来、窓や手摺や階段や椽
側などの組合せが中々複雑になつて、現
代人の賑やかな心にも合ふ様に思はれま
す。森の中とか、山國や山林の多い地方

などには此式の家を建てたら宜いと思ひます。

山國の住家には丸太小屋、ログキャビンが何の國でも自然に出来るものと見へますスキスコツテージはログキャビンから出たものですが、北歐の各國の山間の家、



文明の風に吹き倒されずに居る家は今でもログキャビンが多いらしいのです。近頃の新しい建築にも、此の風雅な丸太小屋を應用した設計がちよい／＼あるらしく、雜誌などに時々出て居ます。

ログキャビンの感じを出すのに普通の骨組の家の外壁に丸太の背板せいた（丸太を板に挽くときに出来る、一面が木の肌で丸くなつて居る板）を用ひ、丸味のある方を外面へ出して横に張れば丸木小屋に似たものになります。しかし眞正のログキャビンは眞正の丸太を井筒に組み上げて材木のすき間へ苔など詰めたものであります。

現代住家、モダンハウスと云ふ可きものは、昔しからの何國の何式と云ふのでなく、現代人の生活、現代の社會と經濟に適應したもので、英國にも佛國にも其れ／＼少し宛の相異があつても一種現代的な明るい文明の香いのするものがありますが、其中最も文明的に、新しい改良をドシ／＼やつて進んで居るのは米國の住宅建築だらうと思ひます。すべての文明的機械を應用し、新しい工夫を遠慮なく用ひ、光線とか空氣とかの衛生的な方面も非常に自由に改良して居るのです。一方から見ればあまり新らし過ぎて、傳統的の趣味がないと云ふ考へもあるでせうが、現代が要求するものを一つ一つ満足さしつゝ眞面目に改良した建築であるならば、それは現代が生んだ様式であるので悪くはないだらうと思ひます。しかし、俗な建築家が、物知り顔に色々な様式を取つて集めて無用の裝飾をしたり、無用の仕掛けをするのが多いから俗惡な建物も多いのでありませう。現代人が昔し風の建物の眞似をして其の通りの外觀を作つたり、昔風の裝飾を喰付けたりして風雅を求めやうとしたら却つて失敗するので

現代住宅の特徴は明るい感じ、窓が大きく澤山あること、外観が輕快であること、従つて重々しい材料や、裝飾を用ひないから、費用が少なく出來て居る、費用がかゝらぬ物は安つばく見へると云ふ惧れがあると思はれるが、實用的の費用を十分に掛け、不要なことに金を使つて居ないものには、また一種の尊敬す可き價值があるものです、現代式の住宅の善いものは、住居の安全と便利のためには十分の設備をし、費用を掛けては居るが、不要な裝飾、不經濟な見榮のためには、あまり金をかけず、丁度一ばいの費用をつかつて居るところに氣持らのよい感じを得られるのであります。

現代式の家、生活の快樂を得る設備の十分備はつた家の設計は、近頃澤山發行されて居る、西洋の住宅に關する書籍の圖を見るとよく分ります。洋書店へ行つて見れば建築の書物の中で現代的住宅のことを取扱つたものがいくらかもあるでせう。

現今の建築物の新らしく出來るものは、殆んどセセツションにかぶれて居るやうです。セセツションは奥匈國で初まつた近代式のもので、それが獨逸へ流行して行つて、終に全世界に流行つて行つたものの様です。セセツションは、たゞ無意味の流行

と云ふ丈けでなく、それには一つの主義、哲學が入つて居るやうです、セセツションの起る前のことを考へて見ると、それは英國のウキリヤムモリスなどの考へから出て居るらしいのです。つまり應用美術の美の根本義を經濟學的に考へて、人間の生活に最も便利な、邪魔にならぬ、心の休まるものが美しいものであり、善いものであるとして最も經濟的に最も人間生活に利便を與へるものは、最も美しいものであると云ふ様なわけです。單純の美、不用不純なもの、醜惡、と云ふ思想から出發したのがセセツションの原理となつたのでせうが、セセツションの角なものを多く用ひ、直線計り用ひて居るやうなのは、直線が人間の作るものとして便利であり、作り易いと云ふわけなのでせう。

何んでも、或る主義が出た時は、徹底した善い理論の上に立ち、尊敬す可きものであるが、それが流行し出して一般社會へ擴がると、妙に間違つた、初めのものよりは變に墮落したものになるのです。宗教などでよく解るのですが、一宗の開山は、そして其の宗派の初期は極めて、純粹な、立派なものでも、年を経て、社會的となるに従

つて悪るくなり不純になるやうです。

現今のセセツシヨンは歐洲でも大分變なものになつて來たことは、近着の外國の雜誌などの繪を見てもよく分ります。單純を求めて直線式にしたのが、今は直線的圖案の亂用となつて、目まぐるしい過^{オーバーデコレーション}裝飾となつて居ります。確信のない、據りどころのない、むやみやたらな自由や、自然のプリンシプルと人間の本性の要求を無視した、無茶苦茶の奇抜などは、一時の好奇心を誘ふ丈けで必ず後に不快なものとなるに違ひありません。殊に日本の現代建築物が、本當のセセツシヨンを解せず、其の上皮計り見て、角なものを喰付けるのを見るときに、なさけない猿の仕事だと悲しくなるのです。尙更私の心を苦めるものは、セセツシヨン式でない建物の一部へ、取つて付けたやうな、角形の裝飾をしたものです。まだく我々を怒らしむるものは、セセツシヨン風のものごと、アルヌーボー風の曲線裝飾とを半分／＼交せたものです。

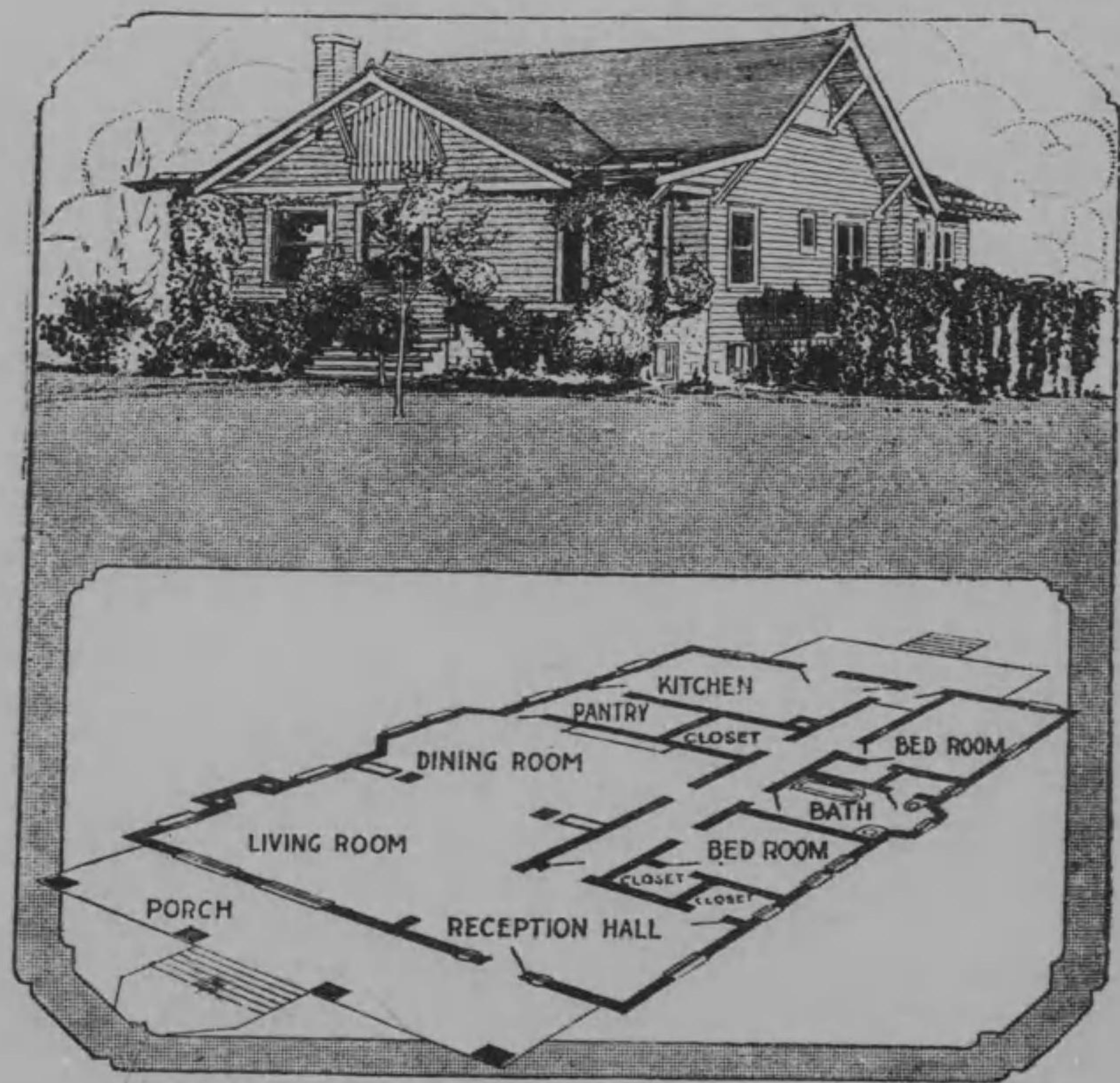
アルヌーボー、俗にヌーボーと稱するものはセセツシヨン式の流行する前に流行した、曲線を多く用ひた様式で、新藝術と云ふ意味なのだそう、多分佛蘭西から流

行し出したものです。その時分、何でも曲線は美の根本であり、曲線でなければ美でないなど云ふ思想が流行つたのでせう。料理屋の給仕女が皿をテーブルへ出すのにも色々の曲線を描いたものさうです。この曲線的藝術も、流行するに従つて、曲り過ぎてしまつて、不便で不經濟で不快なまでに曲線が亂用され、セセツシヨンに攻め敗ぶられたことになつたのです。しかし、今でも佛蘭西の内部裝飾などを見ると、幾分か曲線が多いやうです。椅子や卓子の意匠などにも曲つたところを多く用ひて居るやうです。曲線でも直線でも曲直混交でも、眞面目に、或る主義、信念に依つて、或は人間の正しい必要に従つて出たものは立派なものだと思ひます。

ミツシヨンスタイルは米國で出來た様式で、米國の殖民が漸々西部へ進んだときに宗教家も西へ移り住んで、そこで傳道するのに萬事不便な移住地で、自由に生活の用具を買求められないから、仕方なしに、人間の生活に必要な要件を満す丈けにして、何の遊戯的裝飾もない、素人でも出来る、單純な建築や家具を作つた、そのシンプリシチーが、此の様式の原理になつて居るのです。現代の思想が、無益な複雑に飽き、

單純を尙ぶ様になつてから、このミツシヨンスタイルが非常に用ひられたわけで、現今の米國の家具は殆んど、ミツシヨンスタイルのものと云ふ位になつて居るでせう。ミツシヨンスタイルは今日主に家具の形式になつて居るのですが、建築には、スバニツシミツシヨンと云ふのがあります、これも米國のカルホルニア南部で西班牙人のミツシヨンの建てた家の風をとつたものでせう。煉瓦又は木造等で、外は漆喰塗りにした、暖國向きの、一種、特別な味のある建築物です。

バンガローは平家の住宅として、そして安價に出来る、簡易生活に適して居ると云ふ點に於て、非常に流行して來ました。バンガローは元、印度の建物で、熱帶に適するやうに軒を深くし、椽側の多くある家を云ふので、印度の言葉なのでせう。ところが今流行して居るのは、米國のカリホルニアで起つたスタイルで印度の家計りでなく、日本の家の形式が非常に多く入つて居るのです。だから我々日本人の趣味に最もよく合ふ、我々が西洋風生活に入るのには、此のバンガローが一番よいものだと思います。第一安價に出来ることが日本人向きて、平家ひんやであつて開放した、自然生活が出来るの



種一うーマガンバ

も日本人向です。暖國向きにヴェランダが大きく、裝飾が單純であつて、必要のもの以外に金を掛けて外觀を飾る世話がないのも我々の氣に入ります。

我々日本人の將來の住宅は、大體生活の方式を西洋風にするのが一番便利ですが、我々の趣味は、矢張り我々の特殊なものがあつて、ごうにかして、其れが出て來るのだと思ひます。だから、今後の我々の西洋風は、西洋の無理解な模倣でもなく、純西洋風でもないものだと思ひます。

我々が住家を作るに當つても、我が國、我が地方の昔からの大工のやり方や、屋根の葺き方、建て具の作り方、間取りの工合などを色々參考にして、非常に不便で不經濟にならぬものならば、それを應用したいと思ひます。非科學的でも何んでも、何百年も經驗したやり方の内には必ず、其の土地の状態に適つたものがあるのだと思ひます。現今建てらるゝ別荘や料理屋などの日本建築は、あまりに技工が多くて、細工が多くて、面白くありません。丸木や、自然木など風雅ぶつて多く使つても、現今の都會の大工のやる様な風雅は、いやなものです。我々が日本の建築の特徴を見出して、

其れを應用するのだつたら、昔し風の田舎家、古い百姓家などの作り方を見るのが一番宜いと思ひます。そうして行けば、いや味のない和洋折衷が出来るでせう。しかし、今のところ、最も安全で、やり損そこなひの少ない、而も日本人の趣味に合ふのは、バンガロー式か、又は英國、米國などの、最近の住家の設計の内でもよいものを選び、其の通りに作ることです。西洋の有名な美術雑誌に出て居るものは大抵善い趣味のものです。却つて建築専門の書籍にあるものはいやなものが多いやうです。

家の骨組み、外部の構造など考へたら、其次に家の内部の構造、各室々の裝飾、家具の配置等に就て考へる番になります。家の外觀は多數の人に見られるけれども一寸軽く批評して過ぎるのですが。内部の配置、裝飾の宜し悪しは、家の持主を楽しませ或は不快ならしむることが多いのです。來客でも外部を見る時間よりも、内部を見る時間の方が長く、従つて其批評眼が内部に對してよく働くわけです。我々は庭へ出た時は多く外の景色や庭園の木などを見て居るのですが、室内では始終四方の壁や天井や家具が仕方なしに目に入つて來ます。

或る人が醫師に近頃どうも工合が悪いと訴へたが病源を探つても容易に分らぬ、其後、其の家族の者が皆な、變な病氣になつたので醫師が其患家へ行つて見たところ、其家の室内の壁紙が赤色のものであつた、それ故其壁紙を取り替へ綠色かなんか落付いた色のものにしたら、其の人々の病氣も治つたと云ふことを讀んだやうに記憶して

居ますが、室内に居れば、其室は全く我々の上下四方を取巻いて居るので、其室の感じが深く我々の心に關係するわけです。

住家は宮殿やホテルの様なものは異ひます、また私の取扱つて居る、楽しい生活のための家は、我々自身や、自分を訪問する親友などに見せびらかし、其立派さ、莊嚴さに驚くやうな仕掛をする必要がどこにありませう。我々の家は、毎日其處で愉快に暮し、訪問して來る友人を親しい心で迎へるためであるから、其の目的に叶ひ、且つ自分の趣味と品格が、相當に表れる様にせなければなりません。

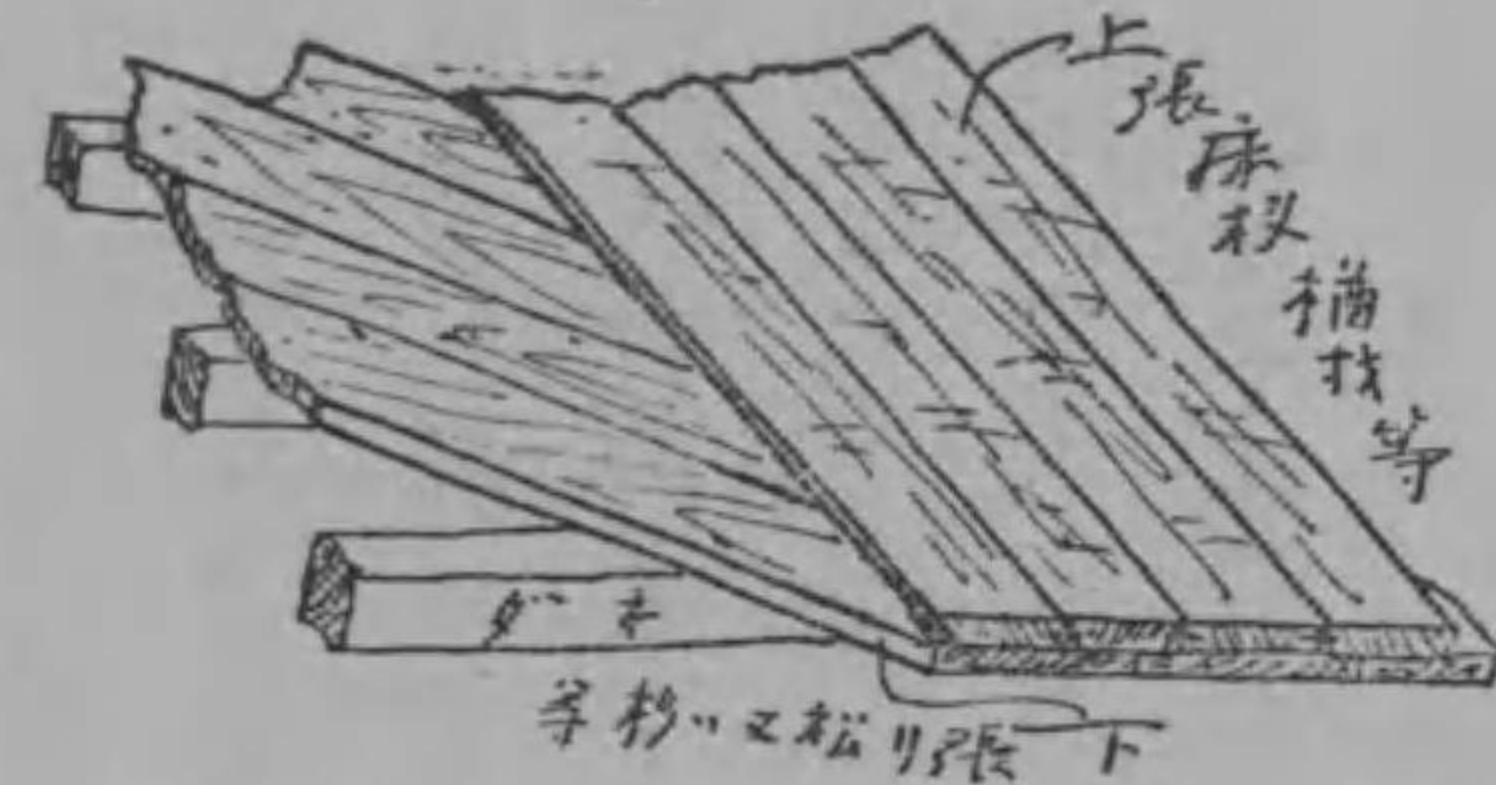
家庭的生活の諸要件のため、そこに住む人の自然的な、實用的な要件を果すことが内部裝飾に對しても根本であり、其要件を皆、都合よく配置したならば、屹度立派に美術的な室となるに違ひありません。彫刻をしたり、模様を付けたり、複雑な細工をしたりするのが美術であるところ考へるのは勿論大間違ひでせう。必要のもの、善い組合せが眞の美ではありますまいか、何の飾りもない、實用のためにのみ出來た器物を見て大變美しく心持ちよく感ずることがあるでは有りませんか。私は裝飾の第一義は、

最もよく實用の目的に叶ひ、心地よくそれが人の心に受け入れられると云ふことにあると思ひます。しかし、餘裕ある我々のエネルギーが遊戯的に、我々の感覺を樂ますために、非實用の裝飾を加へようとするのは決して悪いことでなく、それも人生の必要なことですが、其の遊戯が我々の生活を苦しくさせる程度、または、出來難いのに無理にするものであるならば、その苦痛は決して其れを美しく、快よくせぬでせう。

裝飾がどんな風であるかに依つて其の人の品格は定まるでせう。上品と云ふことは貪慾でないことを意味して居るやうです。色々の建築圖など見ると實に種々な裝飾の仕方があつて、其れを見るたびに、あんなにもして見たい、こんなにもと思ふのですがそれをよく節制して、眞にこれでなければと思ふものゝみを取り入れることにす可きでせう。

床を張る材料は、木が一番氣持ちよく、價も安くして一般的であります。木質は成る可く。栗や、なら、しをぢ、樺などの堅い木が宜しい。同じ堅木の内でも堅さが種々あり、其堅さに従つて工費も違ひます。床板は厚さ八分巾三寸内外のものを、あいじ

やくり、または、さねいれにして張るのです。巾の広い板で床を張れば木の乾くに從つて巾が縮み、板の間の隙が大きくなつていけません。長い床板を室の長さだけにし、継目なしに張れば上等ですが、短かいものを張るとき其の継目目が、一列に並んだら、恰好が悪く、目立ちます。斜にあじろに張ることも出来ません。



床は成る可く二重に張るのがいいのです。少し叮嚀に仕上げようとするれば、必ず二重張りにす可きです。二重床は温かいため計りでなく、工事をするのに先づ荒板の床を張つて置くのは工事進行上大なる便利です。善い美しい床は工事の終りにせねばなりません、仕上げの床が汚れるといけないからです。下張りの床は筋違に張り、上張りは室通りに張ると宜いのです。下の床は安價な木の板で八分位の厚さのものにし、上へ張る仕上床は三分位の厚さで宜いでせう、隠し釘にするか、略にすれば、頭のない、頭を平たく打ちびしやいだ釘で

表面から打付けるのです。

寄木の張床



カーペットを床一面に敷き詰めるのは現今住宅にあまり流行らないやうです、小さい敷物を所々へ敷いて、美しい木の床を見せた方が却つて安價に上るでせう。小さい板を色々に組合せて、寄木細工にし、あじろや、升形まきがたの模様を現す板は立派に見へるものです。寄木細工の板を作るには、先づ樅や杉の板などで下張りの床を張り、其上に小さく切つた板片を模様に合わせて膠で下張りの床へ粘着さすのです、その出来上りの表面を鉋で削つて平滑にするのです、木の色の異なつたものを組合せると色々の變化が出来ます。

寄木の床は、其の出来上りの美しい割合には費用のかゝらぬものです。田舎の大工などでも少し説明してやれば出来ます。勿論床にはあまり

込入つた模様は宜くありません。花や動物などの形の畫を寄木にするのは全く必要ない計りでなく面白くありません。寄木の組合せは成る可く簡單なものでなければなりません。

寄木の床は仕上げで蠟引をして磨くと、木目が交錯して居るから光を色々な反射して美しく見ゆるものですから、工事請負者など高價な請求をするかも知れませんが、私の経験では普通の床の上にリノリウムなど敷いたのよりは安價に上り、其立派さは比べものではありません。

廊下や、臺所や寢室等は普通に床を張り、應接室、食堂、または善い寢室には、寄木の床を用ひたらよいでせう。但し、簡素な家なら、客室と雖も寄木をせねばならぬことはありません却つて普通の床の方が宜いでせう。しかし、普通の床でも成る可く堅木にしたいものです。

木の床はすべて薄く色付けし、其上に蠟、白蠟やパラフィン蠟、又は床用に特に賣つて居る油類を引いて布切れや又は重りの付いたブラシなどで光澤の出るやうに磨か

ねばなりません。色付けは薄茶色に、染粉や、クロム酸などで、指物師がするやうに色付けをさせるのです、床に限らず、ごんなどころでも、木の部分の見へるところは、皆相當に色付けをして、蠟引をしたり、ニスやラツクを塗る可きものです、木其のまゝを、日本家のやうにして置くのはあまり裸の感じがしてよくありません。素木は非常に早く汚れ、汚れは容易に落ちないものです。私が以前に建てた家の扉が今でも物置に入れてあります。家はこぼたれ、其扉丈け塵まみれになつたり、雨に打たれたりしたことがあります。其れを取出して見ると、まだ新らしくして居ます。其れは全くニスを塗つてあつたからで、若し素木のまゝだつたら全く用に立たぬまでに朽ち果てゝ居るだらうと思ひます。

然し、床にニスを塗るのはよくありません。ニスは傷が付き易く、靴やスリッパなどで歩いて直に掻き傷が付きます。但しセルラツクを塗るのは差支へありません、普通の床は蠟や油で結構です。

床にはいつも蠟の氣がないと、塵が木目に入り床が汚くなります。靴のまゝ私の家

は二階迄も上るのですけれども、いつも床に蠟を引いて磨いてあるから床板が少しも泥まみれになりません。少し位靴に付いてあがる土も、掃除の時に掃き出されて、床はいつも光つて居るのです。

リノリウム敷の床は衛生的のやうに云はれて居ますが、リノリウムを床へ貼り付けても時々剥がれて巻上り、それを蹴り破つたり、継ぎ目などから塵が入つて床板と敷物との間に入つたりして宜くないものです。其價格も此頃は中々高いのですから、悪い木の床のあるところを急に使用せねばならぬやうな時にのみこれを使ふ位なものです。

火の用心のためにはセメントの床、又は敷瓦張りの床が宜しい。セメント塗りには安價に出来、塵が溜らず掃除に便利で、一番衛生的ですが、滑るのと冷たいのが缺點です。臺所などはセメントを平滑に塗つた床が宜いでせう。臺所の床は一段下げて、土間のやうにするのは西洋の住宅にはありません、みな他の床と同等の高さにしてゐるのです。殊に其下が地下室の時には、臺所の床を下げることは出来ません。セメン

ト床は木の床板を先づ仕上面より三寸計り下げて張り、コンクリートを流し込んで相當の厚さにし、其れが固つてから細かいセメントのモルタルで塗るのです。

タイルは床に用ふるのは上釉くすりのかゝつてない、素焼のものでなければなりません。

これもコンクリートの下地にして其上に張り付けるか、日本流のタ、キ土の下地の上へ張つても宜いでせう。

セメント塗りでも仕上げるときタイルを敷いたやうに筋を入れるのもあります。勿論、紅殻べにがらなどで色を付けたセメントを塗ることも出来るのです。

浴場、玄關の踏込庭、臺所、便所、喫煙室、ホール等はみなセメント塗りやタイル張りにしても宜いでせう。



床 平たい石を敷いた床

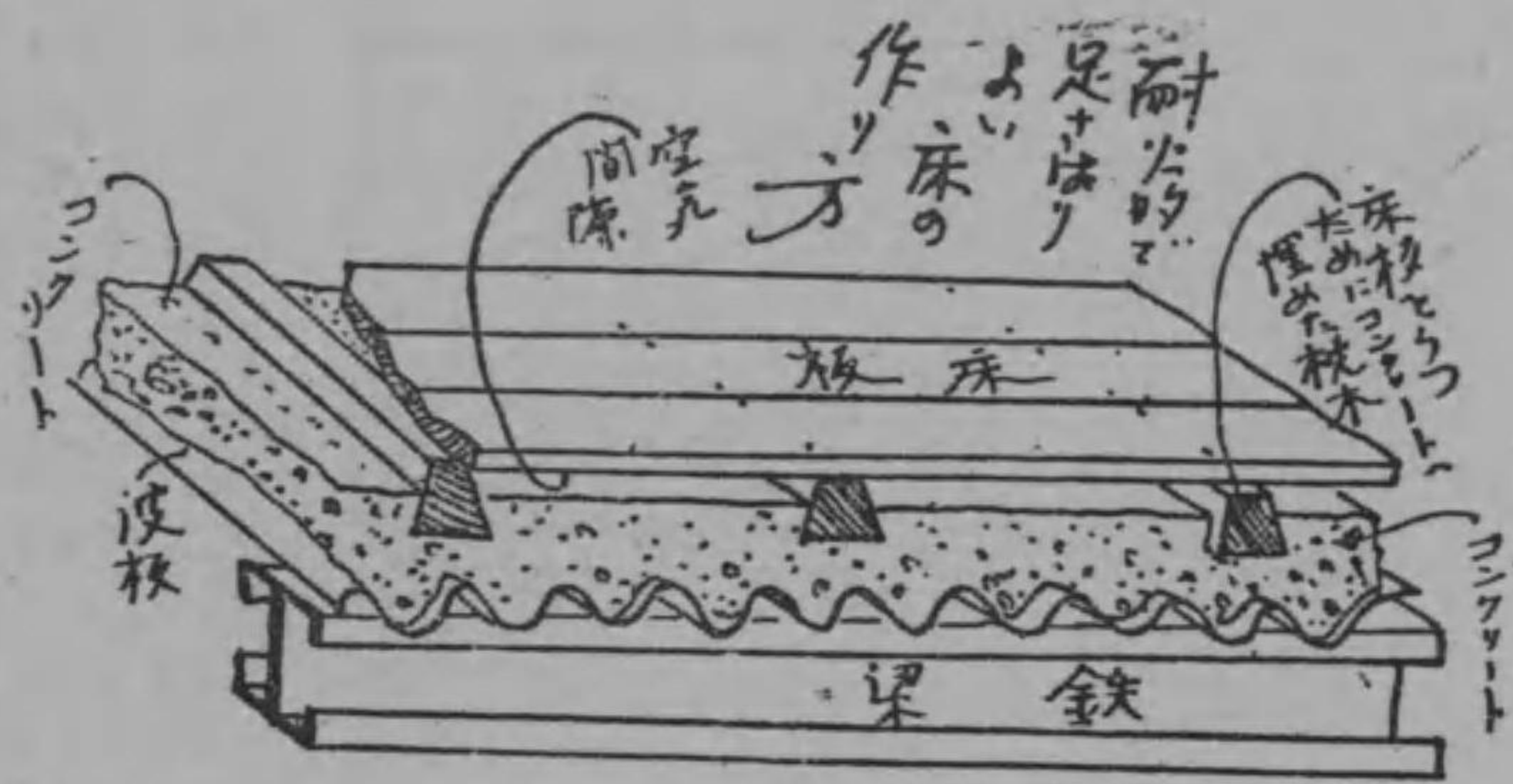
高燥な土地ならば、階下の室は、土の上に直ちに石を敷いた床も風雅です。デントかホール、ポーチなどに用ひて變化を有たしめることは宜いでせう。敷石は眞角に揃へなくとも、大小種々の形をしたものを寄せ集めたものも面白いのです。英國の田舎

なごに此の石の床のある家を見ました。

煉瓦を敷き並べた床、停車場のプラットホームなどによくしてあるやうにしたものも土間としての床、ポーチ、ヴェランダ、テレース等に適當です。

木で煉瓦のやうなものを作り、木口を上向けて並べたものを私は山奥の家に試みて見ました、入口の土間に使用したので、もう十年以上になるがまだ新らしくして居ます。材積が多く要り、費用もかゝりますからそんな山國でのみ適當でせう。

床は何と云つても堅木で張るのが一番氣持が宜いのですが、防火の點はセメント塗がよいのです、此の兩方を交せた仕方はセメント塗の上へ木を張り付けることで、それはどうするかと云へば、床の上へコンクリートを敷くときに、二尺位の間隔



で一吋角位の細長い木を並べて、木の上面とコンクリートの上面とが平等になる位に埋めて置くのです。セメントが固まつてから、其の木の上へ張る床板を釘付けにするのです。

室の内部の壁は日本風の土壁が宜いと思ひます。木摺りを打つて、其上に荒土を付け中塗、上塗りも純日本式にしても巧く出来ます。色砂を糊で練つたものや色土へ糊や砂を交せたもので塗るなど、種々な色と荒さ細かさ滑かさなど、佐官職と相談したら種々其土地の流儀の塗り方があつて、一番都合のよいものを選びます。日本流に土を付けた壁は温度を保つのと音響を防ぐために宜しいのです。木摺へ直ちに漆喰をしたのは自然、壁が薄く出来るわけで、土の厚く付いた壁は一見してドツシリした感があります。

壁は無地の方が宜いと思ひます、模様などのある壁紙にはいやなものが多いのです。室内は其室に必要なものを適當に配列したならば、壁が相當の大きさに區切られて、無地の壁でも 平たい、だゝつ広い面が現れるやうなことはないでせう。

壁紙の善いのは中々見付からぬものです。種々派出な美しい色彩のがあつても、壁へ張つて長く見て居ても飽きの來ぬものは少ないでせう。壁紙は張るのに手間が要り、上手に張る職人が少ないのです。壁紙は衛生的なものではありません。そして時々張替へねばならぬのです。

壁紙を張るのは、客間位のものでせう、婦人の室に宜いと思ひます。

衛生とか清潔とかのためには、拭いたり洗つたりすることの出来る壁なら宜いのですが、洗ふ程でなくとも拭く事に堪える壁を望むなら、白漆喰塗りの壁の上にペンキを塗ると宜しい、塵や煙のために汚れた時には石鹼水で拭けば綺麗に取れます。これは臺所の壁などに宜いのです。私の家の臺所の壁はペンキで塗りましたが、天井は漆喰のままにして置きました、天井が早や大分煤けて來たに係らず、壁はペンキで塗つてあるので新らしくして居ます。

タイル張の壁でよくしてあることで失敗して居るのはタイルの色を交せること、強烈な色のタイルを用ふることです。浴場などは無地の白にしなければなりません。

それからも一つの失敗はタイルをセメントで張り付けてタイルの間に一分以上の目地を付け、セメントの薄黒い筋が現れることです、殊に白のタイルの時は見苦しく、タイルを用ひた甲斐がありません。タイルは少しも隙目のない様に張り、目地の切れたところは白の石膏でつめるやうにせねばなりません。

浴場や便所など、水のかゝるところや、清潔のためによく洗はねばならぬところは、タイル張りにするのが一番理想的です。白無地の上薬のかゝつた陶器のタイルが適當です。タイルは腰壁丈を張り、上の方の壁は普通の漆喰塗りにすれば宜いのです、腰壁は床からの高さ三尺五寸位から、高くすれば五尺位まで宜しい。タイルは其價格も相當かゝり張付けの手間もすい分かゝるものですから、理想的ではあるが經濟上もつと安價な壁を望むならば、セメント塗りの腰壁にすれば宜しいのです。しかし、たゞのセメント塗りではあまり貧弱ですから、洗ひ出しにすると幾分體裁がよいのです、洗ひ出しはセメントに小豆位の砂を交せて塗つてから未だ乾かぬ中に水をかけて洗ふのです。洗ひ出しは表面がザラ／＼して其肌目に垢が溜つて、掃除し難い感

がありますから、それよりも少し手間と費用がかかるけれども、研出しにすると宜しい。研出しは誰れでも知つて居る通り、セメントに大理石の屑を交せて塗つて、固まつてから、砥石で磨き、表面を滑かにするのです。普通はセメントに黒い色を交せたりしますが、私は成る可く大理石(或は寒水石とも云ふ)を多く入れ、成る可く白く出来上る様にした方が好きです。貝殻など入れた研ぎ出しもありますが、いやに光つてよくありません。

大理石の板で腰壁を張るのは立派です。人造大理石などには感心するものはありません。裝飾としても直ちに其偽物たるを知らば却つて見るのに不快ですし、衛生耐久の方面から見ても浴場などに用ふるには水氣を吸ふ傾があつてよくないと思ふ。

板張りの壁は初めは清潔を保ち立派にも見へますが美しい善い板で張れば、すい分金がかゝります、板張りは板のすきが出来たり、そこから水が滲み込んだりして浴場など餘程注意して張らなければならず、其割合見榮えがしません。

浴場、便所等の腰壁を白木の板で張り、いつも清潔に磨いて居れば中々善いもので

すけれども、清潔を保つのに骨が折れますから矢張りペンキ塗りの方が得策でせう。

食堂は腰羽目を割合高く堅木で叮嚀に張り、色付をして蠟引か又はラック仕上げにするのが一番宜いと思ひます。腰羽目の高さが五尺乃至六尺位あるやうにして、其笠木、上の方の横になつた木を巾廣くして棚のやうにし、其上に裝飾に皿など立て掛ける様にするのです。其の棚



のやうな板は壁から三寸五分乃至五寸位ひ室の大きさ、腰羽目の高さに準じてよき程にきめるのです。

腰羽目の板、パネルは合せ板、ヴェニア板が一番宜しいと思ひます、普通の板はよくゝるひが來ます。腰羽目の匡の組方も色々あり、其の意匠が無限に多いのです。食堂は腰壁丈けでなく、壁の上の方まで一面に板で張つたのがあります。唐戸の様に適當の大きさのパネル(鏡板)を枠に嵌めたもので壁を蔽ふのです。壁全體をそんな

にしたのは立派ですが、室があまり重苦しく、陰氣で、費用が多くかゝり、私はあまりそれを好みません。

應接室、バーラーの腰張りは低い方が宜いでせう。全く腰羽目なしにして、たゞ巾木、壁の下の床に接するところに横に付ける板を少し大きく裝飾的にしたもの丈けにして、壁は美しい壁紙で裝飾しても宜いでせう。

寢室等の腰羽目に堅木でなく、杉のやうな柔らかい木の木目の面白い板で張れば宜い感じのするものです。柔らかい木にニスやラックを塗らずに、ゼラチンを薄く塗つて置く位にしたら柔らかな感じが宜いものです。

切れ地類、麻布、芭蕉布、バーラップなどを腰羽目にパネルとして張るのも中々面白いのです、

巾木とか腰羽目とかは壁を保護するため、椅子などの突當つて壁を壊さぬためのもので、荒く使用する室はそれを高くし、應接室や、客の寢室などは低くするのが適當でせう。

窓の額ぶち、扉の額ぶちなど、内部から見る方は、各室、其れ／＼其室に適當な意匠のものにせなければなりません。外面、屋外から見たときには外觀の統一上各室同一の形式にせなければならぬが、内部は色々に變つて居ても差支はありません。最も簡単な額縁は無地の板を無雜作に打付けたのから、種々のくりかたを付けたのや、彫刻をしたもの、屋形を付けたものなど、建築の圖繪を見ても千差萬別ですが、我々の住家には成る可く簡單なものが宜しい。殊に臺所などへ付ける額ぶちは最も單純なもので、垢の溜るところが無いものでなければなりません。多少裝飾を要する室、客室とか食堂などは其裝飾に相應して、目まぐるしくなく、骨折りが見へ過ぎぬ程度に於て裝飾的意匠を用ひねばなりません。

窓のこと丈け書いても十分に論じ研究すれば一冊の書物に入り切れない位、建築のことは考ふ可きことが豊富なのです。繪圖をよく研究するのが一番早分りです。

窓の障子のことは既に前に述べましたが、ステインドグラスのことを少し申すならば、それは餘り使はぬ方が無難だと思ひます。ステインドグラスの障子は、種々の色

の硝子を種々な形ちに切り、鉛のエの字形の切断面を有するものを硝子と硝子との間にして継ぎ合はせて色々の模様や繪を現したものですから、外から入る光線に透し見る時は、美麗な濃厚な色彩を發するので、従つて強く目を刺戟しますから、餘程宜い意匠のものなら宜いが、大抵は早く飽きの來るものだと思います。一つの家に一ヶ所か二ヶ所位、極めて遠慮して用ひたらよいでせう。階段の踊り場にある窓、イングルヌツクやデンなどにある小さい窓、浴室、化粧室の窓の一部などに用ひて見る位にして置いて下さい。

どの室にでも、壁の上部に横に細い木を打付け、日本の長押ながしの様なもので額なまなど釣るためにしたものを取付けることも要ります。また天井と壁と交る隅に、廻縁まはりぶちを取付けることもあります。長押の上から天井へ移るのを廻縁などで區切らずに丸く塗り廻したものもあります、天井の隅が出来ないで、掃除し易く氣持ちが宜いものです。

長押の上から天井迄の間に出來る横長い小壁がつまりフリーズです。それに種々の模様を付けるのもあり、風景の畫を描いたのやなんかもありますが、これも飽きの來ぬ善いものは中々無いものです。建築家の多くは、種々と意匠を加へることを知り、過ぎるほど加へる傾きが出ます。何の職でも、普通の才能は無用を加へます。小供の室などには色々動物とかお伽噺の繪を付けても面白いかと思ひますが、誠を云へば私はそれにも賛成しません。

建築物は壁畫や、派出な模様によつて、どうしても幾分か其の値打を落すことになると思ひます。繪は額にして掛け、模様は器物などに付けることに依つて、繪や模様の存在の権利が十分確保され、建築物に直接に繪や模様を付けなくとも宜いと思ひます。建築物は何時でも取替へられ得る額や器物に依つて十分賑かに裝飾され得可きものでせう。

天井は白の漆喰塗しつくぬりが一番明るく、費用もかゝらず仕上げがきれいにゆきます。板張りなどは板に費用がかゝり、其外にニスやペンキを塗らねばならず、板の天井は重い感じがします。立派な天井は板のパネルを入れた、格天井などにし、或は裝飾的の

梁を現したものとありますが、私共には立派過ぎます。

漆喰塗りにも種々あり、荒く粗雑に塗り上げた、平たい飾のないものや、細かく滑かに仕上げたのやそれに種々の意匠の紐や浮彫模様を付けたのなどありますが、すべて漆喰は糊と劫とを豊富に用ひるやうに嚴重に監督しなければなりません。劫や糊の少ないものは仕上げは却つて美しく出来るが、直ちにヒビが入つたりまたは剝れて落ちます。滑らかなきめの細かいものを塗るには紙劫を使つた漆喰で上塗りをかけねばなりません。簡単な、意義ある裝飾のために漆喰塗でした紐(モールディング)や花形を付けるのは宜いと思ひます。

紙張りの天井は、安價に出来上がったものは弱く、色々の缺點があります、雨漏りや鼠の小便が直ちに滲み付いて實に醜いかたを付けます。天氣の工合で紙は大變伸び縮みがあつて、雨の時にはたるみ、乾燥するときには張り裂けるなどのことでもあります。完全にしたらば、先づ丈夫な天井を張り、漆喰塗りなどにした後ちに、天井紙を巧く張れば宜いのですが費用が相當かゝります。

天井は白いのが明るくて一番よい様です。或はクリーム色を帯びさしても面白い柔かな感じになるでせう。私は漆喰塗りで、材料を善く忠實に塗つたものを經濟の點からも實用と感の點からも一番宜いと思ひます。

金屬打出し天井板、鐵や亞鉛板に模様を打出して天井張りの材料としたものは便利ですが、あまり安價でも無く、住宅向きとしてはあまり無風流です。あれは商店や事務所の天井に適して居るでせう。

天井に梁を現はすときは、それが天井の平面の單調を破つて、裝飾的效果を有つことになります。其の梁は單に無地のものであつたり、多少彫刻などで裝飾したのものもあります。實際の梁や根太が二階の床を支持するために在るのが見えて居るのでなく、單に裝飾として、板で箱を作り、偽せ物の梁を拵らへて天井へ喰付けるのもよくあります。それにも色々めんを取つたり、彫刻をしたりしたのがありますが、私は、本物の梁が現れて居る仕組の家で當然現はれて居るのでないならば、板で作つた偽せの梁など付けない方が宜いと思ひます。本物の梁や根太が見へるならば、それが少々

傷の付いた木でも破れ目があつても、天井としてあまり醜くはないと思ひます。斯うした、荒い木が天井へ現れた時は其木の間の天井を塗るのは荒い塗り方の漆喰で塗ればよく似合ひます。

木の竿縁を色々な組合せに取付けて天井の單調な平面を仕切るのは善い裝飾法であります。漆喰の白から木の細い棒がよく浮き出して善い効果が出ます。

天井の中央を漆喰塗りにして、廻りに縁を取つたやうに板の天井を張るのも面白いものが出来きます。板でなく、粉板を張り、或はそれをあじろに組んだものを張るなども變つて居ます。板のところと漆喰のところとの堺目は勿論竿縁で仕切つてある筈です。

格天井は太い頑丈な格子にするか細いあつさりしたのにするか、色々な組み方、種々の意匠、其れを其の室の調子に合わせて作るならば、中々立派で失敗の少ないものです。日本風の普通の天井もうまく取扱へばどうかと考へても見ましたが、立派な柱などを使つたものでも、西洋風の室には引立ちません。

室内裝飾には色々面白い考へが出たり、他所で見たり、繪で見たりした意匠を應用して見なくなつたりするものですが、無やみに善いと思ひ珍らしいと考へる意匠を交ぜたつて、少しも善いことはありません。似合ふと云ふことを考へて、種々の工夫があつてもそのため

は捨て去ることを惜む
ではなりません。

金を澤山かけたなら
自然、丈夫なしつかり
した感じのものが出
来、過重に至らぬ程度



の裝飾であるならば必ず失敗はないと云つても宜いのですが、私の考へは、金を惜ま
ずにと計りでは満足しないのです、少しの金で効果の多いやうにしたいのです。しか
し少しの金で外觀だけの効果を善くしようとするのには絶対に反對なのです、立派だ